

オリジナル

大泉総理と風子さん
下巻

作 岸塚 康子

非常に微妙な問題ですが、最初に結論を云ってから、私の主張を記します。まず、私は貴女が尊敬している彼の意見に賛同します。重要な事は時代背景をはっきり認識することです。いわば、私達は推理小説の結末を知っている存在です。本当は明日の身の振り方も分からないのに。過去の人であっても、その時は現代に生きていた人なのですから、そのことは肝に銘じて置くべきだと思います。世の中には知った風なことを云う人が多いですけど、その人の私生活を見るとスキャンダルを抱えていたりします。自分の頭の蠅も追えない、他人や過去に対して謙虚でないのは人の常だと思うからです。前置きが永くなりました。歴史的には昨日の事のような30年前の昭和40年後半にオイルショック・ニクソンショックがありました。この時、私達の親の世代はトイレットペーパーを買いあさりました。今の世代からみれば、どうしてトイレットペーパーなのだと思いますが、それでは、私達だったら私達の親の世代のような行動は取らなかったと言えるでしょうか。私はやはり当時の世相だったら同じような行動を取ったと思います。前述したのは、そういう理由からです。その世代の世相を正しく認識することが出来なければ分析は出来ないと思っています。秀子さんのご両親は、ご自分で調べて平和憲法だとの見解となったのでしょうか？恐らくは、多くの人が両親の両親とか、先生だとか友人だとか、平和憲法だといったことから平和憲法という認識をお持ちに成ったのだと思います。実際そうした経緯で平和憲法と認識する人が多くいます。政治的には社会主義・共産主義の人に多く見られる傾向です。嘘も百回尽くせば真実になるとい

う人がいますが、歴史解釈は風潮に惑わされると、子孫に禍根を残す事になりますので私も真剣に記します。まず時代背景ですが

昭和20年8月15日が終戦です。その3年も立たない内に

昭和23年1月26日帝銀事件。

そして国鉄にまつわる事件が重なるように発生します。

下山事件が24年1月 6日

三鷹事件が 同年7月15日

松川事件が 同年8月17日。しかし、真相は全て藪の中で全て迷宮入りです。

この頃まで、マッカーサーが最初にしたことは軍隊の解体、軍需産業の操業停止、戦争犯罪者の逮捕でした。そのためアメリカに不利な報道が出来ないように報道規制をしいていました。全ての報道はGHQの検閲を通らない限り報道することは出来なかった訳です。報道の規制は、真実の報道ではないという証明の裏返しです。

この頃から遡ること3年前、終戦1年後の昭和21年に日本国憲法の年譜を貼ってみましょう

昭和21年3月5日

憲法懇談会、「日本国憲法草案」発表（尾崎行雄・岩波茂雄・稲田正次ら）。

昭和21年10月7日

衆議院本会議にて、日本国憲法が可決、成立。

昭和21年10月29日

枢密院、憲法改正案（日本国憲法）可決。

昭和21年11月3日日本国憲法公布。翌年。昭和22年5月3日 施行となっています。つまり東京大空襲・広島原爆・長崎の原爆の半

年後に憲法懇談会が発足され何とその8ヶ月後にはできあがった憲法なのです。それならば、日本人の総意が本当にあったとしたら、6年前にも容易に出来た憲法だった筈です。そうであったなら日本人の太平洋戦争犠牲者三百万人はなかった数字ということになります。私は憲法第9条が世界に胸を張れる平和憲法かどうかには興味がありません。ただ、前記したように、食べるものも食べられない。

全てに報道規制がなされている最中に身体はどこを切っても敗戦と書かれた文字が出てくるような時に、戦争を考える人がいたとは思えません。居たのなら、それに対する抵抗勢力として戦争放棄を掲げる人がいても不思議はありません。組織は1があって2が現れるものです。1が全くない状態で2は産まれません。今日、只今をもってしても、自国の憲法が定まらない最大理由は、プロセスに無理があったと思うからです。材料も吟味しない、火加減も、塩加減もいい加減で美味しい料理が出来たことの無い私は、プロセスを無視した結論を良しと思えない人格です。世の中そんなに甘くないよという言葉が脳裏を過ぎります。

風子で

した。

風子様、いつもサイト拝見しています。風子さんのお話は学校でも大人からも聞いていない話ばかりですので、毎回楽しみにしています。ところで、国鉄にまつわる事件の頭に帝銀事件というものがありました。それと憲法の問題と、いったいどういう関わりがあるのか分かりません。風子先生が意味もなく帝銀事件を出すわけがないと思うのですが、夜も気になって眠れません。帝銀ってどこの銀行でどんな事件だったのですか。詳しく教えてください。

メーリングリストの会員 中学2年 北海道の利香子

帝銀とは正式には東京帝国銀行で後に三井銀行、太陽神戸三井銀行、さくら銀行、そして現在の三井住友銀行となる前身です。夜も眠れなくてははいけないので記します。前にも書こうと思った

のですが論旨がズレてもと考えて、省略したのです。でも帝銀事件を述べた方が分かりやすいかもしれないと考えて記します。

概要

1948年1月26日午後3時過ぎ、一人の男が東京帝国銀行椎名町支店に現れ、近くで集団赤痢が発生したとあって16人の行員を集め、予防薬と称する毒物を飲ませ、12人が死亡した事件。つづいて、他の銀行でも2件の未遂事件が発生。その際に犯人は「厚生省技官松井蔚」という名刺を残した。松井氏は実在の人物で、名刺を交換したものの捜査がすすめられた。捜査本部は、毒物に深い知識を持っていることに注目し、青酸毒物の人体実験をおこなっていた731部隊など旧陸軍関係者の捜査を進めたが、捜査は一転、毒物に知識も経験もない画家の平沢貞通氏を逮捕した。平沢氏は公判で無実を訴えたが、一審、二審とも死刑判決が出され、1955年5月7日に死刑が確定し平沢氏は再審を訴えつづけたが、1987年5月10日、刑を執行されないまま獄死した。享年95歳。

この帝銀事件は作家・松本清張が昭和34年に小説帝銀事件として発表しているのですが、小説と名うった事でフィクションと取られることを嫌った清張は日本の黒い霧と称したノンフィクション形式で再び帝銀事件を取り上げ、旧陸軍経験者という当初の捜査方針が、毒物の確定もされないまま平沢を犯人と断定するに至った経緯の裏には細菌戦争を研究していた731部隊を隠さなければならなかったGHQの存在を指摘せざるを得ないという結論を導き出しています。日本の黒い霧とは朝鮮戦争の1年前に発生する三鷹事件、下山事件、松川事件など鉄道関係の怪事件・大事件が全て迷宮入りである背後にアメリカ占領軍の政策変更や謀略と日本側の権力筋の強権が真相解明をおさえたのではないかというこ

とを多くの資料と独自の考察によって解明しようとした作品です

。

ところで、どうして731部隊に捜査の手は伸びなかったのか、それはGHQが731部隊を公表すると、今のロシア、当時のソ連から情報が欲しいと言われたときに隠せなくなることから、警察に圧力をかけて731部隊へ操作が行かないようにしました。この事から既に、この時期既に米国とソ連は冷戦状態であったことが伺えます。法務大臣が書類に署名して捺印するだけでしたので死刑執行は成されていい状態でしたが、どういう訳なのか歴代の法務大臣はそうしなかった訳です。

その結果、平沢貞通は100才に及ぶ年齢まで獄中生活39年を強いられたのです。その39年は毎朝、死刑執行されるかも知れない恐怖と地獄と戦慄の生きた心地等するはずもない日々の積み重ねの39年だった訳です。1964.04.に平沢を題材にした帝銀事件・死刑囚を製作した熊井 啓監督は作品の中で12人の殺害に及ぶメインのシーンを取ったさいに平沢の無実を確信したと語っています。青酸化合物を注入する際スポイトのようなピペットと呼ばれるものを使いますが、犯人役の人が上手くピペットを使うことが出来ません。最初は不器用な役者だと思って、変わらせてみたらその人も出来ません。代わる代わる俳優が変わって最期に熊井監督がやってみたのですがやはり出来ません。目の前にいる12人の視線の中でピペットを操るということは、毎日仕事で使って居る人間でしか出来ないと確信するのです。勿論、平沢が過去にピペットを使ったことはありませんでした。GHQの横やりが入らなければ犯人は明らかに確実に絞ることが出来たわけですから真犯人を捜すことは出来たと思います。私がいいたのは日本国の中の日

本人による犯行で、当時、新聞が取り上げる日がなかったことは無いほどの事件でも、GHQが認めないことから犯人を捜し出すことが出来なかった訳ですから、遡る3年前に作られた憲法にも勿論検閲はあったはずだということを云いたいために敢えて帝銀事件を出した訳です。

私は国が最も犯してはいけない事は、国が加害者となる戦死者・冤罪・自殺者をひとりも出してはいけないという精神だと思っています。帝銀事件の犯人は平沢である筈がないと強く思っている私は国が歪んでいると、何でもない善人な一般市民が死刑執行の恐怖に怯えながらの32年。日にちにして11,680日もの間、明日は刑執行かという恐怖の毎日を送ったという事実を忘れてはいけないと思います。

風子

私も風子さんのファンです。それで今回のお話には興味がありました。でも、一方でもう過ぎ去ったこと。過ぎ去ったことは無かった事と同じということではいけないのでしょうか。

中

学三年 男子 山沖でした。

誰にとっても、人生の出来事の中で無かったことに出来れば、どんなに幸せな事でしょう。

しかし、隠れてやって、誰も見ていないと思ってしたことでも、全て結果として現れます。むしろこっそり、誰にも分からないようにしたことの方が後々になって大きな問題に発展することがあります。そこが人生の辛いところです。現に日本は大部分のところで同じなのに一番重要な憲法解釈で真っ二つに別れています。戦後56年も経過するのにです。この長さは、みんなが知らない内に

やってしまおうとして、後々になって大きな問題に発展した典型的なものだと思います。

若いときだからこそ、過ぎ去っても無かったことには出来ない

と考えるようにして下さい。ひとつ例を出しましょう。オウム教の問題です。オウム信者にはエリートがかなり入っていたことで、ショックを受けました。どうして猪八戒の化身のような小父さんに彼らは魅せられたのでしょうか？

P S 私はオウムの良いところ取りのつまみ食いをしているところに着目しています。

ヨガ・仏教・キリスト教・ラマ教・イスラム教・ユダヤ教そして神道まで全部入っていました。だから全てが入っているオウムは本物だと思ったのでしょうか。ところが、外国人は布教のわりに少なくロシアの人が入っていた程度です。つまり全部入っているのは、出鱈目だということを見抜いた人は日本人ではなく外国人だったと云いたいわけです。歴史は繰り返します。天災と大きな人災は忘れた頃にやってきます。いずれオウムが忘れられたころに、第二の猪八戒が出現し、その時の若者が引っかからないという保障はありません。それどころか、より過激な行動に走るケースだって考えられる訳です。ですから、今起きている現象は全て、過去にその要因があることを知って下さい。だからこそ歴史の勉強は研究というジャンルに入れていく必要があります。縄文式・弥生式・戦国を知って明治までも知っているのに、現代が分からないと云う本末転倒現象が良い形で現れることはありません。山沖さんのような年代にこそ大いなる研鑽を望みたいと思っています。

風子でした。

風子さんは、うら若き女性なのに、どうして、太平洋戦争まで遊んでしまうのですか

もしかして、男の人に、もてないから、超、ヒマで、それとも、神風特攻隊のような昔の

男の人にあこがれているのですか。 小6の 桃子

>男の人に、もてないから、超、ヒマで――

こたえ

うん、分からないな。鏡に映った自分の顔を見て、美人ジャンと思うときもあるし、世界で一番のブスッて落ち込む事もあるから、でも、若い男の人には敬遠されるけど、小父さんあたりには結構持ててるよ。

>神風特攻隊のような昔の男の人にあこがれているのですか。――

こたえ

私ね、個人の幸せは沢山あるから、お任せることにして、みんなの幸せって何だろうと考えてみるの。そうしたら、やっぱり、日本人に産まれてきて良かったなあと、みんなが思えるし口にも出来ることだと思っています。でも今まで、日本人に産まれてきて良かったなんて聞いたことないでしょう。そこで考えてみて地球上には60億以上の人が間違いなくいるのね。そうすると1/60

1. 6% 1万人の中の16人 東京ドームの中を全人口に見立てると一杯で55000人だから、その中で880人しか日本人はいない計算。桃子ちゃんと同じ日本の女性となると440人。探すの大変だぞ。それでも、日本人なんてどうでもいいと思ってもいいけど、440人の一人になりたいと思ったら超大変だということを知って欲しいんです。

桃子ちゃんは大人になって外人の人とも友達になると思うけど、僕は○国に産まれたことを誇りに感じているから○国に尽くしたいという子と僕は×国に産まれたけど、戦争戦争でイヤにな

った。できれば日本人になりたいという友人のどちらに魅力を感じるかな。人間って自分は怠け者のくせに、他人が怠け者だと許せない生き物だと思うのね。

だけど、自分より置かれている境遇は遙かに悪いのに、自分より頑張っている人がいると、力を貸してあげたくなる生き物が又、人間だと思うの。だから、本当の平和というのは、他の国の人も自分の国に誇りをもって、もっと良くしたと思ってくれるといいなと思っているの。そういう人達が自分の国も誇りに思うから相手の国の誇りも分かり合いたいと思ったときに世界の子ども達が大人になれたときに手をつなげるといいなって思ってます。何も考えない子が、今日から大人。考えなくちゃあと思ってももう手遅れ、桃子ちゃんくらいの時から世界の子どもたちと手をつなげるようなことを考えてもらいたい。

今ね、日本人が日本人にプライドをもてなくて、アメリカのマネばかりしていることにお姉さんは危険なものを感じています。オゾン層の破壊・酸性雨・湯地球温暖化と云う現象は地球の悲鳴のように感じています。自由主義経済というのは、ゴミを出すことは気にしないで資源を使えるだけ使ってエンジョイしたい経済という側面があります。でも地球は実はそんなに丈夫なものではないことが分かってきました。人間の英知というものは限りある物を大切に生きていくことだと思っています。物を大切にしなさいという言葉は桃子ちゃんは聞いたことがあるかな。つい最近まで、毎日のように大人が子どもに言った言葉で、戦後にご飯粒一粒残しただけで今の子は贅沢だ。お百姓さんに申し訳ないと言われた時代がつい最近までありました。物を大切にする精神は、いまこそ世界に一番必要な気持ではないかしら

> どうして太平洋戦争まで遡ってしまうのですかー

こたえ

桃子ちゃんが半世紀早く産まれてきて、大人になって好きな人が現れて嬉しいなと思っていたら、その人は特攻隊員になって僕は日本の為に間もなく死にます。ですから桃子さんと付き合えません。死んだ人間だと忘れて下さいって言われたら、お国の為に、立派に死んで下さいとは言えないでしょう。その男の人は、結論として敵艦目掛けて死んでいくためにだけ肉体を大きくしただけの人生であったような気がしてならないもの。ー特攻隊で間もなく死んでいくことが分かっていた人達は、頭が痛くなるほどの自問自答を繰り返したのではないかしら。敵艦に激突する一秒前まで。自分の事は後回しにして国を考え、年老いた両親を考え、恋人のことを考え続けて逝ったのだと思います。翻って現在、昭和の末期に産まれた人は、髪の毛を染めて、顔を黒くして爪を伸ばして、考える時間は特攻隊の人の百倍も千倍もあるのに自分の幸せだけを中心に、一度として国を考え、両親を考え、恋人を考えたことがないように思うの。日本人を考えたことがないから自覚がない。だからどこかの人のある部分だけ真似て進んでいると勘違いしている。半世紀前に亡くなった人達が甦って今の世相を見たら何と云うでしょうね。私はいつもそのことを考えています。この子達の為に死んで良かったと思ってもらえるかしら、私は自信ないな。だから、東京大空襲、広島・長崎の原爆のことを忘れたら日本人ではないと思っています。日本にいったいどれだけの小学校 中学校 があるかは知らないけど、日

本人である以上は少なくとも、太平洋戦争を真剣に語る時間があってもいいと思っています。そうでないと後、半世紀もたたない内に太平洋戦争は第二の戦国時代という観念でしか無くなると思っています。

風子

風子さんのWEBサイトが好きで、いつも伺っています。前から聞きたかったのですが風子さんの人生観を教えてください。

高三 男子 重松

こたえ

本当はあまり云いたくないのだけれど、ここにくる質問には、云いにくいことでも答えると決めているのでお答えします。私の場合の人生観は子どもの時から今も同じです。告白すると、4才くらいのある日、恐らく10月だったのかな、昼寝をしていました。起きてみると、誰もいません。普段なら、母親を捜し、居なければ泣き叫ぶのに、そうした気にならなかった私はそのままの寝姿でいました。そして、その時が初めてだったのかはハッキリしないんですけど、とうして自分は産まれたのかと考えだしたんです。そして、世の中にたった一つでもいい自分が犠牲になってでも、たった一つ良いことが出来たら、神様は喜んでくれるというような事を考えたとき、一陣の風が窓ガラスに当たりました。風がそうだというように私の寝ている頭の側の窓ガラスに当たって窓ガラスを揺らしました。その後、そうした現象に出会ったことはありません。後にも先にもその時だけです。私は死ぬまでその時の体験を忘れないだろうと思っています。それから、父に日本人は偉いのと聞いたことがあります。すると父はしばらく考えてから「お前は日本人だから偉いと思っていた方がいい」と言われました。こんなこともありました。

母と私、伯母と私の従兄弟で、どこかに行つての帰り踏切がなかなか開きません。その時、私は勇気をふるって聞きました。

「神様って本当にいるの？」――すると母と伯母は顔を見合わせていましたが、伯母が神様は居ると思っていた方が幸せだから。居ると思っていた方がいいと云いました。母も「そうだね。居ると思っていた方がいい」と云いました。

私は釈然としませんでした。私が知りたかったのは日本人は偉いのか偉くないのか。神様は居るのか居ないのかでした。いえ、もっと正直に言えば

「日本人は偉い！」

「神様は居る！」そういう答えを期待していたんだと思うんですけど裏切られました。誰も教えてくれないから自分で調べて自分で考えて自分で結論出すしかない。その事が私の人生観といえ、人生観です。

将来、私を奥さんにしてもいいと云う人が現れて子どもが出来て、その子どもが私にある日、真顔になって、日本人は偉いのと聞いてきたのなら私は真剣に、その子に向かって日本人は偉いのよと答えたいと思っています。

神様はいるのと聞かれたのなら神様の神という字の意味は、何も言わないけど語って示していると云う意味があるの。嫌なことがあっても、神様は貴方のしていることを、しっかり見ているのよって云います。

そうして、その子が微笑んだら、抱いて上げて、暖かいぬくもりを感じたら耳元でこういいます。

貴方は、まだ小さいけど日本人なのよ。神様に恥じることのない、凜とした人生を送りなさい

そう言おうと思っています。

風子

僕の父にどうして戦争の道へ突き進んだのか、歴史で教えてくれると思っていたら、縄文・弥生・大化改新という僕に取っては太古の昔の事は昨日の事のように教わりましたが、太平洋戦争は

始まって終わった年号だけで終わってしまった世代で分からない
そうです。私が知りたかったのは、どうして日本は戦争の道を選
んだのか本当の理由です。それが分からなければ、日本の歴史な
んて意味がないと思います。風子先生教えて下さい。

京都の高校生 梅谷 秀夫

梅谷君、実は私も貴方と同じ思いを感じた頃があります。まさか理由もないのに戦争したなんてことはないと思いつつ、もしかしてと思ったことがあります。だって理由があったら、教科書に明確に記して当然ですよ。梅谷君、30センチの物差しあったら出して見て下さい。日本には3千年の歴史がありますから30センチの物差しが日本の歴史の全体になります。端から10センチは紀元前千年、少し永いけど、お母さんのお腹に居た胎児の時期で残りの20センチをオギャーと産まれてから現在までと考えて見て下さい。10センチが千年、一センチが100年になります。ですから、太平洋戦争は反対の端から5ミリか6ミリになります。私は太平洋戦争をこのように捉えて位置づけしています。たった5ミリか6ミリで物差し全体を軍国主義とは決めつけられないでしょう。でも、そうした考え方をする人は多いですよ。

次に、ひとり一人の人生80年に太平洋戦争4年の歳月を換算すると、80年の人生だった人の2ヶ月間が太平洋戦争の体験期間になります。誰の人生であれ、二ヶ月間、よく分からなくても日本の歴史教科書に周辺の国が異義ありを唱えますが、それを云う前に。どうして日本は戦争の道を選んだのかを記載しないのかと異議を唱えてくれると云いのにと思っていますが、その事には触れてくれませんか。

梅谷君、チョット眼を閉じて、考えて見て下さい。アメリカの同時テロが、日本で発生したとします。例えば霞ヶ関ビルか、新宿の高層ビルがテロ攻撃に遭い、死傷者は6千人、勿論、大半は日本人です。マスコミは大々的にこのことを取り上げ、全世界に

発信します。でも、政府の見解としてこれは、戦争であるという
でしょうか、自衛隊を出動させるといったら、どうなると思いま
すか、アメリカに任せろ。自衛隊の出動は憲法違反だ。

。犯人の確証がない限り推定でしかないではないか。炭疽菌がばらまかれても、日本は、戦闘態勢には入れるかな、それとも、戦闘態勢なんて考えないかな、どうでしょう？梅谷君、次に同じような目に貴方のお祖父さん、お祖母さんが遭遇したのなら、それ、戦争だ。報復あるのみ。ヤレッと言ったのでしょうか？私は時代背景が違うだけで、半世紀くらいの隔たりでは人の考えに変わりはないと思っています。出来ることなら戦争をしないで終結出来たらと考えるのは、祖父・祖母そして私達の今日まで、一般大衆の同じ気持ちではないかしら。

最期に、日本を断罪したマッカーサー元帥が1951年（昭和26年）アメリカ上院軍事外交委員会・極東政策の公聴会で、こう証言しています。（当時、ニューヨークタイムズ紙に全文掲載）

「日本は絹産業以外には固有の産業は殆どない。－中略－ 綿がない。羊毛がない。石油の産出がない。その他、実に多くの原料が欠如している。もしこれらの原料の供給を絶ちきられたのなら、1千万から1200万の失業者が発生することを彼ら（日本）は恐れていました。従って彼らが戦争に飛び込んでいった動機は大部分が、安全保障の必要に迫られてのことだったのです」

アノ時代、何よりも資源国は優位にありました。船・飛行機はあっても、全てが軍事目的、世界の通信の要はモールス信号だった時代の。1200万の失業は、食べる事が出来なくなるという恐怖があった訳です。不思議なことに、この証言を占領下の検問が終わった後も報道した新聞社はありませんでした。本来、米国有利の証言を成されても何も言えない日本にとってGHQの総裁と

も云うべきこの発言は、後人の人に歴史を正しく解釈するためにも重要な証言であると思うのに、不思議だとした云いようがありません。

戦争ではないテロという名の事故だ。

このことから、この国のマスコミは真実を報道する以上に政治家が土下座するような内外・外交を支援するような左翼イデオロギーに囚われている人達であるという事が考えられます。お前は悪い子の子孫なんだよと子守歌を唄って寝付かせる親が、いったいどこに居るでしょうか。そんな想いに駆られます。

風子

問題意識を子ども達に持たせれば、これだけの、真面目な質問が出てくる。風子は子ども達の率直な意見に、真剣に答えている。風子が教師だったのなら、問題になっているに違いない。しかし、子ども達が風子に意見をぶつけてくるのは、他の大人達では答えようとしないと知っているからだ。子どもが疑問に思っていることを、国も教師も答えようとしなない。しかし風子は、ソレをひとりでやっている。いつだったか、風子は大泉にこういったことがあったことを思い出していた。人類にいったいどれだけの歴史があって民族が存在したのかは分からないけど。あるとき、女性という性が大きく不足したとします。男は女を求めて、それは世界規模の大戦争を意味する事になるのに、幾千年、幾千人の人種や部族が一度として、男女の異なった性を平等に真半分にしていることは神の力でとしか考えられない。神は地球上の人々が戦争をしなくて良いように作ってくれているのに、大半の人間はその偉大な摂理に気づこうとしないと嘆いていたことがあった。

風子は特殊能力の持ち主ではあるが、その事よりも、神を誰よりも意識して信じて歴史を澄んだ目で捉える才能があり、それぞ

れの個性が競い合うことで、相反した個性であっても互いに認め合っていくことが平和の道と考えているのではないのか。それは男が女を、女が男を慈しむことで人類の歴史が続いているように、認めることで成立する事なのかも知れない。

イスラムとユダヤは発祥は同じ男だったものが、二人の妻をめぐり、エジプト人の妻から育っていったのがイスラムでヘブライ人の妻から育っていったのがユダヤだと聞いたことがある。つまり腹違いの兄弟の子孫がいがみ合い戦いあっていることになる。この問題を解決させるとしたら風子なら、お互いに認めさせることから始まるだろう。多くの平和主義者が同調して均一化することが漠然と良いと考える定説ではイスラムとユダヤが混じり合うことを願うことになる。しかし、絶対に忘れてはならない憎悪がある二つのイスラムとユダヤが混じり合うことは考えにくい。ならば、お互いを認め合うことの方が実は現実問題として可能性があることになる。夏がいいのは、冬には味わえない季節であるからだ。年の瀬と年の始まりが夏だったとしたら情緒も減ったくれないではないか。裸に近い服装でおめでとうと云い合ったら、それは日本の文化を根本からひっくり返してしまうことになる。要は夏も冬も認める文化がその国にあるかないかである。認め合うことで存在しあひ。存在することを認めあう。否定からは真実は産まれないのだ。小泉は風子の顔を思い浮かべていた。

日本に帰ってきてても、大泉は心の安まる時はなかった。女性閣僚の町中真紀子は、自らワイドショーにネタを提供している。憲民党の実力者である亀田は大泉に国債発行30兆の枠に固執するのだったら、本選挙で降りた私との約束はどうなると、詰め寄ってきていた。世界同時不況そして10年たってもバブル崩壊から脱出出来ない日本、大泉の構造改革の最大の抵抗勢力は身内に存在しているという大矛盾。鳩村兄弟は、兄が12億。弟10億の身銭

を切って新党を結成させたと言われている。憲民党を壊した場合70億でも足りないかも知れない。下手をすれば憲民党に入る政治助成金145億が消えてしまう。

大泉は一人になると、無言で居たのだったが、電話に手が伸びて風子の電話番号を押しだした。しかし、風子の声で留守番電話のメッセージが流れてきた。風子が居なければ風子の母か、妹の佳枝が取るはずだから、ファミリーで出かけたのかも知れない。風子の携帯に電話しようとも思ったのだが、それも、どうかと思って、大泉はパソコンの前に座ると、キーボードを叩きだした。今日も国会で論戦をしてね。

論戦じゃないな。水掛け論。重箱の端のつつきっこ。神学論争かな。いい年をした連中が集まって自衛隊派遣問題で何処までが危険で、何処までが安全なのかの基準を示せという、だから、髪の毛が無くなった人の額と頭の境界線はどこかと聞かれても分からないと答えてしまった。それは民社党の代議士の質問で、手を挙げて立ち上がった時に、たまたまその男の頭を見てしまったもんだから、それで、そうした答えをしたら、今の発言は私に対する侮辱だと怒らせてしまった。そこで、初めてハッとしたんだが、それで審議がストップさ。

アメリカ大統領がテレビでは絶対見せない顔で、私に近づくと、抱き合って私の肩を叩いた。何も言葉を発しなかったが、その男の苦悩を私は知った。大統領はアメリカの国益も考えなければならぬが。しかし同時に世界のことも考えなくてはならない。それは、私より遙かに苦しい立場にいた。私は大統領の肩をたたきながら、ほんの数秒の出来事の中で、この男を救うことが世界の平和に繋がることだと強く感じた。大統領を孤独にして孤立させては、判断が狂うと思ったからだ。このことは私が、いち代議

士であったなら、私は大統領の苦悩をそこまで受け取れなかったと確信している。やはり、総理という職と立場が、相手の置かれている状況を前よりもつぶさに見る技量をボルトアップしたのだと思う。

しかし、このことは言えないことだ。肩を抱き合って、結論を出すと云うことが問題になる。だいたい、真相というものは極秘でなければならない。赤穂浪士は仇討ちなど考えたこともないと云い続けたから仇討ちはなかった。江藤新平の佐賀の乱は明治政府のスパイに江藤自らが本心を見せたことで大事は実らなかったではないか。真相は公表したら真相ではなくなるのである。みんなが決めたことが正しいとしたのなら、太平洋戦争は正しかったことになる。みんなが決めたことが一番悪い方向に行くことは歴史が証明しているが。それを言えば民主主義を否定しているという問題に発展してしまう。私に対する侮辱発言だと審議を拒否した代議士は、個人の尊厳・プライバシーを持ち出して国会を紛糾に追い込んだ。公を語る公人が国会で、極めて私的なことでストップさせている。官房長官が、肩を叩いて、アレは明解答だといった。

他の大臣も上手い時間稼ぎの手を考えましたね。流石ですと私に囁いた。しかし故意だったか無知だったのか、実は分からなくなっていた。頭の整理がつかないんだ。国会答弁、あれは、頭を悪くするな。あそこからノーベル賞の発想は出ない。それだけは分かっているんだが。

国会とは茶番を演じる舞台なり。

それで、CDを聞いても癒されない。

風ちゃんに電話したのだけど振られてしまいました。

ところで、風ちゃんは、日本の明日をどう見るだろうか、温故知新、いったい歴史から何を学べばいいのか。

野党の姉ちゃんが、命がけで食い下がって

「総理、総理」を連発されると、夢でうなされてね。私は子どもの時から年に一回くらい何もかも分からなく自信が持てなくなるときがあるんだ。

学識者・経済アナリストも明るい暗いが半々に別れ、イヤ、最近では暗いと云う意見の方が多いかも知れないな。辛口でも結構と思って電話したわけ。CDでも、無理矢理聞いてー寝ますか。と云うわけです。

滅入っているドンキ・ホーテより

大泉は虚ろな眼で送信ボタンをクリックしたのだった。

翌日の夜に小泉がメールをチェックすると風子からメッセージが入っている。

父の死後、月に一度、親子三人で夕食を取ることにしています。たまたま、その日がおじちゃんの滅入った日でした。失礼しました。

同じ場所で寝起きしているから、お互いに分かっていると思いがちですが、実は違うことを考えていることがあります。最初は小さなズレでも放置していると修復不可能な大きなズレになっていることがあります。同じ時代の空気を吸った友人と違って肉親というのは、生きて感じた時代にタイムラグがありますので知っているようで実は知らないのです。そんな想いもありますが、やはり、出る話は父の話です。私と妹は母の昔話に父を感じて懐しんで、家に帰ってくると、父がどこからか現れて

「おい風子、学校大丈夫か。良いことは言わなくてもいいが、嫌なことと、辛いことは全部云うんだぞ」という父の声が聞こえてくるような気がして大将の娘としては良い家族湖の時間なんです。さて、国会中継を見ていて、額と頭の境界論争は、私も動かしていたハサミが止まってしまいました。心労がだいぶ貯まって

いるようですね。おじちゃんの目に力がなくなっているようなので心配です。肉体疲労ではなくて、明らかに精神疲労ね。本当は歩くといいんです。歩くことは何より、ストレスの発散になりますから。でも、それも出来ないし、頭が混乱するのは人間の証明ですから気にしないことです。実は気にしないっていうソレが一番出来ないことなんですけど、

マスコミやメディアはおじちゃんの疲れから出てきた発言とは思わなかったようですね。おじちゃんは、がんこ・曲げない・一徹といったイメージに新鮮・しなやかといったものをトッピングしたような個性が出来あがっているのです、不本意でしょうけどジツト耐えるしかありませんね。お気の毒に思います。

さて、景気づけに結論からいいます。私はこうした方がいいとマイナスのことを指摘してしまうタイプなので、日本の経済に対して暗いものを感じていると捉えられがちですが、でも、日本経済の前途は明るいと思っています。もっと云うと、日本はアジアの一国です。日本が良くなってアジアは悪いということにはなりません。日本が良くなってアジアが良くなるのか、アジアがよくなって日本がよくなるのかは、鶏と卵の話しになりますが。結論は日本を含むアジアは良くなっていくから、日本は良いという結論です。日の当たる裏に陰が出来るように、太陽が当たらない月の裏側は暗黒のように、全てに光が差すことはありません。全ての事は円を描きます。成長すると、いずれ成熟して、そして衰退していきます。世界の通貨がユーロとドルと円とエトセトラになっていますが、世界の金の流れをコンピュータで管理しなければならない時代は通貨を統合しないと混乱を来しますので、近い将来、アジアの通貨は円を基準にする通貨になっていくと思います。中国の台頭・韓国の躍進で日本は圧迫されているように見えますが、ユーロ・ドルに対抗するにはアジア圏で通用する統一通貨を作り出す必要性があり、その為には経済に差があると困難ですのでアジアの躍進は日本にとって実に喜ぶべきことです。太平洋

戦争以前は国土を広げることが国力でしたが、現在は通貨を強くすることが国力で、国は違っていても、通貨が統一になっていけばシステムも統一されて使い勝手が良くなっていくと思います。

完全に統一されていけば、パスポートも、あまり、意味がなくなるでしょう。携帯の番号とプライベートカード（キャッシュ・クレジット）と免許証の番号で本人がどこにいるのかが容易になりますから。一番重要なことは日本のスタンスを世界の次男坊からアジアの長男という考え方にコンバージョンすることです。でないと、世界の長男に対するうらみつらみが次男坊に向けられるからです。長男は核もミサイルもある。次男は丸腰なんですから、それに長男って、だいたいずるいもんです。欲しい物は次男から分どって、悪いことは次男に押しつける傾向があります。官僚も閣僚も日本人には強がりますが、世界の長男には尻尾ふってませんか。でも、私は

あっ、この後は、またEメールします。

チョットだけ、云い忘れました。リストラをすると、その企業の株価は上がります、これはアメリカ的発想法で、日本が追随する必要性はありません。家の会社はリストラせずに何とか関連産業を立ち上げて頑張りますからご支援をと言ったときに株価が上がるような精神構造を作り上げることに政治は趣をおくべきです。そして、その精神はアジアできっと高く評価されると思います。日本人がアメリカ・ナイズした経営方針でアジアに迫れば、いつの日かアジア各地で反発が起きると思います。

兎も角、京都議定書で次男の日本が必死でも、長男のアメリカは知らんぷりです。総領の甚六に、舐めたら痛い目にあうでぐらいの事云えないと、後に続く三男・四男から馬鹿にされて足引っ張られますよ。

オット　ここまで

今日は、前に話したことがあるかも知れませんが

政府の景気ウォッチャーに理容組合を入れて貰おうと運動する人が現れてきて

今日はその会合があります。それで次回に後編をとということで

それでは、　　風子

風子が以外にも日本の未来は明るいと言い切った。風子先生はどの経済の先生より兎も角あたる。

株価は日経平均でなかなか18,000円を上回られないでいた。ここが限界なのか、それとも再び活気づくものなのか、大泉は政策は打てても株はやったことがないから分からなかった。しかし、風子が日本の経済は真っ赤っかに明るいと言ってくれたことが、何より嬉しかった。喜ばせるために自説を曲げることはない。それに、経済関係の誰も真っ赤っかとは言わない。しかし、あの慎重な風子がそう言ったのだから間違いないと大泉は思った。景気が悪くなるのと良くなるのとでは出す政策は全く違うものになる。景気が見えれば政策はそんなに難しくはない。

それならやってみるか。大泉は椅子から立ち上がると大きく背伸びをして見せた。

翌日は大泉派の定例総会があった。昼食は恒例のカレーライスであった。昼食後、大泉は居並ぶ議員に向かって語り出した。大泉案に賛成は80%。反対は10%。決めかねているが10%である。大泉は賛成が80%なら、国会記者クラブで構想だけでも話すと宣言した。いつも、大泉に反旗を翻す古参の男の顔を見ると苦虫をかみつぶしたような顔をしている。それほどに大泉の案は画期的であった。

国会記者クラブに現れた大泉は、席に座ると言った。

「皆さんの中で、今、ノート型パソコンを持っている人はどのくらい居るの？悪いけど手を挙げてよ」と質問した。殆ど全員が手を挙げた。同じ質問を閣僚にしたら、手が上がるのは若手の数人

だろう。

大泉の前任者の森田がパソコンに向かってから、パソコンはやってみるとそう難しくはありませんというCMを作ったが、国会記者クラブの記者が、立ち話であの人、全く出来ないねと云うと、相手の男が、無能な実力を無知という肩書きで隠す。それが政治家なんだよ、と云っていたが

「パソコンは君たちにとってどんな存在か一言で云ってくれないか？どう」大泉は意見のありそうな記者を指さした。男が立ち上がると、大泉は

「そうだ、この形態は固くていけない、君たちの輪に入るよ」そういうと記者の真ん中の空いている椅子に腰を掛けると秘書官の用意したマイクを持った。

「どうぞ、云って下さい」

「そうですね。仕事の言えれば必需品。個人で言えば子どもをデジタルカメラで写して、郷里の両親が喜んで印刷してですね。だから趣味かな。未来を語れば、もう一つの頭脳とでもいいですか」

「いいね。今のフレーズ。メーカーが聞いていたらCMに使われるよ」記者から歓声の入った拍手が起きた。

「おじいちゃん。おばあちゃん喜ぶよね」

「ええ、この前、実家に言ったら、郵送だと遅れるからリアルタイムにしてくれって云うんですよ」

「へえ、本当にリアルタイムって言ったの」

「そうなんですよ。でもリアルタイムって日本語で言ったら、なんていうのかな。同時双方向じゃあ機械的ですよ。実況生中継とも違うし、やっぱりリアルタイムでいいし、テレビの力だよなって思いましたね。それで、少し古くなったパソコンがありましたので、インターネットなら問題ないから実家にそのパソコン置いて、Eメールの添付ファイル付きで送信するから、こうすれば、直ぐに見えるし印刷も出来るからっていったら、孫の顔見た

さに、必死になって操作覚えて、じいちゃんもばあちゃんも最近、会話すること少なくなっていたのに、二人で話し合いながら、一生懸命になって、家内に電話して、練習するから、3歳と1歳になる子どもの、今撮った写真、送信してくれって頼みました。間もなく送信されてきた子どもの写真がモニターに写し出されたら、じいちゃんとばあちゃんが、バンザイ、バンザイって両手挙げて、その後で二人で手を取り合って喜んでいるのを見て、俺、イヤ、私涙が出てきちゃって、考えてみると親のこと考えていなかったなーって、人の親になって、分かるんだなーって、済みません、こんなところで――」

大泉が周りを見ると、何人かが目頭を押さえている。

「いい話だなあ、記者さんって忙しいもんな、そうは帰れないよな。だけどリアルタイムで、そんなこと出来るの」

「家の母親なんて、我が儘だから、動画で孫の顔を見せてくれて云うんですよ」違うところから声が拳がって言った。

「えっ動画出来るの？」

「出来ますよ、ホームページで、まだ短いですけどね。そのうちには孫がみえるところに孫だけを追いかけるセンサー付きカメラを柱の上にでもセットすれば、ずーと見ていられます」

「そこまで、進んでいるんだ。そうすると孫が危ないときに電話すれば助かるってことだよな」

「そうですね。北海道のばあちゃんからベッドから落ちそうだななんて電話入って命びろいななんてありえますよ。地球の裏側からだってそういうことは出来るわけですからね」

「凄い、時代だよな。これは人類が待ちこがれていたことが、もう、現実になっているんだね」

「ところで失恋も倒産も人生にとっては良い経験になるかもしれないが人の命を絶つことと自分の命を絶ったら一環のお終りだ。この当たり前の事が日本では忘れかけてきていると思うんだが、それがITだと、どうなるね」

「テレビドラマで一週間に、どれだけの人が死んでいるのかという事を調査した数字がありましたけど、今、思い出せません。兎も角、仮想空間ではかなりの人数が死んで居るんですよ。殺される人よりも殺す犯人の心理描写が優先しますからね。だから、ど

んな犯人でも、同情してしまうところがある。昔はマンガでしたから、現実と非現実との間にあきらかな境界線が存在していたんですけどね」

「もう一つは音楽なんですよ。殺人の最中にイカしたBGMが流れるでしょう。映像と音は一緒に記憶されますからね。実際の犯行の時にBGMが頭に流れている犯人って既にいるんじゃないんですかね」

「この前、こどもの日に動物園に行ったんですよ。象とかライオンとかね。感激すると思ったら一瞥くれただけで帰ろうって、帰って仮面ライダーとウルトラマンのビデオが見たいって、仮面ライダーとウルトラマンも本当は居ないんだぞって言ったら、そんなこと分かってるよ。そう云って父親の顔、馬鹿じゃあないかって顔して見るんですよ」

「今の子にとっては、存在しないけどバーチャルな生き物が一番のヒーローなんですよ。象がオートバイ出来ますか、ライオンが空を飛べて、虎が変身できるかっていう時代なんですね」

「うん、昔、新人類といった時期があったが、その新人類も慌てるほど今の子どもは飛んでいるようだね」大泉は唸りながらいった。大泉の秘書官が大泉に合図した。大泉は秘書官に手を挙げた。「実はね。小・中学生にパソコンを配布したいと考えているんだよ」

「全員ですか」

「うん、全員にはならないな」大泉は椅子から立ち上がりながら言った。

「どういう意味ですか」

「デジタル・デバイド。今君たちの話を聞いていて思ったんだが、パソコンを使える人と使えない人の情報の格差ね。このことが

、公平、不公平を生むね。だからパソコンを使いたくても使えない子に提供する制度なんだ」

「じゃあ、構想として小・中・高生全員に無料配布ということですか」

「いや、パソコンを買いたい子どもに国がお金を貸して買ってもらうんだよ」

「政府が子どもに金を貸すんですか」

「いや、政府補償で銀行から借りるんだよ。こからは起業家を育てなければならない。起業家に借金は付き物だろう。早い内に借金とは何かを考えてもらいたい。そうすれば、将来、金融機関の不良債権は減るしね。銀行との交渉も上手くなる」場内はざわめいた。

「しかし、未成年に借金ね。どうやって返すんですか？」

「社会人になったら返して貰う。出世払ってやつだ。借りたくない子は借りないでいいんだよ。私が云っているのは、パソコンはやりたい。だけど、家にはお金がないという子を救済する制度なんだから、それと、質問、株取引をしている人、手を挙げてくれないかな。――誰も手が挙がらないね。君たち、今の私の質問を公表してくれよ、大泉が政治部の記者に株やっている人と聞いたら一切、手は上がらなかったってさ。報道する側が報道される側になるのも、たまあには、いいじゃあないか」

「パソコンの融資制度は構想の段階ですか」

「イヤ、私はやるよ。日本から、第二のビル・ゲイツを出そうよ」

「総理、今日みたいな会合、又、やりましょうよ」

「いいね、又、やろう。今度はビールでも飲みながらさ。今日は楽しかった。ITを供給する側からばかり語るのはいけないと思ったよ。君たちのように使っている視点が重要なんだよ。君たちが小学校に行って、パソコンはこんな事も出来るんだぞって教えたらみんな、目を輝かせるぞ、ああ時間がない。今日はここまでだね」大泉はイライラし出した秘書官を見ながら言った。

「それじゃあ」大泉は歩き出したが記者の声が聞こえてきた。

「しかし、そんなコトして大丈夫かな」――その声に大泉は踵を返すと

「前例は、みんなで壊そうよ。それから、具体的な内容についてはライオンハートからEメールで君たちに配信しましたから」大きな声で云うと部屋を出ていった。

「随分、進んじやったね」

「だから、雑談していたんだよ、憎いねドウモ」記者達は、そう云いながら慌てて自分たちのパソコンを繋ぎ始めた。

「来ているよ、ライオンハートから、お宅の社、株取引に手を挙げなかったこと、どういう風に書くの？」

「書かない訳にいかないよね」

「最近、大泉さん。なんかくせ者なんだよね」

「そうなんだよね。気が付いていた」

廊下を歩きながら大泉はほくそ笑んでいた。

（時代は電子政府ですから、風ちゃんはIT株と銀行株が上げると云っていましたが）大泉は鼻歌を歌っていた。

マスコミはその日の総理と記者の話を取り上げた。

記者クラブとはマスコミのエリートの集団である。

その人が株取引をしていないのであれば、素人が株に手をだせるかという意見。

あの中には日本の経済の専門家、パイオニア集団なのにゼロとは如何なものか。

みんなやっているんだろうが、あそこで手を挙げると上司に後でチェックされるから手を挙げなかったのではという意見。

ああした場で、株やってますとはいいいにくい、総理はそのことを問題にして、堂々と手をあげられる環境に日本を持っていきたかったのではないかという意見。

それより、株をすることじたいに罪悪感があるのではという意見。

新聞・テレビも大きく取り上げたことで翌朝のワイドショーも引き続き、このことで持ちきりとなった。

融資は通常の銀行業務の一環として業務遂行するということだから、小・中・高生が銀行に行って、自分で書類書いて借りるらしい。

しかし未成年が金を借りる事は違法なので、どうするのか。

政府も金がないから無料配布って訳にはいかないのでは。

それにしても、未成年者に借金というのはいかがなものか。

大手銀行が将来の顧客を積極的に開拓したいと報道したから、銀行株が上がった。パソコンの機種は個人の好みだからということで、政府は特定しないことにしたらしい。ある電機メーカーはソフトに株投資のシュミレーションソフトを付けると発表、今度はIT株が上がりだした。

すると、今度は証券会社が、ホームページで小・中・高生向けのシュミレーションによる株投資ができるゲームを開発。成績が良ければ、表彰状と償金を出すと発表、償金で借金がチャラになるサイトへどうぞ△△証券。

これで証券株まで上昇した。

各局に子どものメールが殺到。

金利は安くして下さい。

テレビ局もスポンサーになって償金がでるようなサイトを立ち上げて下さいといったメールも入ってきた。

その夜、大泉が風子に風ちゃんの云うとおり銀行株・IT株・おまけに証券株まで上がったけど千里眼だねと言ったら風子が、

上がって当然ですよという。

「どうして」と大泉が聞くと

「だって、私の塾生、スカイブルーの子ども達が総動員してマスコミのWEBサイトにメールをいっせいに送ったんだもの。大泉さんを支持しますって。金利は安くして下さいとか、僕はビル・ゲイツになると言った子や私はビル・ゲイコになると言った子もいましたよ。みんな、それぞれに一人が30件くらいメール送ったから、テレビ局でも子どもから大泉指示メールがきていて、反対勢力には断固戦うぞって」

「えっそんなことしたの」

「ええ、テレビ局、それから、新聞社。特に経済に強い新聞社には念入りに。大人が奮起するように」

「まいったな」

「だってITの時代ですよ。総理、日本の子どもも捨てるもんじゃあないでしょう」

「本当だ」大泉はビックリして言った。

「日本の子どもはまだまだ少数ですよ。みんなが力をつけて頑張れば、日本は第二の奇跡の復活をITでやれますよ」

「本当だ。風ちゃんのこと、ジャンヌ・ダルクだと思っていたけど、今は怪僧ラスプーチンに思えてきたよ」

「えっ、あんまりひどいこと云うと、子ども達に大泉総理に風ちゃん虐めるなメール送らせましょうか。私が笛吹けば風が巻き起こるくらいのメール旋風が起こるんだから」

「冗談だよ、冗談。風ちゃんは女神だよ、日本の女神。世界のマリア様だ」

「ラスプーチンが今度は女神でマリア様ですか、脅しに弱いんだからな、もう、そんなことで構造改革出来るのかなあ」

「————」大泉は二の句が告げなくなった。ジャンヌ・ダルクがラスプーチンに成った翌日、株価は520円上がって18,359円になった。

大泉は野党の質問に対して拳を握って、髪を振りながら答えていた。

「義足・義手のアフガンでの幼い子を見て、何とも思わない人はいないと思います。私だって人間です。齡60を目指す今、短い人生とは思いつつ、アノ子達が自分の年に達するまでいったい何百万歩義足で歩くのか、いったい人生を終わるまでにいくつ義足が必要になるのか、金がない、技術がない、しかし身体は成長していく。自分の命と引き替えにアノ子達に義足が与えられるのなら、今死んでも悔いはないと思っている。それは私だけではない。私のように太平洋戦争という戦争を体験している人なら共通した想いだ。相手が国家とか一つの政治集団なら交渉も成り立つかも知れない。しかし、実体のないテロリストに話せば分かるというのならアフガニスタンの山岳地帯と砂漠を、貴女が歩いて話し

にいったらいい」

「私は女性ですよ。どうして自衛隊も行かないところに私が行かなきゃならないんですか」

「戦後生まれの、安全なところで焼夷弾の嵐ひとつ体験したことのない貴女とは、修羅場をくぐった数が違う。私達世代はね。根本の命さえ何の保障もなかったんですよ。この国の憲法より、この国を守ることが先決なんだ。撃っては成らないと知っている。しかし今日まで同じ釜の飯を食った仲間が隣で撃たれて死んだ時、裁判に掛けられる自分を気遣うその前に小銃取って走り出していた。それが人間じゃあないのか。絶対に死なない国会の牙城の中での憲法解釈では、それはおかしい、いくらでもほざけばいい。撃たれて死んだ戦友に変わって、滲んで見えない小銃を抱えて走っている。それが人間だ。その時、法律の条文を思い返しているのが人間ではない」

「議長、問題発言です。ほざけと云いました。私に小銃を持って走れって云いました。それにこの男の総理は憲法を守る立場なのに、憲法なんてどうでもいいと云っています。私を侮辱しています」民社党の切り込み女隊長は、異議を唱えたが、いつもの迫力はなかった。それほど、大泉の迫力は凄かった。

大泉総理切れる。

切り込み女隊長はその後、泣いた。

大泉世代は、よく言ったと歓声。

女性蔑視・軍国主義者だった大泉首相。

憲法無視していいのか大泉さん。

マスコミ・テレビ・週刊誌はこの論議で一色となった。

日曜日の午前中のテレビ録画を夕刻見ていると、正体を現したとか。

本性むき出しだったとかの悪評を野党・左翼歴史観の議員は結束して抗議行動に入った。

当の、大泉はテロ対策法案も可決のメドがついたことで、疲れが気のゆるみを生んでしまったこともあるが。それ以上に株価が下がり始めだした。大泉のショックは大きかった。当初は利益確定の売りだろうと思っていたのだが、外人が売り越しに転じた。

ニューヨークとナスダックが毎日、前日の株価を超えられずに終わる展開からヘッジファンドが日本株を売って利益を出し、本国の安くなった株を買い支えているらしかった。このまま下げ続けると、今までの苦労が徒労に終わる危険性があった。ただでさえ構造改革がうまく進展していかない中で大泉は大いに苛立っていた。どうでもいいような国会の討論で、溜まっていた苛立ちが爆発した感は否めなかった。

ベッドに横になって、読みかけの週刊誌を顔にかぶせていたら――

母親が現れて、大泉の頭を黙って撫でている。どうやら、大泉は小学生で

バットとグラブが側にある。あの日、大泉は同級生と野球をして

いと、上級生が現れて、場所を譲れと言われた。大泉は小さい身体で上級生に僕たちが先だったと主張した。生意気だと殴られた。負けることは覚悟の上だった。しかし、同級生は蜘蛛の子を散らすように居なくなっていた。それが悔しくて大泉は家に帰ってから泣いた。母親がどうしたのかと尋ねた。いつもなら、何でも言える母親に大泉は無言でいた。口にするのは男らしくないと思ったこともあったが、もしかすると自分は同級生に仲間として認められていないのかも知れないとも思えたし、あの時勝手な行動をしたのだから、友達は付いて来られなかったのかも知れないとも考えた。母親は追求するのを止めて黙って泣いている大泉の頭をなで始めた。言葉に出せない自分。裏切られた想い。上級生への憎悪と恐怖。母親が言った。

「そうやって、みんな大きくなっていくのよ」大泉は目を覚ましていた。

「夢か」大泉は独り言をいった。しばらく、茫然自若としてみると、間もなく枕の側の電話が鳴った。

「風子です」

「今寝ていてね、起きたところだ」大泉は寝ているままの姿でいった。

「何だか、声が聞きたくなって、――毎日、日本の為に、ご苦労様です」

「――ありがとう。本当に」大泉は風子の声が母の声に聞こえてならなかった。

「お疲れの顔をテレビで見ている、ハサミが上手く進みません。
それで電話しました」

「風ちゃんにも迷惑掛けて済まないな」

「私のことはいいから、それより、おじちゃん。辛いときはじー
っと耐えることです」

「切り込み隊長とのやりとりをいつてくれているのか」

「靖国神社に参拝に行くと言ったあたりからバトルは始まって
いる。靖国神社参詣を二日早めて何がどう変わったんですかって
凄い剣幕だった。どうして、あの女わからないのかねえ、やん
なちゃうよ」

「風ちゃんが総理だったなら何て答弁する」

「私なら。鎌倉・円覚寺の話しをします」

「何、それ。――それでは、風子総理大臣ご答弁をお願い致し
ます」大泉は議長のように言った。

「ハイ議長、答弁致します。エヘン、――文永・弘安の役の戦死
者を慰霊するため、北条時宗が中国から無学祖元禅師を招い
て1282年に創建されたのが円覚寺です。そこで時宗は蒙古襲来に
よる殉職者を敵味方区別する事なく平等に弔う為に発願しました
。日本最大の大危機の憎き相手を殉職者と同じところで祭るので
すから、時宗公の人柄が忍ばれます。それから700年以上経過を
見る中で、自国の人を貴方いい人・貴方悪い人と選別することは
出来ますが、時宗公がその時、どのような御心でそうなさったの
か考えるとき、万感の思いを抱かざるを得ない思いであります。
オヨヨっとここで泣いて見せてから、水を飲んでと――チョット

天を仰ぐようにしてから、議長に手をあげると 議長が 風子総理大臣続けて下さいって間合いを見計らってから エヘン、それでは、死者に対して、何もかも結論の出た。いわば、神の位置にも匹敵する高いところからの見地で、物申すことはたやすくも、その時、貴方の立場であったとしたならば、我も又、同じ道を歩んでいたでありましょうとの考えなくして心の通った政治が出来ますでしょうか。生前に区別上下はあっても、遠く旅立つ世界には上下区別のない世界への思いからなのか、既に遡る700年前にそうした、御心を持った為政者がいたことを、わたくしは同じ政治に身を置く者と致しまして心から崇拝するものであります」

「いいね。いい。すごくいい。どうして教えてくれなかったの」

「だって聞いて来なかったんだもの」

「父と娘じゃあないか。聞いてこなくったって、いってくれ、薄情な娘だな」

「————だって時の総理大臣にこう云いなさいなんて言えないよ」

「知っていれば云いたかったな。ソレ、来年使うかな」

「来年、総理やってるか、分からないじゃない」

「どうして、そういうことかな」

「薄情な娘って言ったから、お返しよ。そうだ、思い出した」風子は反撃に出た。

「おじちゃんは、同時テロの時、大統領にあったでしょう。力を貸してくれって言われたんでしょう。私は戦没者の代表としておじちゃんに苦情があります。おじちゃんは特攻隊で死んでいった若者に特別の思いがありますね」

「あるさ。あの人達がいたから、私達は今、生きていることができるんだと思っている」

「それならば、どうして、同時テロ事件を第二のパール・ハーバーだとアメリカ議会関係者に言われた時に、異議を唱えなかったんですか」

「それは――」

「それに、ショウ・ザ・フラッグとおしゃるが、憲法九条を何とかしなくては力を貸せない訳でございまして、それにはどなたか、日本の国会で、あの憲法は日本を弱体化することが最大のねらいの押しつけ憲法でありましたと行って下さいって、どうして言わなかったんですか。云うべき時に

チャンと言わないから、日本は舐められて、パール・ハーバーを引き合いに出されるのよ。風子が総理大臣だったならね」

「まだ、やってんのか総理大臣」

「同時テロを、第二のパール・ハーバーだと言われた方がいたが、事の非人道性から言えば広島・長崎に投下した原子爆弾に酷使しているのであって、既に暗号を解読していたアメリカ政府は戦争もやむなしという世論を高めるためにパール・ハーバーを黙認した節がある。パール・ハーバーでの死者数は当時の米軍の記録によると、日本人64人を含め、2390人（うち子供10人）となっ

ているが

最近公開した。日本の真珠湾攻撃を描いた映画「パール・ハーバー」では3000人のアメリカ人の命が亡くなったとしている。悲惨さを演出するために人数を、ええと $3000 - 2,390 + 64$ で674名も勝手に増やして3,000人にしている。これが民主主義を標榜するアメリカの手口ですかと云ってやるわ」

「しかし、時が時だったからね」

「何、ってんの、最高の時じゃあないですか。この10年間、毎年10兆円近い貿易黒字を日本は出したけど稼いだカネは今どこにあるの。外貨準備高は10兆円、つまり1年分の黒字額しかないというんじゃない。貿易で受け取ったドルは銀行で円に換金され、ドルが銀行に貯まる。このドルの大半がアメリカの財務省証券（TB）などに化けている。結局日本は累計で東証の株式市場と同じ200兆はアメリカの国債に化けているというじゃあないですか。それでアメリカは自国の輪転機を回すだけで日本製品を買えたことになるわけよ。アメリカの財政赤字の穴埋めに使われているのに、アメリカ政府が日本にこれを感謝したという話は聞かないわ。それどころか日本の市場は閉鎖的だなんて言われている。どうするの大泉・貢ぐ君、しっかりしろ」

「貢ぐ君！」

「貢ぐ君はね。もてたい一心でそうしているけどね。そういう人は結婚の対象にはならないものなのよ」

「風ちゃん。政治はね、個人的感情でいっては駄目なんだよ」

「パール・ハーバーという映画が公開されたけど、この戦争映画にかけた二百億円は、当時の大日本帝国が真珠湾の為に費やしたとされる総額をはるかに上回っている。個人的感情で云っては駄目というのなら、公に日本政府として抗議すべきよ。だから、これだけ侮辱された映画を作られても、政府は当時の明確な資料も出せないから沈黙しているのよ。資料があっても出さないというのであれば、日本政府は腰抜けだわ」

「資料がある、ないに関わらず、済んでしまったことだよ」

「済んでしまったこと？済んでしまったら、亡くなった人の名誉は傷つけられて、ボロボロにされても良いんですか！」

「そうはっていない」

「日本は東京大空襲で死傷者14万・広島原爆で20万・長崎原爆で15万、全てが民間人といっている人達だったのよ。上から振ってくる防ぎようのない爆弾の嵐の中で死んでいった人が50万。パール・ハーバーでの戦死したアメリカ人は2,326人です。念の為に云っておきますが大半の戦死者は勿論軍人です。アメリカ人は日本の倍だから、率で行けば日本は全体の5%アメリカは全体の0.001%よ。おじちゃんの肩には大量殺戮兵器で亡くなった50万人の名誉が掛かっているんですよ。パール・ハーバーを作ったベイ監督はただのアクション映画ではない。私は撮影の前、八十歳以上の高齢者達から心に痛みが走るような話を数々聞いたのだ。そして私自身、真珠湾に沈む戦艦アリゾナまで潜り、そこで亡くなったとされる、1,177人の兵士達の気持ちを考えて事実の映

画を作ったのだと云っているけど。出鱈目よ」

「風ちゃんはパール・ハーバー見たのか？」

「見ていない、見たくもない」

「それじゃあ、どうして」

「妹の佳枝が小学生の頃にバレエがやりたいというのでバレエを習って居たことがあります。遅くなることがあると、私が迎えに行っていました。そんなことから佳枝を教えてくれていた百合子先生と親しくなったんですけど、その後先生はアメリカに渡って、アメリカの人と一緒にシアトルに住んでいます。その百合子先生からメールが来たの」

「どんなメールなの、良かったら読んでくれないか」大泉はベッドから抜け出るとガウンを羽織り

冷蔵庫を開けて缶ビールを取り出した。風子の云うとおりかも知れない。大統領の迫力に負けていたのかも知れない。と思いながら栓を開けた。そうして椅子に掛けた。ビールの泡が消えていくのを見て、消えた泡が太平洋戦争の人達のように思えるのだった。

「読みます」風子もパソコンに移動したようだった。いつもの風子の声のトーンに戻ったようである。恐らく、興奮しすぎた自分に気が付いたのだろう。しかし自分の事で興奮したのではない。風子世代なら、どうでもいい事だと、にべもない事に違いない。そう思うと死者の名誉を思う、一人の娘が哀れに思われてきた。誰のためでもない、自分の為でもない。散った幼い命・分かれ分かれになって死んだ後再会した恋人・おかあさんと叫んで死んでいった若い命・名誉の戦士を知って涙を見せることも出来なかった母・この世の生き地獄を生きた人に対する思いは忘れまいとする風子が異常なのか、それとも、風子のようになれない方が異常なのかと大泉は感じていた。

風子ちゃん。元気？ 百合子です。

結婚して、子どもが三人。男13才 女10才 女8才との5人家族で頑張ってます。佳枝さんと話す機会があったときに、風ちゃんのこと知ってね。直ぐメールだそうと思ったんだけど、貴女のことだから私の些細なメールにも義理立てして、返信をしなくちゃあならないって気を使わせてもと思って控えていました。時々は何っていたから、健闘を祈っていたんですけど、そういうわけでご無沙汰していました。ずーと風ちゃんのおもっていたのよ。私が足を痛めて、悩んで居たときに。風ちゃんが私に直ぐに直そうとすると、根本から直らないから、時間を掛けた方がいいってあの一言がなかったら、私手術していました。私がイライラしているのを見て歩いた方がいいとって私と歩いてくれたね。私はあれからめきめきよくなってこっちでね。今

でもバレエ教えているのよ。お陰で足の方は、どっちの足が悪かったんだっけって思うほどによくなりました。その度に風ちゃんに感謝しています。

ところで先だって、子ども達がねだるので、仕方なくパール・ハーバー見に行きました。

恐らく、風ちゃんは見たくないと思うけど、その内に風ちゃんのサイトでも

出てくると思うので私の知っていることを書きます。

あっ、その前に、うち明けると三人の子どもは大変なショックを受けました。それは母親の私を見る目にも現れるほどにね。

三人は半分は流れているパール・ハーバーの日本人の血を切って出せるなら出したいくらいの心境のようでした。

もしかすると子ども以上に私の方が辛かったのかも知れません。

私はその事から、私なりに調べて見たんです。日本にいるときはね。

アメリカ人の容姿に随分と憧れました。長い手と足・白い肌・金色に輝く髪・ブルーの瞳とそれで、こちらに来たら、そんなこと吹き飛んでしまって、今度は望郷の念に駆られてました。人間はおろかですね。失わないとその価値が分からないのね。それで、こんな私がね、図書館に行ったりして、日本人の端くれとして、子ども達に本当のことを伝えなくてはという思いに駆られて――

この映画は二人の空を飛ぶことを夢見た少年が、アメリカの田舎テネシー州で父親の飛行機で遊んでいるところから始まります。その後二人は成長し、二人共軍隊に入隊することを希望するの。その一人（ベン・アフレック）が、軍病院で働く一人の白人看護婦にお熱をあげ、第二次世界大戦勃発後、ヨーロッパの戦場へ旅立つ前に、贈り物として、日本の折り鶴そっくりの紙飛行機を自分で折ったと渡して彼女を感激させるシーンがあります。その後、太平洋戦争開戦前、日本人（山本五十六長官）が、「太平洋艦隊は、一度の攻撃で崩れるはず」という言葉を発したことで、真珠湾の攻撃作戦が開始します。日本の戦艦の中に初めてスクリーンに現れる軍人は、ステレオタイプの禪男。日本の攻撃が始まると、零戦は、アメリカの少年達が野球をしている真上を横断し、日本軍のアメリカに対する道端での無差別射撃などが始まって。攻撃模様を映す場面では、病院のガラスも割られ、弾が病院内を襲い、ロマンスの象徴、四人の看護婦のうち、一人が病院へ瀕

死の状態で運ばれます。

また米国兵が乗っているジープには、五、六機の零戦が束になって襲い、戦艦はあらゆる所で傾き、タイタニックそっくりのシーンとなります。また、日系の医者が傷ついた米兵に近づき、手当てに入ると、「ジャップめ、近づくな！」と叫び、結局、白人看護婦が助けに入り、彼を落ち着かせるシーンがあります。日本の山本五十六長官は、「もはや奇襲攻撃ではない」という言葉を発し、攻撃を終了させるの。

この後、ワシントン当局は、日本は奇襲攻撃の一時間後に連絡したと報道。ルーズベルト氏は、「三千人の尊い米国民が亡くなった」とも報道する。米兵は怒り、日本人を「Pin Prick（小さな性器）」などと呼び、「一人でも多く、東京の市民を殺して来い」と軍のリーダーは叫びます。日本の市民が登場するシーンはわずか三秒ほど。着物姿で傘を差した女性達が、お寺の前で立っているシーンが唯一軍人でない日本人。アメリカ軍は、東京への攻撃を開始し、主人公二人の中の一人が亡くなり、もう一人（ベン・アフレック）がそれに逆上し、周りの日本人を「ランボー」のように皆殺しにするの。最後に戦艦「アリゾナ」がまだ沈んでいることが映し出され、涙を誘う。この戦争映画に男性二人と女性一人の三角関係という設定でした。

ベイ監督は「現実に基づいて描いた」といっていますが、真珠湾攻撃の場面では、敵とされる日本軍があたかも人間狩りに襲ってきた獰猛な戦闘シーンが描写され、あたり一面火の海となる。日本の零戦機からは、機関銃での無差別乱射撃や爆弾の投下が次々に行われ、アメリカ人の死がクローズアップされ、これは映画「インディペンデンスデー」等に見られるエイリアンの奇襲以外を思わせるシーン。だけど、これが六十年前の私達日本人の戦闘技術であったのかと女の私でも疑問を持ちました。しかもこの戦闘シーンは、あまりにも壮烈であるため、どこを今、誰が攻撃しているのか到底わかりませんでした。一見、うまく撮影しているように思えるけど一体どこの戦艦や建物を狙っているのか理解できませんでした。同様に、何が破壊されたのかも全く分かりません。石油による爆発が、パール・ハーバーのあるオアフ島全体で起こっているような描き方で、史実に基づいているとは到底思えませんでした。また気になる点が、この真珠湾で実在の誰が亡くなったのか一人も明白にされていないの。ロマンスの象徴、看護婦が殺されたシーンがあるのだけれど、真珠湾攻撃で生き残った老人兵士達が、彼らの多くは、何も出来ず机の片隅に身をひそめていたが爆弾は近くに投下されなかったといっていますから、これは全くのフィクションです。

実在のパール・ハーバーの長官、キメル氏が真珠湾攻撃の際、ゴルフをしていたシーンも偽りでアメリカの豊かな生活が侵害されたことを誇張したい映画製作側の作り話です。実際のキメル氏

はこの攻撃の一週間後に職を失っています。

当時の大日本帝国は、アメリカに対して自国の軍力を見せ、主に他の太平洋での独裁平和を保持したかったのではないのでしょうか。中国、スマトラ、ボルネオ、ジャワ等に援軍を送り続ける日本国にとって、アメリカに介入されることを警戒していたのであり、先に手を打っておいたという見方の方が、歴史的意味合いからしても強いはずです。真珠湾攻撃直後に映画の中で山本長官が「これは眠れる巨人を起こしたのかもしれないなあ」という言葉がありますが、これは地元紙によると、真珠湾のUSSアリゾナ博物館で働く歴史家ダニエル・マルチネス氏の調査でさえ、そのような事実は記録に残っていないと述べています。

むりやりロマンスを作る必要性から男社会の兵士に女性を登場させ、兵士の周りを名誉と金が目当てで兵士に近づく女性達、その女性に日本の折り紙を自分で作り、美しいプレゼントとして渡す米兵士。見方を変えれば売春婦と兵士の関係がロマンスになって映画の八十分を費やし、四十分を戦闘シーン、日本人の一般人はわずか三秒しかスクリーンに登場してきません。アメリカ軍が、東京へ攻撃を行った際、上空を飛び交うアメリカ機の下、日本人の間にも美しいロマンスや家族の愛の絆も数え切れないほどあったはずです。兎も角、あまりにも一方的な映画なのです。

俳優ジョン・ボイトの演じるルーズベルト大統領のシーンも非常に気になるところです。彼は、歴史上自分自身を隠す支配者として有名であった男であるといわれています。車椅子で自分の傷をいつも隠していた男が、東京攻撃を前にワシントンでの会議中、他の軍の上部の人達を集め、激励する場面で車椅子から立ち上がってみせる。またこの映画では、ルーズベルト大統領が攻撃の予感を感じていただろうという説が描かれていません。しかし歴史的事実として多くの歴史家が既に日本の電文を解読していて、大統領は日本が攻撃して来ることを知っていたというオーソドックスな

本説を無視した作品と言わざるを得ないのです。

私と同じ思いの勇気ある日系人達はプラカードを持って上映禁止を訴える行動に出ました。

まだ「えひめ丸」が真珠湾沖に沈んでいる中で、盛大に行われた映画、パール・ハーバー

会場は、初日ということもあり、一万人を超える観客がハリウッド通りを埋め尽くし、テレビ局や新聞社などの様々なメディア関係者が慌ただしく詰め掛けていました。この映画は暴力シーンが激しいという点から十三歳以上という制限がありながらも観衆の中にはどう見ても小学生にしか見えない子供達も数多くいました。有志達は、これから映画を鑑賞しようとする人々に対し、「この上映は間違っている」ことを強く主張、「日本のテレビゲームやアニメをCool（かっこいい）と表現し始めた、アメリカの子供達の毒になる」と訴えました。

しかし、映画を鑑賞し終わり、出てくる人々の中には、「人生、やり直せ！」「お前ら、日本人はひどいことをやったんだ」と云って、中指を立てては有志に、「Fuck You（くたばれ）」と罵声を浴びせ、有志の持つプラカードを叩く人もいたそうです。

映画を見たアメリカ人の反響はやはり、「現実」と「映画」の区別を全く理解していない。勇士達の一人が自分は日本人であるということを述べると、「You are ugly（お前は醜い）」と云ってきたそうです。その後もハリウッド通りの映画館前には続々と子供達を乗せた黄色いスクールバスが何台も止まり、歴史の授業の一環と称して、戦争とは全く無縁の無邪気な子供達が劇場前に降り立っていく姿が見受けられたとのことでした。

制作費200億のパワー映画ですから、彼らの心にある、かわいいポケモンのイメージは、簡単に木っ端微塵に吹き飛ばされたことでしょう。

何故、日本人はこの映画の中で差別的に不平等な立場で映し出されながら、それに対して疑問を持ったり、反論しようとしないのでしょうか。

映画の監督のマイケル・ベイ氏はロサンゼルス・タイムズ紙に対して、こうコメントしています。

「明らかに邪道で悪事のある戦闘シーンの全ての大虐殺を見せるために、さらに暴力的に描くことが必要であったのだが、それが出しきれなかった」反日感情、国民的差別感情を露わにしているのが、一目瞭然でしょう。しかし、これだけ日本を批判しておきながら、日本の観客からお金を頂こうとするのだから全くおかしい話です。

日本人は、この映画に対して、何故多くの台詞を日本に対してのみカットしなければならないのか抗議すれば、日本はアメリカに次ぐ現在第二の配給国であり、もし日本に売ることができないということになれば、ビジネス上の立場からもダメージが大きく、二度と彼らも日本人を敵役だけとして描いた一方的な娯楽映画を作らないようになり、彼ら自身、日本人の人権を害さないような映画を作らざるを得ないでしょう。

80年代前期の「ランボー」では、ベトナム人には人権がありませんでした。一昔前の映画「ターザン」では、アフリカ人は原住民であり、サファリの運転手でした。そして、今回の映画では、日本人は全く人間性を持ち合わせない殺戮人間の神風隊でしかないのです。

それから、日本の戦争の悲劇を描いた映画「螢の墓」で登場する十四歳の少年と四歳の妹の一生懸命に生きようとする美しい姿、その中で彼らの家族が死んでいく深い悲しみを描いた作品ですが。映画「螢の墓」は近年、米国に輸入されたものの、残忍なシー

ンがあるという理由から十八歳未満は見てはいけない制限がついているそうです。アメリカはこうした理由付けで日本の敗戦後の映画であってもアメリカが日本に施した。東京大空襲と二つの原爆に通じることはカットしています。

私はこのあまりの一方的な映画に懸念を示し、日本側は台詞の訂正をするのか、直接アメリカから日本の配給会社へ確認の電話をしました。やはり台詞の訂正は多く、日本人をだます作業が行われています。例えば、「Bitch（売春婦）」や「Pin Prick（小さな性器）」などの卑語は、全て日本語字幕は出ません。また、米軍機が東京上空から落とすミサイルに、「This is for Betty（これはベティーの分だ）」が、「ベティーのために」と、ロマンを誘う下手な和訳がされています。また、米軍が東京攻撃する前に軍のリーダー格（アレック・ボールドウィン）が兵士を集めて云う言葉、「Kill those bastards as many as possible（あの馬鹿野郎どもを一人でも多く殺して来い）」が、「一番おいしそうな目標に体当たりで突っ込め」と、意味不明な訳になっている。こんな小細工で日本へ売られたとしても、私の三人の子どもがショックを受けたように。日本の子ども達はただ茫然と沈黙を守るでしょう。

大人の方は映画と割り切るでしょうが、黙っている子どもは割り切れないから黙っているのです。ただ、そこは日本ですので、子どもが親に対して敵意に満ちた視線を発しないだけの事です。でも、ここはアメリカですので三人の子どもは私に日本人が理解できない、そして私達にはその血が流れている事実を私に訴えたのです。だから、私は子ども達に暗示された呪いを説くために勉強しましたのです。異国にいて思う、思慕にも似た望郷の念を抱きつつ。

時にタイピングする自分の手に落ちる涙を冷たいと感じながら、でも、日本の子ども達は、信じてしまうでしょうね。大人が黙っているから、黙っていると云うことは真実である証明であると感じて、そして、将来世界へ羽ばたく日本の子ども達に誰かが、パール・ハーバーを語った時に日本の青年は何を語るのでしょうか、私の母は、伯母を東京大空襲で、父は、伯父を長崎の原爆で亡くしています。せめて私の三人の子どもだけでも、パール・ハーバーを語られた時に、日本の立場をキチンと言える子にしたいと思っています。それが祖国に対する私のせめてもの良心だと信じています。

風ちゃん、アメリカに来ることがあったら必ず連絡下さい。

つもる話しがあります。それに日本の話しも聞きたいし

風ちゃんに私の自慢の三人の子ども達も見せたいから、

それでは、長々と

良い思い出を日本で作ってくれた年下の親友の幸せを祈りつつ。

ここで終わっています」

「————何か云いたくてもコメントが出ないよ」

「私、読んだとき。ショックだった。アノ時代の人。終わってもう56年も経つというのに、原爆落とした国の人から、まるで殺人鬼か人を殺す為に産まれてきたかのような言われ方をして、アノ時代の人。今の人の誰よりも、地味で静かで、慎ましやかで謙虚な生活して生きていたのに、死んだら鬼畜のように扱われる。死んだら、その人達の名誉をここまで傷つけていいのかって思うと人間っていやな生き物に見える」

「テロ対策法案をやっていてね思うんだが。北朝鮮に10人拉致された事には怒りを覚える日本人だが、20人以上殺されたにも関わらず怒りが沸いてこない。それどころか報復は報復を呼ぶという流行語を産みだした。その親世代は反対に余りにも勇猛果敢に大国に挑んでいった。アレは何だったのかと。訳が分からなくなった。何故という思いは改めて私の頭にこびりついた。半世紀で日本人の人格が変わったのか、それとも半世紀前の人。本来やる気のない戦争を選んでしまったのかって————」

「私は原爆落とした人の無責任さが許せない。でも、パール・ハーバーの映画はひとつだけ、間違いのない真実を雄弁に物語っているわ」

「————」

「英語版では米兵は怒り、日本人を『Pin Prick（小さな性器）』と叫んだ部分があるでしょう。ベイ監督は撮影の前、八十歳以上の高齢者達から心に痛みが走るような話を数々聞いたんだけど、その中に日本人を『Pin Prick（小さな性器）』と言った高齢者達の声があって、削除する必要性がないから、その通り使ったんだって云っているのピンと来たの。これは、学校でもマスコミでも誰も言わないけれど、みんなが潜在的に感じていることだから、敢えて云います。アメリカ人は日本人を黄色い豚くらいにしか思っていなかった。満州事変の石原莞爾が東京裁判の検察官に戦犯は誰かと問われ『無差別攻撃を行ったトルーマン』と言ったけれど、その黄色い豚が、兎も角気に入らない、物資が、まるでない小さな国の小さな人間が、雄大な清国そしてアノ大国ロシアに勝っている。小国で島国の日本を。調べてみると、3千年以上の歴史を有し、この間一度として天皇家が変わることなく、その天皇を中心に整然と社会が構成されている。チョンマゲを結び、巨大なナイフ（刀）を持って日本の文化のみに固守しているのかと思いきや明治維新では西洋文化を一夜にして取り入れるような柔軟さを持ち合わせている。いわゆる和魂漢才和魂洋才と云われるような独自の精神性を形成している。しかしアメリカはそんな日本を脅威に感じこそすれ、けして尊敬の対象にはしなかった。むしろ目障りな存在と云っていい。このままではアメリカのアジア戦略は思うように進まない。既に敗戦の色の濃厚な日本人を同じ人間だと考えたのなら、50万人の殺戮に至る東京大空襲・広島

・長崎の原爆は現実化しなかった。しかし、所詮、相手は人間じゃあない黄色い豚のジャップなのだと思いますれば大量殺戮は容易で可能だった」

「風ちゃん！それは考えすぎだよ」

「原爆落とされた方が加害者で落とした方が被害者を装うのは、一体何故なのかって、ズーと考えてきたんだけど、考えて見れば、今でも日本はジャパンですもんね。あれは、ジャップという日本人に対する蔑視用語で、それが変化したジャパンをそのままに使われているくらいだから、いまだに政府はニッポンだとは主張しないもの」

「考えすぎだ」

「真珠湾攻撃はアメリカは知っていて、どうして黙認したの。それは、殆どのアメリカ人が知らない小さな島国の日本が脅威だったからだとしか考えられないのよ。それを知っていたのはアメリカの上層部の人だけだった。真珠湾攻撃を受ける事によって予想される犠牲者の数より、アメリカ国民の目を物資の産出がまるでない小国日本に向ける必要があったから敢えてパール・ハーバーを黙認した。

私がアメリカ人だったら、どうして、直ぐに戦闘態勢に入って応戦さえしてくれていれば、あのパール・ハーバーは日本の惨敗となり、日本は戦争の道を断念せざるを得なくなるから明らかに東京大空襲・広島・長崎の原爆は投下せずに済んだのではないかと叫ぶわ」

「—————」

「日本人は区別はするけど差別はしない。でも、差別をしていると云われると怯むの。それに対してアメリカは差別をしている癖に区別しないことで差別を隠している」

「ふう！、お前の云っているのは暴言だ。撤回しなさい」

「いいえ、撤回しません。おじちゃん、ホワイトハウスと国会議事堂見ましたね」

「それは見たさ。それがどうした」

「そこにはどんな真実があるか知っていますか？」

「真実！」

「日系米国人は差別され、迫害された。それは組織的な国家犯罪だった事は既に歴史が証明しています。確かに日本も封建制で階級があった。しかし黒人の住む国に行って、平和に暮らしている黒人を犬や猫のように鎖で繋いで人身売買の市場を作るような考えは、まかり間違っても日本人には断じてありません。原爆投下の背景には明らかに絶対に人種への偏見があったという証です」

「ホワイトハウスと国会議事堂の話しはどうした」

「1790年当時、その辺一帯は無数の蚊がだけがいる沼地だったそ

うです。そこを開墾し前身である白い館と自由の館を作ったのは遠くアフリカから連れてこられた奴隷でした。4千万もの黒人が人身売買され4人に1人は途中で死んでいくという過酷な旅の果てが肉体労働の強制でした。民主主義のシンボルである二つの建物は黒人の涙で立てられた非民主主義が土台になっています」

「—————」

「アメリカ人から見て日本人は同等ではありませんでした。人種差別がいけないと云っているのではありません。日本の政治家や官僚は日本人には威圧的なのにアメリカの人種差別があったという大きな事実を覆い隠してヘイコラして、貢ぐ君をしている事を問題にしているんです。今、アメリカ企業と日本企業が提携しているけど、そのパワーでアジアに進出して、アジアで経済的摩擦が起こったときに、アメリカは日本とパートナーの手を切る危険性を秘めているということを云いたい。アメリカは日本を切った、だから、やっぱり日本は悪い国なんだと思わせることでアメリカの信用を護る道を選択する時があると云っているのよ。太平洋戦争で亡くなった人は云うでしょうね。散々、私達のことを馬鹿にしてきた報いだって。親を馬鹿にし続けた家が滅亡したことはあっても発展していった家は一軒もないわ」

「—————」

「戦後、GHQは飴と鞭を持ってきた。おじちゃん世代の日本人は、ジープで来たGHQは、いつも食べ物がない栄養失調の子ども達にチョコレートとチュウインガム手渡した。子ども達は食べたことのない甘味に酔いしれてアメリカに憧れた。これが飴。GHQはギブミー世代の子ども達が大人になっても、二度と神風になってアメリカを攻めてこないように天皇制を弱くする為の憲法を作り、回帰できないように、漢字に制限を入れて、つい最近だといってもいい明治・大正の新聞記事を読めないようにした。これが鞭。飴と鞭を浴びた子は日本の精神を徐々に無くしていった。小学校に入学すると見えない左翼思想の切符を持たされ、大学に行って切符の答えを行動に表したのが全共闘世代だったと云うわけです」

「ご高説に頭が痛くなってきたよ」

「頭抱えるくらいなら総理に立候補しなさんな」

「むっ！ねぎらいの言葉でも云うかと思いきや」

「総理大臣を止めた時にねぎらってあげる。——だいぶ興奮したから話を変えます。おじちゃん、日本の子の学力が下がっているそうですね」

「そうだね。トイフルという世界の偏差値、みたいなものも低くなってきているらしい」

「私、自分のサイトから同年齢の子にいくつか質問をしてみました。質問は3問だけです。『日本はGNP第2位の国です。1位はアメリカです。それではGNP第3位・4位・5位の国はどこ

でしょう？』次は日本とアメリカの関係です。『アメリカの人口は日本の何倍ですか？』『アメリカの国土は日本の何倍ですか？』200人の同世代の子に、調べないで感じたままの数字で答えて下さいということでした。200人にメール発信して一体何人の人が正解だったと思われませんか」

「少なくとも50%以上の正解率が欲しいね」

「G N P 言えば第3位はドイツ、4位がフランス、5位はイギリス。アメリカは日本の約2倍の人口と25倍の国土を有しているという問題で答えを調べた子も居るでしょうけど全問正解は200人中12名でした。正解者の人の中でも第3位のドイツ。4位のフランス。5位のイギリスを足したG D P より日本の方が上である事を知っていた人は、たったの3名でした」

「3名か。そんなもんかね」

「ですから、こうした問題を小学校の時からリアルタイムに試験問題に出すべきなんです」

「リアルタイム？」

「だって変動するでしょう。関連して云えば、G D P の順位も国債の順位も逐次出題していれば、日本の立場が時々刻々と変動していることが分かるでしょう。日本の現在地を地図だけで知っているだけでは情報化時代に対応して子どもは育成できませんよ」

「————」

「でも、本当の学力低下は別の所にある。政府も教育者も親もそれを理解していない」

「別の所？」

「おじちゃんはお爺さんの時から代々政治家のお家柄です。恐らく、他の人より大泉家というものに誇りを持っていると私は思っているんですけど」

「風ちゃんだから云うけどね。私は大泉家に誇りを持っている。ただ、それを公言すると、いらぬ誤解を招くからね。ただ、自負はあるよ」

「だから、おじちゃんには信念がある。お爺さん。お父さんと肩を並べる政治家になりたいと思っている。それで、誰も云わなかった郵政3事業、民営化も一生の仕事とすることが出来る。でも、おじちゃんが一代目の政治家であったなら、そこまで出来るでしょうか」

「うん。パワーは落ちるだろうね。大泉の孫だから、言い出したら聴かないって、祖父や父のイメージをだぶらせるからね。初代ではそのイメージは出せない。有権者が必ずやるだろうと思うのと出来るのかなあと思うのとでは迫力が違う。私は祖父、父に感謝している。つまずきそうになった時でも、祖父と父に笑われると思うし、いずれあの世で再会したときに胸を張れないという気持もある。それで頑張れるんだよ」

「でも、代々、祖父も父も人殺しの家系だったら、どうですか？」

「うん！、祖父や父の話しをしているときに、あんまりの質問だな。――まあ、いいや。そうだな。もしそうだとしたなら、自分は真っ当に生きようと思うだろうね」

「フッフッフー」

「イヤな笑い方だね」

「それは、おじちゃんが、確固たる由緒ある家系の人だから、そんな悠長なこと云ってられるんですよ」

「それって、郵貯に掛けた洒落かい」

「そうです、――日本人はね。犬の血統書に熱心でも、自分は三代遡ると、どんな家柄だったか分からない。でも、隣の人と大同小異だと思っている。でもね、三代続いた人殺しの家系であったとしたら、自分だけは真っ当な生き方をしたいという反面、それ以上に自分も犯罪を犯すのではという恐怖に一生脅かされるでしょうね。私の父と母は病弱で、父は短命だった。それで私と佳枝は話したことはないけど共通した観念みたいなものがあって、私たちも、そう長生きではないだろうと思っているの。そういう風に、子どもって語り継がれないけど知っているというものを引きずっているんですよ」

「――――」

「今の、日本の子どもは、パール・ハーバーとテロを同一で語られ、教科書では、暗に、お前達はお爺さん世代の人殺し集団の孫だと教え込まれている。だから、おじちゃんが躍起になって自衛隊派遣を叫んでも、人殺しの血が流れていると教え込まれて半世紀も足ってしまったから、1930年代の日米安保闘争、1960年代全共闘世代の闘争の後輩達は、何も考えないし行動もしない。日本人であることに誇りが持てないからガングロになったりピアスをして黒人を装ったり茶髪にして白人になろうとしたりする。赤や紫に染めるのはアニメの主人公への逃避、成人式で暴れるのは大人の仲間になりたくない、ずーっと子供のままでいたい症候群。他方、そうしたことに抵抗を覚えた若者は何かを求めた。キリスト教・仏教・イスラム教そこへ、着ているものはイスラム的、風貌は長髪とひげ面でキリストに似せたつもり、座禅を組んで仏教を臭わせるオウムが登場した。正体は猪八戒という妖怪だったが、ああ、尊氏、オヨヨ跪いた」

「風に云わせれば、オウムも教育の弊害を受けた犠牲者になるのか」

「そうです。教えなくてはいけないことは教えなかった大人の責任があると思います。結果として折角の知恵をサリン作りに費やし日本発バイオテロのハシリとりテロ集団はオウムからヒントを得て炭疽菌をアメリカにまき散らした。日本人が日本人になりたくないような教育は確実に若者の精神を蝕んでいます。情報化社会をコンピュータ的に云えば国がハードで企業がソフトでOSが歴史で教育がCPUですよ。総理大臣なら忙しくても小学校の歴

史教科書だけではなく社会科資料集という教科書の中まで読んでおく必要があるわ。資料集の教科書で漫画になって、こんな下りがあるのよ。先生が思ったことを作文にせよと云うの。ある男の子が作文を読み上げるの。『僕の父ちゃんは日本は戦争してはいけないと云います。戦争は人の命をうばって何もかもこわしてしまうとー僕もそうだと思います。兵隊さん死なないでください。お父さんお母さんが悲しみますからー』それを聴いた教師は『きさま、日本男児かと』みんなの見ている前で殴り飛ばすの。そして『兵隊さんに鬼のアメリカ兵、イギリス兵を沢山、殺して貰うように書き直せ』そうすると男の子は『い、いやだ』と云うのよ。どう思いますか」

「アノ時代に私は近いから云えるが、小学校でそうした現実はなかったよ。負けるのではないかと思っていた親は居たが、戦争への道はやむを得ない正義にも似た戦いで、国家と国民が表裏一体で分け目も振らずに一致団結していたからね。今の作文を読んだ子がどこかで実在していたとして、そうした作文を読み上げても当時の教師なら、兵隊さんは命がけで自分たちを護ってくれている。兵隊さんが死にたくないと思ったら君も、ここにいる教室の子も先生も君たちの親や兄弟もアメリカ人、イギリス人に銃剣で突き殺されることになるんだよと言っただろうね」

「私は本当にそうしたことがあったのなら、もっと特定して具体的に立証して書かなければいけないと思って腹を立てたの。そうして、もう一度その稿を見ると、小さな活字で漫画名らしきものが載っているのよ。つまり明らかに、戦後に書かれたフィクションの漫画を当時の実相として載せて居るわけ。でも、そこまで読める小学生は居ないから、彼らの心の中には本当に居た少年として住み着くでしょうね。ここでわね、子ども達は正しかった、悪かったのは軍部であるということに協調したらしいんだけど、既に政党政治で女性参政権が終戦の翌年1946施行されているから、既に男性には平等に参政権があった。女性に身びいきして戦争の罪はなかったとしても、アノ時代の男の人に罪がなかったとは明らかに云えないんですよ。つまり、歴史を語る時最早、近代に於いて一部の人だけを問題視することは出来ないんです」

「子ども達であっても、ひとり、ひとりが歴史を作っているのだという教育ではないんだな」

「そうです。これは悪い方向にいつていると思ったら、例え小学生であっても、立ち上がれ、何故なら君たちが日本の歴史を作っていくんだからという歴史から一番大切な教訓を学ぶという教育がないんですよ。こうした教育が蔓延しているから、いつも誰かのせいにして、誰のせいにも出来ないと国や時代のせいにする子どもが増えるだけなんです。私は子ども達に、昔の子どもは意見があっても表明できなかつた。でも、君たちは先生よりパソコン出来るんだから、政府のWEBサイトにどんどん自分の意見を云いなさいといっているけど、自分の意見を持っている子は殆どい

ないわ」

「それで、どうすれば、良いというの？」

「せめて、大泉総理が日本人を愚弄するのもいい加減にして欲しい。アメリカ的な手法では、世界は平和にならない。地球の断末魔の叫び声を聞け自分さえよければいいのか、一番の二酸化炭素放出国が京都議定書を受け入れないことが何よりもアメリカのエゴを証明しているって云うべきよ。時が時だと云うのなら、米のマスコミに大泉メールマガジンを配信して日本の立場と考え方の理解を深めるくらいのキャンペーンをすればいい、日本の若者が日本人の使命と役割を考えて行くキッカケになるかも知れないじゃない。諸手をあげて、簡単に協力するといってしまうのは無知かなのか思慮が足りないのか。普通で当たり前のことを云っている石塚都知事が突出した人に見えてくるのは経済大国第二位のプライドがないからよ。ギブミーチョコレート世代が頂点に立つと政治家も官僚も日本人に対しては威圧的だけどアメリカに対しては何も言えなくなる。特攻隊の心情に触れ涙するもそうした人が今甦ったなら何を語るかを考えようとしなさい、ふぬけ達ばかりだから、こういう自体になる」

「ふぬけー」

「いったい何のために国債30兆円枠を維持したいんですか？」

「それは今のままだと若い人にしわ寄せがいくからだよ」

「それだったら過去100年間に地球全体の平均気温は0.3～0.6度と急激に上昇していて、現在のペースだと2100年には平均気温が約2度上昇すると予測。そうすると南極・北極の氷が溶け出して日本の場合、海面が1m上昇、海面（満潮水位）以下の地域が2.7倍（2,300km²）に広がり、人口410万人、資産109兆円が消滅。そうならない為には主要国のEU－8% 米国－7% カナダ－6%

日本－6%の削減に早く踏み切らなければならないのにアメリカだけが嫌がっている。子孫に負担を掛けないというのであれば、国債枠30兆なんかにかかわっていないで、日本の首相である、おじちゃんが世界の大統領に懇々と意見すべきなんですよ」

「温暖化のことは私なりにやっている。第一、人を無能呼ばわりするな」ムツとして大泉は言ったが、風子は動じることなく続けた。

「人間は本当のことを云われると熱くなるもんです」

「熱くなんて、なってませんよーだ」

「まあ、おじちゃん。たまあには若い者の話しも聴きなさい。日本経済が悪い事は子どもでも知っている。おじちゃんは構造改革が優先だと云っているけれども、亀田さんは、イヤ財政再建だという。ちょっと前に遡れば本橋さんは構造改革と財政再建、二兎追って一兎も得ずで株価を下げ続け。大淵さんは財政再建で株

価を上げたが他界。森田さんは大渕路線を引き継ぐと云っていたけど話すたびに墓穴を掘って上がっていた株を下げた。おじちゃんの前総理と同じ森田派閥なのに反対の構造改革を掲げて一気に3千円上げたけど5千円下げて差引2千円下げていたところにアメリカの同時テロで更に千円下げた。総理は同じ憲民党なのに、どうしてこんなに政策がコロコロ変わるんですか。まるで、総理の個人的趣味じゃあないですか。これでは景気が良くなる方が不思議」

「それは違う。私は信念をもってそうしている」

「お言葉返すようですけど、他の総理も信念は持っていましたよ。信念というと聞こえはいいけど

大渕さんは他界されたから結論が出ないとして、おじちゃんになる迄のお三人の星取勘定は、0勝2敗1引き分けです。信念なんてその程度の確率なんですよ。敢えていえば信念なんてもって欲しくないんです。世界が混沌として目まぐるしくて、しかも誰も予想しなかった同時テロまであるのに、さして根拠のない国債枠30兆円という数字を一人の男の信念の劇場の為だけに断行されるのは大迷惑だと云っているんです」

「しかし、国民は30兆円という公約を支持してくれたんだよ」さしもの大泉も語気が強くなって言ったが、風子は一切動じずに言った。

「伝家の宝刀を抜くかのように、すぐにそういう言い方をすれば勘違いも甚だしいです。国民が支持したのは前の人がお話にならないくらい分からない人だったこと。本橋さんでは逆戻りする、亀田さんでは上手く行かなかった時が怖い麻田さんは新人でよく分からない。他に良い人が見あたらない。人柄が良さそうだからという理由でおじちゃんを選んだんです。一番やって貰いたいことは、何と云っても景気回復なんですよ。第一、金融省が銀行監査しても、たかが不良債権の額も決められないし税金投入しても再び悪化している状況で、いったい国民の誰が30兆円という数字が正しいか分かるんですか居たらお目に掛かりたい。財政再建路線が10年以上も続いているのにいっこうに良くなならない。その点大泉さんは何度か総裁選に出ていて政策も知っている。消去法で選ばざるを得なかったのであって、国債枠30兆円の数字に絶対なる確信を国民が持てる根拠はありません。第一総理大臣のおじちゃんが、その事一番、根拠ないことを知っているじゃあないですか」

「口を慎みなさい」

「はっきり申し上げますけど、名医とは患者に与える薬が適量だから名医なんです。少な過ぎれば利かないで毒。多すぎても利かないで毒。その人にあった適量だけ薬になることを知っている。これが、いわゆる、さじ加減というもので、名医足る所以です。国債も同じです。まして同時テロが国債30兆円の数字に織り込まれていないんですから、30兆がテロ後は50兆になることだって名医なればこそあり得るんです。好景気ならまだしも、未曾有の大

不景気の時に、患者の治療費を30兆枠に決めてからオペをする名医なんて居ません。大泉という人気先行の内閣は藪医者です」

「藪医者！」

「お気に召さないのなら、その根拠を申し上げます。日本の投資家は景気が良くなって欲しいという根本精神がありますから、おじちゃんの一喜一憂しないのコメントで売り浴びせはしていないんですよ。おじちゃんのコメントはヘッジファンドだけに付け入るスキを与えて彼らだけを儲けさせて大いに潤わせただけです。その程度のことを読めない頭の、どこに国債枠30兆円の根拠がありますか」

「————」

「本当は株価の下落のことで電話したかったのよ、おじちゃんが、愚図るから話しの方向がずれたんだわ」

「愚図ってやしない。それより株は下がると見ているのか」

「このままいけば、元の本阿弥を通り過ぎて大暴落する。大泉政権は終わると思っています」

「何だって、それは困る。何か秘策はあるのか？」

「無いこともないが、ナニブンにもおじちゃんは頑固で石頭だからな」

「風ちゃんは、政策、未来予知の創出者だ、どの恋人よりもあてにしている」

「色気のない恋人で済みません」

「どう致しまして」

「おじちゃんは今回の総裁選で総理に選出されるとは思っていませんでした。何しろ憲民党員だけの予備選があって最大派閥の本橋派が勝つはずだったから、おじちゃんは成れないという前提で高々と30兆円枠内の理想を掲げて落ちるつもりが奇跡的に総理になってしまって、ところが云ってしまった30兆枠が呪縛のように足にからみついて転びそうな状態です。政治は朝令暮改でなければなりません。私の結論は30兆ならいいけど30兆1円では駄目だというくだらない縛りを早く自分から消しなさいということです」

「—————」

「そうすると、アメリカのヘッジファンドは構造改革は出来ないと踏んで売り浴びせの材料だということで、又してもヘッジファンドだけ儲けさせることになってしまうでしょうね」

「そうすると、——どこまで下げるか分からなくなるぞ」

「経済をトンネルに例えると、悪い事に使われがちだけど、トンネルがなければ山を一回りしなくてはならないでしょう。トンネルを経済で明るく解釈すると山を突っ切る一番の近道だと考えるべきです。上昇気流なのか、下降トレンドなのかを見間違えると、同じ政策・方針でも全く反対の効果に働きます」

「今はどういうところだと思う？」

「トンネルは考えようによっては、何よりも山をくり抜いているんだから最短距離の道路です」

「どうも、前置きが長いね」

「そうですか。それでは、秘策を云います。暗いトンネルをライトアップして明るいトンネルに切り替えます。プッシュ大統領に連絡して、大統領が日本政府に要望としてアメリカも戦時国債を出して経済を支えているが、日本も協力して国債枠30兆という枠を大きく外して欲しいとニューヨーク発で大々的に発表して貰うんです」

「そんなことは出来ない」

「おじちゃん。おとこ大泉を捨てて下さい」

「出来ない、構造改革なくして景気回復はありえない」

「構造改革なくして景気回復無しの元祖は8代将軍吉宗です。吉宗は司法・立法・行政の3長官で絶大の権力があって任期もないから享保の改革は庶民不在、官僚絶対の中で享保の改革は成し遂げられたんです。おじちゃんにあるのは、明日も続くのか、どうか全く分からない国民の人気だけです。強烈なライバルが居ないから救われているけれども、物の全てが、お宝であって常に在庫不足の吉宗の時代と、物があふれんばかりの山積み在庫状態で裁けないことが大不況の根幹の時代に吉宗や米百票の小林虎三郎の精神は学んでも手法を真似ているのは滑稽です。

世界史を見ても享保の改革のような手法が成功した例はありません。八代も続いた徳川幕府の権威が既に象徴として完成していたという歴史的側面で捉えるべきであって、現代にその手法は通じないことを知るべきです。コンピュータ経済に於いての現代では景気回復をしなければ構造改革なんて出来ないんです。景気を優先して、大泉改革に任せていれば景気が良くなると国民が感じなければ長続きしませんよ。特に大泉人気の裏地は町中外相のブランドが支えているのであって剥がれればヨレヨレになってしまいます。人気はねたみと繋がっています。蜜月時代は長続きしません。人気なんて他愛のないものです。何か事があれば特に内部から問題が発覚した場合は支持率なんて一夜で半減です。党内抵抗勢力は人気というブランドで抑えられたただけですから大泉内閣は短命に終わるでしょうね。特殊法人改革、ああ、あつたなそんな言葉がで終わります。そうならない為には株価上昇プログラムを継続して優先させていかななくてははいけません。まだまだ大泉ファンドは始めたばかり、ここで株価が急降下ともなれば構造改革など永久に出来ません。プッシュ大統領のリップサービスで日本は元気づきます。アメリカに対しては散々、滅私奉公しているんです。リップサービスぐらい頼めるでしょう」

「馬鹿！何を云うか小娘が。私は痛みに耐えてくれと云って国民の負託を得て総理になったんだ」

段々大泉の語気は荒くなっていった。

「今は痛みに耐えている段階じゃあないのよ。あのアメリカがテロに巻き込まれた。その粉塵が日本を襲って来ているんです。だ

いたい、重症患者を目の前にして治療費は30兆円内に納めます。なんて豪語している名医がどこにいますか。どうせ総理にはならないと思って言った口から出任せ公約なんていくらでも、変更可能ですよ」

「口から出任せとは何だ！」大泉の堪忍袋が音を立てて破裂した。

「男の人はね。追いつめられると大きな声で女を威圧することを私は知っています。私を威圧したければ、私以上の論理をもって説得して見せなさい。いやしくも日本の総理なら、罵声の前に理路整然と小娘を説き伏せなさい。私は本当は説き伏せられたいのよ」

「悪かったよ」

「どういう計算で30兆円枠なんですか。アメリカ同時テロは予定に入っていたんですか」

「そんなもん、入っている訳がないだろう」

「関東大震災は入ってるんですか？」

「入ってない」

「どうして？天災は忘れた頃に、絶対にやってくるんですよ、総理たるもの、いつでも今でも、地震は来るくらいの気持を持つべきです」

「そんなとこまで考えていたら政治が出来るか、分からん奴だ」

「だったら、30兆円枠に納めたいけれども、未来は非決定的ですので、常に不測の事態が発生するのが常であり、まして世界の経済事情が混沌とした時期でもあって、変更の可能性は常にあります。だから、30兆円枠内より、遙かに大胆且つ柔軟を優先しますくらいの事を云っておくべきよ。将来に含みの発言を少しでも入れておけば良かったのに、自分で自分の首絞めているんじゃない。馬鹿みたい」

「馬鹿みたいだと！」

「おじちゃん、私に馬鹿と云いました。お返しただけです。人間は付き合っている人に感化される動物なんです。大泉総理の周りに、追いつめられて自殺しそうな人が居ますか？未曾有の不景気だなんて政治家は口にするだけで本当の意味を理解してやしないわ」

「それじゃあ、風子がどれだけ不景気が分かっているんだ」

「私が頭を刈っている人の中で、借金苦から一人、首つり自殺した人が出ました。佳枝の友人のお父さんも商売が左前になって一昨日、首つりました。二人ともバブルに浮かれた人ではありませんでした」

「—————」

「兎も角、これ以上の犠牲者を出さない。人体の血液になる銀行は、もう自助努力で不良債権は処理出来ないわよ」

「負け組は市場から撤退するのは資本主義の原則だよ」

「馬鹿」

「馬鹿だと！」

「馬鹿が気に入らないなら、馬鹿な私に説明して下さいよ。日本長期信用銀行を救済するために国民の血税3兆7千億をつぎ込んでアメリカ外資のロップルートに10億で転売したのはどういう事ですか？」

「—————」

「その後、新光銀行と名前を漢字にして外資のイメージを薄くしているけど、アノ百貨店の、トゴウの債権を放棄して2000億で預金保険機構に売り飛ばして、トゴウ倒産させ、その後も瑕疵担保条項使って預金保険機構につけを回している。アメリカ財政と資本は、はげ鷲のように次の日本の獲物狙っているのよ。国債30兆枠を護っている間に100年の歴史を誇る日本の著名な企業はアメリカ資本に飲み込まれる。ひさしを貸して母屋を取られる状態なのよ。どこかの馬鹿評論家は市場原理だと云っていたけど一つの有力な企業を育てるには100年掛かるのよ。企業の売却は昔の植民地になるのに等しい事なんです。日本の政府はアメリカからいったい、いくら貰って、アメリカに転売しているの」

「馬鹿を云うな」

「云っておきますけどね3兆7千億の中には私が払った税金だって入っているんですからね。云う権利はあるわ。政府のやったことは泥棒に追銭より始末が悪い、泥棒ならお縄に出来るけど、お縄になるどころか相変わらず、皆さんご健在で性懲りもなく政治家やっているじゃあないですか。ハッキリ云います。景気浮揚して、自殺者を減らす為に、馬鹿政治家達よアノ腹立たしい銀行を救済しなさい。国益を優先しなさい。これ以上外資をのさばらすな。日本の政治家なら命を懸けて日本の企業を救って日本人の

雇用を守れ、お主は日本人から投票されてなった政治家ではないのか」

「—————」

「質問です。だいたい、バブル崩壊から10年も立つのに、どうして不良債権の処理が出来ないのですか？」

「銀行が担保にしていた土地が下がったことが原因だ」

「次にどこに行っても駅前に銀行があるのはどうしてですか？」

「便利だからだ」

「それでは、小学生の答えでしょう。商売していれば、誰だって駅前に出したい。家だって出したい。床屋は一軒も駅前に出せないのにどうして銀行は軒並み駅前に店を出せるのかを聴いているんです」

「それは、分からないな」

「本当に分からないの？そんな程度の知識で、この国の総理が出来るから経済が良くなるらないんですよ。良く聴きなさい。そもそもバブルそしてバブル崩壊とは何だったのか。誰かが札束印刷してばら撒いたという話を聞いた事はないわ。ある強欲な男が駅前に土地を持っていた。ある時、銀行が来てその土地を売ってくれと言ってきた。強欲男は相手は人の禪で相撲取っている銀行だと5億が相場のところ10億と吹っ掛けてやったら。次の日、銀行は10億と書いた定期預金の証券を持ってきた。土地を買ったはずの銀行にはその日10億の預金残高が上乗せされた。それを聞いた隣のおやじのところにも他の銀行がやって来たのでおやじは隣の銀行が出店したのは半年前だと今度は3億上乗せして13億と言ったらまた13億と書いた定期預金の証券を持ってきた。土地を買って損をする筈の銀行にはその日13億の預金残高が上乗せされた。

かくしてどこの駅前も駅はどこ銀行の側、銀行はどこ駅の側という事になり駅前の土地はうなぎ上り喜んだのは駅前に土地を持っていた人と銀行、泣いたのは駅前から追い出されバス通勤を余儀なくされたサラリーマン、このままでは預金源のサラリーマンから反旗ののろしが上がる。そこで銀行は考えた。気の毒なサラリーマンにも住宅ローンを貸付けて文句が出ないようにした。資産を持てば誰だって保守的になる。体制が変わって社会主義が台頭すれば資産は無くなるかも知れないという恐怖心がでてくる、だから保守一党政治だった憲政党と銀行は利害の一致を知って、巧みに批判をかわしていった。憲政党の息の掛かった官僚は第二の就職口で大銀行の重要ポストが約束され見返りに代議士に勘定科目、使途不明金という名の政治資金を工面した。高値の土地は高層ビルを立ててテナントを入れるいことで利益を生みだす。銀行は住宅ローンで郊外に家を持たせ、長い距離を乗り継いで駅前の銀行に来るサラリーマンの預金をかき集めゼネコンに融資する、かくして銀行・ゼネコンは憲政党の集票・集金マシンになっていった。その結果、日本の狭い土地を全部売ればアメリカ全土が一つ買えるとまで云われるまでになった。この絶頂期をバブルという」

「それじゃあ、まるで、憲政党がこの国を悪くしたような話しじゃあないか」

「憲政党の政策が良かったのは、日本列島改造論を唱える前までで、その後はそうしたシステムを変えることに主題を置くべきだった。ニクソン、ついでオイルショックの時には更に考える一大チャンスだったのよ。特に日本列島改造論時は一億総不動産屋という品格も理性も感じさせない言葉が流行したんだから、考えるべき布石はあったはずよ。しかし土地を担保にして金を貸すなら小学生でも出来る銀行業を政界・経済界は容認しつづけた。そうでなくても狭く、しかも山地が70%を占める国にとって一番貴重な土地を騰貴の対象にする思考過程にメスが入らず。大蔵省は土地担保主義の安全確実な融資制度と護送船団という名の異業種参入阻止制度で銀行を管理下に置いたコレをどなたかが土地本位制・土地神話と名付けた。狂気の沙汰で自分たちが住みにくい国にしていきながら、云うことは土地神話。ユダヤの人は、いつ国を追われるかも知れない途方もない流浪の人生だった。だからいざというときに足手まといになる物には固守しなかった。頭の中なら、殺されるまでは保全できるだから金融を知識として頭に詰め込んだ。一方日本人は、大した愛国心も持ち合わせない国民に成り下がったけど国はあって当たり前であり、土地を所有することこそが成功者であるという観念でバブルに踊った。本来金融とは経営の才を見抜いて貸す審査能力が問われるのに人は見ず、土地の査定だけをする担保調査能力だけしか銀行にはなかった。銀行は二代・三代目の、どら息子を経

営者を育てあげ、名経営者を一切輩出しようとしなかった。それが世界の金融を席卷するユダヤ資本と風前の灯火の日本経済との明暗の境となった。どなたかが札束集めて焚き火しているという話は聞いた事がない。一時下がっても、いずれ又上がり出すという誤った観念が政財界にこびりついていてきた。しかし世界の金融界はコンピュータ革命によりネットワーク化してきて統一されたアメリカ主導の規格が浮上してきた。アメリカの人口は日本の二倍しかないのに国土は日本の25倍ある。一人の日本人が、たたみ一畳のスペースのとき、アメリカは50畳敷きに住める計算。土地本位制は日本にのみ認められたシステムだった。アメリカの本位は、間違いなく土地ではなく株式本位制だった。ああそうだと気がついた時、既に日本の主立った企業は次々に外資に喰われ始めていた。その時が即ち現代である。嘗て土地神話という言葉がこの国にはあった。さぞかし土地を大切にたのかと思えば、何のことはない、政治も財界もこぞって土地をおもちゃにしただけのことだった。

土地は神の恵みなのに、省みず、金融ビッグバーン・グローバル
ーゼーション・知恵の時代・時代の転換期とかジャーナリストや
経済作家達は手を変え品を変えて造語していくけれど。実体は何
の事はない、狂気の沙汰とでも云うべき土地冒涇、神、冒涇への
失態であり構造ともいうべきシナリオに過ぎず。一切反省するこ
となく神聖にして侵すべからざる神という言葉が冒涇に引用した
神の怒りが今もさめやらぬという状況の結果だったと思います。
どうしても、銀行が土地を担保に取りたいのなら、もっと早く、
せめて実勢価格の3割、担保として認めるという事にすれば、土
地に対する考え方は違ったものになっていた筈なのにとすると残
念だわ。余りにも治療が遅すぎる。糖分取りすぎた糖尿病患者に
医師である政府が間違った療法ばかり施すから糖尿病が一番怖い
合併症を起こしている。しかし大泉のおじちゃんはその事に気が
ついていないというのが私の結論です」

「確かにそういう側面はあるかも知れない。しかし、現在の制度
機構は、経済を勉強したエリート達が官僚となって国の中枢とな
り健闘しているんだ。商売人の娘には分からない面が沢山あるん
だよ。そう、素人が偉そうに黄色いクチバシを入れるもんじゃあ
ない」

「確かに、私は大学中退だし、経済も勉強したことはない。名も
ない床屋の娘だけど、でも経済は学問じゃあないと思っています
。むしろ経済を学問の位に引き上げて統計を駆使し出した頃から
おかしくなりました。物を買う人のいったいどれだけの人が経済
に寄与していると思って買うのでしょうか、必要だから買う、安い

から買うんです。友人が旅行に誘ってきたが不景気だから断った。でも景気が良くなれば、アイツも誘って行こうという動きが日本中で起きるから景気が良くなるんです。マインドを冷やしたらその二乗でサイフの紐は堅くなります。世の中が明るくなれば、その二乗でサイフからお札が飛び出すんです。だってサイフがカラになっても、購入した大泉ファンドは値上がりしているんですから、安心して使えるじゃあないですか。経済というものは庶民を知らなければ分からないものなんです。人々がそうした行動を考えずに取っていくものを数値化したものが経済と証されいるから話しがおかしくなる。たこ焼きやさんが、ほおぼる客の顔を見て、昨日よりマズイ顔をしている。昨日と何が違うのかを物言わぬ客の顔から判別出来るくらいの方が経済の中枢に入れば、プラザ合意のような日本人を路頭に迷わせるような愚は犯しませんよ。それが証拠に国会議員や官僚から行列の出来るラーメン店を作り出せる人なんて一人もいないでしょう。だから官僚は実力の世界を選ばずに特殊法人を作って権力を行使して天下りする道を考えてたんでしょう。官僚も政治家も一番の税金泥棒の癖に法律に護られていて、ご安泰。ああそうか、そういう法律を作ったのは憲政党が中心でしたよね」

「風子！ いい加減にしろ」

「おじちゃんが知っている大将は身体が弱かった。私たち二人にとって幸いの父と母は子どもの時から身体が弱く、結婚しても入退院の中で私と妹を育て上げた。二人とも持病があったから私たちのために生命保険に加入したくても思うように入れなかった。床屋は一日何人かの頭刈って収入としている。ハサミを握れなければ日銭は入らない。大将は当時土地もなかったから銀行融資は望めなかった高金利の高利貸しから金を借りたこともありました。その事は三度の食事に顕著に現れる。たまあの外食もなくなって、ご飯は麦飯、肉は出なくなって魚が小さくなる。――ある冬のこと、両親とも入院をしてしまった。外食しろと大将はいったけど、外食はお金がかかる。私と妹は、いくら掛かるか知れない治療費を考えて、おにぎりと味噌汁の日々を送った。病院へ行ったら、大将が私に『家に来る信用金庫のお兄ちゃんに電話しておいた。これで外食しろと定期預金の証券と印鑑を私に手渡した』でも私はこれに手を付けたら、お店がつぶれるかも知れないという恐怖があったから手はつけなかった。私とその定期預金の証券を見ながら考えたことは、私のような思いを私の子どもや、他の子ども達には味あわせたくない。それにはどうしたらいいのか、幼い頭で一生懸命考えた」

「幾つの時だった？」

「私が小学校4年で妹は2年の冬だったわ。――あるとき佳枝が涙のたまった目で絵を書いていた。その絵を見たら、私達を見て元気で笑っている大将とお母さんの大きな顔の絵だった。私はその

とき思った。私はまだ考えられるだけいい。でも佳枝はただただ不安の中で生きている。その夜、私は初めて妹と二人でラーメン屋さんに行ったの。佳枝はラーメンが好きだったから勇気づける意味が一番の理由。そうしたらラーメンやおじさんが

『お前達、どうしていた。大将は元気になったか、お前達のこと気にかけていたんだが、手がなくてな、待ってろ、今、腕に寄り掛けて上手いラーメン作ってやるからな』出てきたラーメンの上には沢山チャーシューが入っている。私がビックリしておじさんの顔を見るとおじさんは片目を閉じて

『お前達、頑張っているからな、おじちゃんの気持ちだ受け取ってくれ』と云ってくれた。食べ終わってラーメンの代金払って、店を出て寒い夜空を見ると、きれいなお月様がでていたっけ。佳枝が満足そうに『風ちゃんきれいなお月様』って言ったとき、後ろから

『風子、佳枝！』っていう声が聞こえて、振り返るとラーメンやの小母さんが、忙しいお店から飛び出して駆け寄って来る。私と佳枝が顔を見合わせてビックリしていると

『他の、お客さんの手前お金もらったけど、いらないよ。これ』そう云って私にお金返した後に、佳枝の小さな手に餃子とシューマイのお土産を載せてくれて、佳枝の頭を撫でながら

『いいかい、お腹すいたらコレ食べるんだよ。それから、遠慮しないでいつでも食べにおいで、お金は大きくなってから持ってくればいいんだから、来るのがいやだったら出前してあげるから、遠慮しないでいいんだよ。右も左もわからないときに、アンタ達の大將には色々と世話して貰った恩義があるんだから、こんなに痩せて馬鹿だね、よくお聞き、大將に一番の薬はねアンタ達が丸々と太っていることなんだよ。そんなに痩せてしまったら、良くなるもんもよくなならないじゃあないか。いいかい、小さいときの苦勞は薬だよ、大きくなったときに必ず役に立つんだ。そう思って頑張るんだよ。――アッ、お店が混んできた。又ね。いいかい頑張るんだよ。又おいで』――小さかった筈の佳枝は今でもソノ話しになると涙を流すの。今考えると、ラーメンやの、ご夫婦は商売始めたばかりで私たちと同じように苦しかった筈なのよ。あのおじさんと、おばさんの励ましが、どんなに嬉しかったか。今でも、あの時のラーメンの味は忘れたことがない。本当に苦しい時って、高邁な哲学でも経済理念でも何でもない。本当に勇気づけてくれる人が居るかどうかだって、だから私は子どもの相談に乗っているときにアノ、ラーメン屋のおじさんだったら、おばさんだったら何て云うのかいつも、考えている。私にとって、心の総理大臣はアノ、ラーメン屋さんのおじちゃんとおばちゃんなんだわ」

「そんなことがあったのか、大將から聴いていなかったよ」

「こんな、話し別にする気はなかったんだけど、私、その時、商売は熱いもんなんだ。人情そのものなんだって感じたのよ。お

じちゃんの閣僚の経済を勉強した人達は呆れるほど多くを語るけど、一度として胸を討たれるようなメッセージを聞いた事はない。私と佳枝にとって、どんなに立派な経済の入門書より、アノ、ラーメン屋さんの、おじちゃんとおばちゃんの一言の方が胸に伝わるの」

「————」

「退院が決まった日、大将が私を手招きした。私が行くと私を抱いて耳元で囁いた。風子、結婚相手は丈夫な男にしろ、お父ちゃんみたいな情けない男だけは好きになるなって」

「そうか、悪いことを云ってしまったな。私の父親は忙しかったから、寂しい思いはしたけど、ひもじい思いはしたことがなかった。確かに、幼くてひもじいということは恐怖だよな」

「私はそのひもじさの中で経済を考えた。どうすればいいのかって、私にとって経済学とは人情そのものなんです。日本は苦しいときに活路を見いだそうと戦争の道を選びました。でも私は、苦しいときは動くより耐える精神力が必要なことを知りました。今も昔も日本のリーダーは見ていて危なっかしい。私のような小娘が安心して信頼できる政治家も官僚も居ないということです」

「————」

「おじちゃんの云う構造改革って、いったい何ですか？」

「民間に任せられることは民間にということだよ」

「民間という子どもが栄養失調で倒れそうなのに、お尻叩く親が
ありますか、一人歩き出来るようになるまで、目を離さないのが
親というものでしょう。そうでなくても痛みがあるって自慢げに
力説してるんでしょ。個人はサイフのひもをゆるめる訳ないし
、国も30兆内で国債枠で納めると豪語しているんだから、消費が
伸びる訳ない。消費が伸びなくても、馬鹿公務員なら税金で生活
出来るけど民間は社員の首切るしかないじゃあない。大学中退の
小娘でも分かる理屈よ。民間も商売の経験もない大学の経済の大
先生、大臣にしていらしゃるけど、いったいどれだけの知恵を
授かったのかしら。学問で経済が出来るなら、全員の閣僚を大学
教授にされたら良かったのに」

「そんなことを云たって、親である国が破産したら、お終いじゃあないか」

「何、云ってるんですか、その時は政治家・官僚がうち揃って、
土下座して、アメリカの51番目の州にしてもらって、円をドルに
切り替えればいいことじゃあないですか」

「何を云っているんだ！」

「日本の為に尽くすという公約で選んで貰った政治家が日本人に
は高飛車な癖に、プラザ合意では何の反論もなく、円高ドル安の
、全く反対の政策を日本人には知らせることなくやって民間虐め
したのも、イスラム原理主義とパール・ハーバーを一緒にされ

ても、何の異議も唱えず。ショウ・ザ・フラッグの一言で、押しつけられた憲法枠でさえ、せっせと自衛隊派遣までやったのも。日本自体が苦しいのに米国の国債を株式市場の時価総額200兆とほぼ同程度の金を注ぎ込んで支え続けたのも全てが合衆国51番目に成るための布石でしたと雁首揃えて云えば辻褃合っているだけにアメリカも邪険にはしないでしょ」

「風子。本気で云っているのか！」

「そう来るだろうと思った。おじちゃん。日本は世界の債権国でアメリカは世界の債務国よ。そうなる訳ないでしょう。債権国である日本はアメリカの国債を担保に世界の金を呼び込んで経済を支えるくらいの発想が欲しいのよ。そんなことも分からないの。そんな事だから大泉さんは経済に弱いと云われるのよ。私が云いたいことは日本人の顔をしたアメリカ精神の人が最期の砦だけ日本人になるのはおよしなさいということ。最期に日本人になりたいのなら精神も日本人を思う日本人であれってということです」

「——うん。発想の転換。逆転の発想か！」

「おじちゃんは一国の総理ですから、ご自分の判断ですれば良いことです。ただ、これだけは云っておきます。太平洋戦争の後、日本は焼け野原になりました。

今日、食べるものもありませんでした。自殺者はどの程度出たでしょうか、翻って今は、未曾有の不景気でも、食べるものはあります。それが証拠に糖尿病患者が激減しているというニュースは耳にしません。しかし自殺者の数は減少したというニュースは耳にしません。何故でしょう？総理なら明快に答えなさい」

「—————教えてくれ？」

「態度が悪いから、教えません。そのくらいの事、小娘に問題にされるまでもなく答えを導き出しておくべきです」

「—————」

「21世紀になった時代に、たかが不況で、どうして自殺者まで出さなければならないのか。おじちゃんが構造改革は痛みを伴うと言ったら、評論家までもが構造改革には痛みが伴うと決めつけてしまって。中小零細企業主が自殺に追い込まれても止むを得ないというムードがプンプンです。バブルだったときに、おじちゃんは、評論家はいったい何をしていたんですか。その時に適切な措置を踏めなかった人が、今だけは適切な措置を踏めるんですか、いったい人の命を何だと思っているんですか！自殺者が増えているのは失業の最たる結果です。失業が何故、発生するのか現在の不況の根元はすべからず政治不況だからです。昨日、政治家になった訳ではないでしょう米百俵精神に酔いしれる男の子守歌、ノスタルジアに付き合わされているようでは日本にもタリバンがあるということです」

「タリバンだと。私がオサマ・ビンラディンだとでも云うのか！」

「そうです。総理になると、みんながひれ伏して、甘い蜜のような耳障りの良い提言しか耳にしないでしょ。私は娘だから、はっきり云えるんです。賢人は耳障りの良い人より苦言を呈する人を信頼するもんです」

「—————うんむ。それ誰が言ったの？」

「今、私が、そう思いついたんです。——特殊法人改革もいいですけとね。本来なら、隗より始めよで、参議院の消滅・議員定数削減・官僚の数削減・議員の報酬カット・官僚の報酬カット・10年以上景気低迷させている張本人達からカットしますというのが、本当の構造改革で本筋だった筈です」

「参議院なくしたら衆議院を解散した時に、議員が居なくなってしまうじゃあないか。衆議院は全員、議員から、ただの候補者になってしまうんだからね。突発的な事に誰も対処できないよ」

「衆議院改選は2/3だけ解散して1/3は常に残すようにすればいいし、おじちゃんが自信があれば、年に2回も選挙すれば、連立なんて組まなくても単独でやっていけるでしょう。衆参の逆転・ねじれ現象という珍事はなくなるわ。何よりも議員一人一人のスキルがアップするし負担が増えるというのであれば国会に集まらなくても、テレビ会議システムで参加出来るシステムを導入すればいい。

だって電子政府をめざしているんだから、大の大人が仲良く手をつないで幼稚園児でも出来るような白札と青札もって壇上まで行かないで済む。どうしてもやりたいのならああいっただ遊びの時間は賃金カットする」

「幼稚園児はひどいよ」

「今の参議院なんて衆議院の下請け機関。だから法案成立に時間がかかるだけ無駄、衆議院だけでいい。10年も不景気なのに、半分以上の6年もの任期与えているのは最高の無駄遣い。官僚を少なくするだけで将来の天下り先にいく人員をカット出来ます」

「アメリカの景気低迷・中国の台頭もあったからね」

「云い訳はおじちゃんらしくないですね。アメリカの景気低迷・中国の台頭も100%予測可能な事です。予測不可能は同時テロだけでした。――私、前から思っていたんですけど、票さえ集まれば馬鹿でも総理になれるシステムで、商売心も企業観念も経験した事がない人達が、寄り集まって商売人・企業人に誇れるような政策って本来出せるもんなんではしょうか？人気と云ったって、たかが4人の立候補中の1人の確率だから25%の広き門じゃあないですか。私の門下生なんてクラス委員になるのに6人の立候補がいたんですからね。総理になる確率より厳しかったんだから」

「異議あり、私はアルバイトをやったことがあるし、だいいち総裁選とクラス委員と一緒にするな」

「なに、そんなもん、風子はね。産まれたときから、床屋の待合室に置かれた竹で編んだ籠の中で、けなげにも、一人では乳瓶持って大将とお客の商売での苦労話しを子守歌がわりに聴いて商売

を考え、経済を考えて来たんだから、筋金入りなんだからね。それにねクラス委員は平等に立候補するチャンスがあります。でも今の政治家システムは、タレント議員は例外として士農工商以上の締め付けがあって地盤・看板・鞆がなければ、なれないんですから。世襲制は歌舞伎だけの世界にして欲しいわ。おじちゃんが路線を変えずにこのままいけば、大泉ファンドを買ってくれた人が損をします。マズイかも知れないのに食べてくれた最初のお客さんを満足させなければ、行列のできるラーメン屋にはなれません。せっかく、日本の金融は間接金融からの資金が直接金融の株式に移行してきたところなんですよ。日本は議院内閣制ですから国会は国権の最高機関。多数の議員で作る政策集団が与党となって政権を作り道路・鉄道・航空を作ろうという政策は党と内閣は表裏一体だったから、難なく国会を通過して法案は成立した。しかし、そこに大泉純一郎という男が登場して反対の狼煙をぶち挙げた。頼みの綱は人気だけ。だから大泉ファンドは爆発的に売れた。しかし、万事休す。大泉ファンド購入者が損をしたら、急速に売りが売りを呼びますよ。そうなれば人気なんてね。一夜で奈落の底に落ち込みます。

大泉ファンドで損をさせられた最初の大泉ファンから三行半を押しつけられる。ああ、私は心労から自慢のライオンヘアーも一夜にして禿げ上がり、のたうち回るおじちゃんの姿が、悪夢が私の脳裏をかすめます。床屋の用もなくなるでしょうから、それと大泉ファンドの提案者の風と致しましても責任を感じて夜も眠れなくなって小じわ出来るだけですので、この辺で、ソロソロお暇を頂きとう存じます。長いこと有り難う御座いました。ふつつかな娘で失礼を致しました。末永くお幸せに、風子は死んだものと思し召しになってください。ああ、さようなら、お元気でーええと、それからーアーメン」

「ーうむ、ーうんーまだ、死ぬな。風子、いったい、お前いつからキリスト教になったんだ」

「ーおじちゃんの意固地が直るならイスラム原理主義に身を落としても構わない心境よ」

「ーしかしだ、プッシュに頼んだとしてだよ。そんなことで上手く転換が利くだろうか」大泉が考え込んだ様子で言った。

「ープッシュ大統領の意向なら、テロ法案と同じパターンで進みます。ショウ・ザ・フラッグを景気優先に置き換えればいいだけの事です。今の内なら、時間の経過内だから、人々の頭にショウ・ザ・フラッグからテロ法案成立までのシステムが組み込まれていますからスムーズに事は運びます。しかし、この手は二度は使えません。唯一、切れるのは今だけという条件で使える貴重なプラチナ、カードです。今なら、プッシュ大統領も日本に恩義を感じているはずです。チャンスです。但しプッシュ大統領が動

いてくれたら間髪を入れずに変わる事です。妙な時間を空けてはいけません」

「しかしだ。国債枠を外したら、どうなるかだ。そうでなくても日本は国際競争力は49カ国中26位。国際格付けは先進国8カ国中、最下位の8位だ。公約が守れないとして外人が日本売りを始めるかも知れない。そうしたら大暴落になる」

「国際競争力のトップは何処ですか」

「アメリカ、シンガポール、継いでフィンランド、ルクセンブルグ、オランダ――そして26番目が日本だ」

「国債は？」

「AAAがアメリカ、イギリス、カナダ、ドイツ。ついでAAがイタリア。次の次の次が8番目で日本だ」

「二冠王のアメリカに金を一番貸している国は誰ですか」

「それは日本だが」

「金借りている方が上で、貸している方が下ですか。この世界はどうなっているの。ああジレタイ。いったい誰がそんな無茶苦茶なランク付けているのよ、男なら、小娘虐めてないで、てめえらに格付けしている資格があるのか叩っ切ってやるって云ってやりなさいよ」

「説得力と迫力の固まりだな。風が切り込み隊長だったなら風の刃で私は死んでいるよ」

「まあ、しょうがない。日本には男なんて居ないんだから」

「そんな！」

「自分たちの親分が、可愛い弟分に固いこと云わないで30兆円の看板、降ろしてさ身軽になりなよって言ったということになれば、ヘッジのファンドさんも人間だ一ね。冷たい空売りはお控えなさんすよーと渡世人の風は思いますけどね」

「プッシュの親分さんが一宿一飯のヘッジのファンドさん押さえてくれるかね」

「ヘッジさんより問題は日本の三度笠たちですよ。国債枠30兆を堅持せよのミスターエンに代表される。構造改革・優先主義者も相手がアメリカなんですから。日銀も、いっその金融緩和に踏み切るでしょう、日本のお偉いさんは、おじちゃんの云うことは聞かなくてもアメリカ大統領の云うことは良く聞きます。万が一、異論を唱える人が居たら、飛行機代上げて、プッシュ大統領に云いにきてくれと云えば、それで終わりです。ヘッジファンドもアメリカと日本の協調国策ですから売り浴びせは出来ません。外人買いが始まる前に一儲けと、逆に日本株を買ってきます。日経ダウは20,000円を超します」

「2万円を超えるの？」

「打開策はそれしかありません。2万円いけば人々のマインドは完全に変わります。バブルの時に同じ歩調でなかった日米の株価のように、アメリカ株が下落しても写真相場のような動きから解

放されます。企業も活力を得て、将来の景気浮揚に備え雇用確保に力を入れてきます。私が一番気にしている自殺者は急速に減っていき、大泉内閣の生命線である支持率は上がり構造改革は推進できます。株価を上げなければ構造改革は無理です。大泉内閣の基本は国民的人気です。人気には任期があって、しかも人気のある人ほど落ち込みは激しいものです。確か今日の終値は16,929円です。相変わらず構造改革を優先していれば一週間後には16,000円割れるでしょうね」

「嫌なこと云うね」

「いいえ、本当の事です」

「――うん――うむ」

翌々日の夜

「風ちゃん。おじちゃんだ」

「おじちゃん！」風子は受話器に向かって思わず叫んだ。

「あれから、だいぶ考えてね。米のマスコミにもね大泉メールマガジンを配信するシステムを急ぐように言った。ギブミーチョコレート世代もやるときはやるからね。――例の件は、昨日プッシュに電話で話したが近々大統領と直接会うからね。その時に改めて頼んでみるよ」

「上手くいきそうですか？」

「手応えはあった。だから昨日から、アメリカを支えるために信念を一時、棚上げして景気対策優先に切り替える必要性があるかも知れないというコメントを出しておいたんだ」

「それで、株価は590円上がった」

「そういうわけだ」

「おじちゃんに。一昨日は強いこと言ったと思って眠れなかった。でも、やっぱり、私のお父さんだったよ。フッフッフー」

「私の娘は、どの閣僚よりも真剣に日本の行く末を案じている。だから信憑性がある」

「有り難う、でも二万円超えても気をゆるめないで、殆どの首相は安心すると手綱を放して失敗っするんだから」

「お坊っちゃんまは目標値に近づくと直ぐに安心すると云いたいんだろう。風ちゃんだけだろうな、自殺者を思って、株価対策考えるのは」

「気が付いた！」

「ああ、ここんところずーと考えていて、そこに到達した。どうしてそのことを言わなかったの？」

「自殺者撲滅の為に株価対策をとっていったら、おじちゃん、動いてくれました？」

「うん、大変良い質問だが答えにくいな」

「そうですね。だから伏せておいたの。自殺者というのは本来加害者はいないんだけど、今回の自殺は経営破綻、借金苦という、明らかに加害者が国側にある自殺なんです。私は、その原因をプラザ合意で円安を円高にする要求を簡単に飲んだ、ご主人様のいうことを聞くようにしつけられた犬を連想するくらい無様な外交だったと思っていますから」

「——ご主人様と番犬か」

「ところが、本当にそう思って反省している政治家も官僚もいないでしょう。丁度、終戦の時にGHQが誰が戦争の首謀者だったのか調べたら誰も私だと言った人は居なかったのと同じ構図のように思えて、政治家も官僚も所詮、食べるお金には苦労したことがないから、庶民感覚がないでしょう」

「頭の痛い指摘だが、風ちゃんの話は謙虚に聞くよ。——確かに戦争の首謀者は明らかにされていないからね。マッカーサーは最期に天皇と会談するんだ。マッカーサーは戦後の日本統治に天皇の存在は欠かせないと考えていた。ソ連とオーストラリアは天皇の戦争責任を強く要求した。

天皇は連合国軍最高司令官マッカーサー元帥を11回に渡って訪問している。マッカーサーは天皇の戦争犯罪を不問とした。政治家だった父親が私に言ったことがあった。天皇はマッカーサーに皇室の財産の全てを失ってもいいから、国民を助けて欲しいと言われた。身の安全を第一にしている軍閥と天皇の違いを知って、マッカーサーは天皇制を壊したら、日本の国内の治安は維持できないと考えたんだと小学生の私に言ったことがあった。アンナ親父、後にも先にもアレだけだったな」

「おじちゃんの、お父さんは、どうしてもそのことを告げなかったんだね。――兎も角、自殺はいけない。人間ほど死にたくないという願望を持った動物は居ないよ。その機能が壊れてきているというのは大変な異常事態だよ。しかも国がその要因を作っているんだから許せない。それだけでなく自殺は残された世代に確実にダメージを与えます。人間って苦しいときに無意識に肉親を考えるんですよ。お父さんが自殺してお母さんも自殺していると、苦しくなった時に親を考える余り自分も自殺したくなるということがあっても不思議ではないんです。だから、政治家は一人の自殺は国家の危機と同じくらいに考えて欲しいんだけど、そんなとらえ方をしている政治家誰も居ないでしょう。――私ね。本当は景気なんて良くならなくてもいいって考えているんです。それよりも目的を存続することにして欲しいんです」

「どうして」

「良くなれば悪くなる時がある。それよりも経済が長く続くようにして欲しいんです。そうすると人々の心が長期的な視野に立て

るようになれるんです。前におじちゃんに、どうして未来が見えるんだと聞かれた事があるような気がするけど。人間と猿のDNAの違いは、たった1.6%だけで残りの98.4%は共通しているって知っていました？」

「1.6%の違いってなに？」

「それは、『予想する能力』『想像する能力』『イメージ』とかいった事です。そこだけが猿と人間の決定的違いです。だから、人間が人間である証明は、予想する能力を高める事でもあるわけです。

存続こそが美德という時代になって欲しいわ。ソレには衣・食・住の住さえ投資対象となって暴騰したり、今度は反転して暴落するというのは生活の根幹を揺るがす社会問題がこの先も考えられるようであれば、政府は所有から借りることに趣を置くリース制度という発想も必要で。リースなら地震が来る事に最先端の街作りが出来るようになる。そのくらいの発想が欲しいものだわ」

「よく分かったよ。ところで娘よ、どうしたら、いいだろうか。実は難題を抱えているんだよ」

「えっ—————」

天皇は連合国軍最高司令官マッカーサー元帥を11回に渡って訪問している。マッカーサーは天皇の戦争犯罪を不問とした。政治家だった父親が私に言ったことがあった。天皇はマッカーサーに皇室の財産の全てを失ってもいいから、国民を助けて欲しいと言われた。身の安全を第一にしている軍閥と天皇の違いを知って、マッカーサーは天皇制を壊したら、日本の国内の治安は維持できないと考えたんだと小学生の私に言ったことがあった。アンナ親父、後にも先にもアレだけだったな」

「おじちゃんの、お父さんは、どうしてもそのことを告げなかったんだね。――兎も角、自殺はいけない。人間ほど死にたくないという願望を持った動物は居ないよ。その機能が壊れてきているというのは大変な異常事態だよ。しかも国がその要因を作っているんだから許せない。それだけでなく自殺は残された世代に確実にダメージを与えます。人間って苦しいときに無意識に肉親を考えるんですよ。お父さんが自殺してお母さんも自殺していると、苦しくなった時に親を考える余り自分も自殺したくなるということがあっても不思議ではないんです。だから、政治家は一人の自殺は国家の危機と同じくらいに考えて欲しいんだけど、そんなとらえ方をしている政治家誰も居ないでしょう。――私ね。本当は景気なんて良くならなくてもいいって考えているんです。それよりも目的を存続することにして欲しいんです」

「どうして」

「良くなれば悪くなる時がある。それよりも経済が長く続くようにして欲しいんです。そうすると人々の心が長期的な視野に立て

るようになれるんです。前におじちゃんに、どうして未来が見えるんだと聞かれた事があるような気がするけど。人間と猿のDNAの違いは、たった1.6%だけで残りの98.4%は共通しているって知っていました？」

「1.6%の違いってなに？」

「それは、『予想する能力』『想像する能力』『イメージ』とかいった事です。そこだけが猿と人間の決定的違いです。だから、人間が人間である証明は、予想する能力を高める事でもあるわけです。

存続こそが美德という時代になって欲しいわ。ソレには衣・食・住の住さえ投資対象となって暴騰したり、今度は反転して暴落するというのは生活の根幹を揺るがす社会問題がこの先も考えられるようであれば、政府は所有から借りることに趣を置くリース制度という発想も必要で。リースなら地震が来る事に最先端の街作りが出来るようになる。そのくらいの発想が欲しいものだわ」

「よく分かったよ。ところで娘よ、どうしたら、いいだろうか。実は難題を抱えているんだよ」

「えっ—————」

天皇は連合軍最高司令官マッカーサー元帥を11回に渡って訪問している。マッカーサーは天皇の戦争犯罪を不問とした。政治家だった父親が私に言ったことがあった。天皇はマッカーサーに皇室の財産の全てを失ってもいいから、国民を助けて欲しいと言われた。身の安全を第一にしている軍閥と天皇の違いを知って、マッカーサーは天皇制を壊したら、日本の国内の治安は維持できないと考えたんだと小学生の私に言ったことがあった。アンナ親父、後にも先にもアレだけだったな」

「おじちゃんの、お父さんは、どうしてもそのことを告げなかったんだね。――兎も角、自殺はいけない。人間ほど死にたくないという願望を持った動物は居ないよ。その機能が壊れてきているというのは大変な異常事態だよ。しかも国がその要因を作っているんだから許せない。それだけでなく自殺は残された世代に確実にダメージを与えます。人間って苦しいときに無意識に肉親を考えるんですよ。お父さんが自殺してお母さんも自殺していると、苦しくなった時に親を考える余り自分も自殺したくなるということがあっても不思議ではないんです。だから、政治家は一人の自殺は国家の危機と同じくらいに考えて欲しいんだけど、そんなとらえ方をしている政治家誰も居ないでしょう。――私ね。本当は景気なんて良くならなくてもいいって考えているんです。それよりも目的を存続することにして欲しいんです」

「どうして」

「良くなれば悪くなる時がある。それよりも経済が長く続くようにして欲しいんです。そうすると人々の心が長期的な視野に立て

るようになれるんです。前におじちゃんに、どうして未来が見えるんだと聞かれた事があるような気がするけど。人間と猿のDNAの違いは、たった1.6%だけで残りの98.4%は共通しているって知っていました？」

「1.6%の違いってなに？」

「それは、『予想する能力』『想像する能力』『イメージ』とかいった事です。そこだけが猿と人間の決定的違いです。だから、人間が人間である証明は、予想する能力を高める事でもあるわけです。

存続こそが美德という時代になって欲しいわ。ソレには衣・食・住の住さえ投資対象となって暴騰したり、今度は反転して暴落するというのは生活の根幹を揺るがす社会問題がこの先も考えられるようであれば、政府は所有から借りることに趣を置くリース制度という発想も必要で。リースなら地震が来る事に最先端の街作りが出来るようになる。そのくらいの発想が欲しいものだわ」

「よく分かったよ。ところで娘よ、どうしたら、いいだろうか。実は難題を抱えているんだよ」

「えっ—————」

「切り込み隊長が怒チャッテ、怒チャッテ、女性蔑視も甚だしいって、その、若い娘には云いづらいんだが。こんなこと頼めるのは風ちゃんしか居ない訳でね。そのー、つまりー、そのーうんー」

「ーああ、そういう云われ方、苦手なんだよね。胃が痛くなるから。云わなきゃー分らないよ」

「恥を忍んで云うから笑うなよ。実は学生時代に付き合っていた娘がいて、実は、その彼女、社会主義に魅せられた左翼だった。それで付き合うのをやめたんだが、余りにも戦闘的だったんでね」

「ーうん。閃いた。切り込み隊長がスキャンダルを探しあてたわけだね」

「そうなんだ。学生時代の友達が教えてくれた」

「男の友達？」

「勿論、教えてくれたのは男だよ」

「それは良かった。教えてくれた人まで女性だとダブル不倫だ」

「ダブル不倫なんかじゃあないよ。風、お前、もしかして、楽しんでないか」

「だって、一国の総理の女性問題って嘘でも、何か楽しいジャン。ここんところ面白いこともないしさ、暗い世相だから大きな心で娯楽の提供というのはどう」

「頼むよ、風ちゃん。アンタだけが頼りなんだからさ」

「そうか。娘だもんね。チョット忘れていたよ。最近優しくして貰ってなかったから」

「―――」

「付き合っていた女性は、今、何をしているの？」

「左翼思想の男と結婚したが別かれたらしい」

「まずいな独身か。――独占。私は大泉総理におもちゃにされて、そしてゴミのように捨てられた。独白する女の過去とは、テンテンだね」大泉は胃のあたりを思わず押さえて

「イヤなことを云うね。おもちゃになんかしていないって、お前、案外しつこいね」

「でも、三流週刊誌はそう書くでしょう。ご主人が居れば、話しは半減だけど、現在独身だからインパクト強いね。おじちゃんの人気の源は小母ちゃんパワーだもんね。人気は急降下の真っ逆さまだ。うん、切り込み隊長、なかなかやりおるな――ってとこだね」

「馬鹿、感心している奴がいるか。参ってるんだから」

「付き合うときは、良く見なくちゃー。女、見る目ないね――」

「今度はそうす――あのね。今更、遅いよ」

「問題は。明後日、テレビ番組に出るんだが、どうやら切り込み隊長が手ぐすね引いて待っているという情報が入ってね。滅入っているんだが。そこで、やらかすつもりかも知れない。何か良い策ないかな」

「――うん。ないこともないけどね――しかしお主はプライドが高いからなあ」

「————困り果てて居るんだよ。そうでなくても、私は切り込み隊長が苦手なんだから」

「醜態をさらすか、しかし娘としては忍びないよな。身内がテレビ裁判されているのに、介錯も出来ないんだからね」

「介錯イヤな云い方だね。殺すことはないだろう。お前、私に対して腹に一物あるのか、武士の情けというものがあるだろう」

「そう云われ申しても、拙者、生憎とおなごで御座ってな。ソレにその御貴殿のプライドがなあ高すぎるからのう、そこがネックよのう。御貴殿は自ら首を絞めることに長けていらしゃるでのう」

「こんな時に虐めるからなあ。プライドは捨てる。策を講じろ、馬鹿」

「馬鹿、お主、拙者に馬鹿と申したのか」

「馬鹿じゃあない、可愛い美人の娘だ。隠れたミス日本だよ。ホント」

「そこまで云うと嘘になる。チョット引っかかるけど——まっダイブ、お困りのようであるから、秘伝を授ける。心して聴かれい。——先手必勝、謝まるしかないね」

「何で」

「相手はレディだと思っているから」

「レディなんかじゃあないよ」

「それは、おじちゃんの考えで。向こうは私はレディ中のレディだと思っている」

「ふん、謝罪なんかしてみろ。鬼の首取ったように拡声器で吠え

られるわさ」

「内容について詫げる必要はないのよ。レディにはほざけと言った事だけを最初に詫げるんです」

「イヤだよ。そんなこと言えるか、馬鹿馬鹿しい、死んでもやだね」

「女性はみんな、レディですよ。ーこのままだと、テレビを見ている奥様族・OL族を敵にすることにもなるよ。政治家なら相手を見るのではなく、相手の有権者を意識しなくちゃあ」

「でも、やなもんは、いやなの、あんな女に、やだねったら、やだね」

「今、ここでもたつくと、又、株が下がりますよ。おじちゃんの見栄で、日本の株が下がって喜ぶのは誰」

「――――」

「党内反対勢力と野党でしょう」

「――――」

「切り込み隊長がスキャンダル公表したら、おじちゃんは、夜も眠れなくなっ、胃がキリキリしてきて、おじちゃんは世間ではそう思われていないけど、デリケートなんだから。兎も角、日本の経済の為に、プライドとメンツを捨てなさい。このままだと、切り込み隊長は藁人形作って毎日・毎夜大泉憎しって書いて釘刺すよ」

「そんなもんでビクともするもんか。人の過去を持ち出すなんて、だいたいが卑怯で卑劣だ」

「それは女の台詞だよ。そんなこと言っちゃ駄目だよ。――総理、ソウリ、ソウリ、貴方は学生時代にある女性と恋に落ち、結婚まで約束しておきながら、鼻をかんだティッシュをゴミ箱に投げ捨てるようにして捨てましたね。貴方は卑怯者です。その女性はその時から転落の道を辿ったのです。捨てた理由は何であったか、彼女はこの国を良くしようと社会主義の運動団体に所属していました。たったそれだけの理由で貴方は彼女を捨てたのです。この前の国会という神聖な代表質問の場で貴方は私に ほ ぎ け と云いました」

「――いい。もういいよ。胃が痛くなる」

「何だ、もういいの。もう少しやりたかったのにな。――でも、あの切り込み隊長だって、人生のどこかで、彼女が慕う人、例えば両親とか先生とかに、非武装中立・憲法第9条を良しと考える強い認識を受けていて、それが絶対に正しいとインプットされた時があったはずなんだから、優しく最初に謝れば、彼女だって女性なんだから、用意していたおじちゃんの過去ログのドキュメントは引っ込めるよ。但し、その場しのぎの心ない謝罪は、火に油を注ぐことになるけど――どうする。私は、ここまでで手を引きましようかねー」

「――分かった。分かった。頼れるのは風ちゃんだけなんだ。町中真紀子に相談したら次の日にはマイクに向かって喋りまくるからね。今、メモを用意します。忘れないようにね。――ハイどうぞ――相手はイヤだけどレディであるって書きました」

「イヤだけどは余計です」

「ハイ、消します」

「いいですか、そのイヤだけどレディである。アツつられて云っちゃった。元へ。問題のレディの背中にはカワイイ本当のレディがいると思うことです。次に――――」

「彼女の過去にも強烈に左翼思想を植え付けられた時があるとして、同情の心を――本当にもって恋人に語りかけるように――風ちゃん恋人でなくてもいいんじゃないの――ダメ――ダメか恋人に語りかけるように相手の目を見つめ――見つめるの？――ダメ、ハイ、見つめてと――。はいナニ？余計な事かくな――分かりました。今消しました――」

ニューヨーク南東部のクイーンズ区の住宅街に、ケネディ国際空港を離陸したアメリカン航空587便のエアバス A300-600型機が墜落、民家を巻き添えにして炎上したのニュースが首相官邸に入った。又してもテロか！大泉は防衛庁長官を総理執務室に呼び寄せると日本にある軍事施設とアメリカ大使館に緊急警備の通達を出した。これを受けてニューヨークとナスダックの株は急降下した。翌朝、前日のニューヨーク市場のコピー相場から脱却できない、東京市場も急降下、徐々に確実に上がっていた株が一変に二週間前に逆戻りしてしまったのであった。

しかし、翌日には国家運輸安全委員会の委員長が「現時点ではすべての情報が（テロではなく）事故を指し示している」と語った。しかし、テロの可能性が完全に排除されるまで、米連邦捜査局（FBI）も捜査に当たるとの一報が届いてきた。目撃情報などによると、離陸直後にエンジンから出火したらしい。防衛庁長官は大泉に

「離陸してから直ぐに墜落ですから、テロにしては早すぎます。事故であることが濃厚です」と告げた。大泉は、取り敢えずホットした。

「珈琲、二つ」大泉は女性秘書官に思わず云っていた。防衛庁長官の顔にも安堵の表情があった。

「チョット、落ち着こうよ。昨日は寝付けなかった。君もそうだったろう」大泉は珈琲を一口飲みながら言った。

「はい、しかしホットしました。公表しませんでした。テロが皇居を狙っているという情報がアメリカから持たされたときは、どうなることかと思いました」

「全くだ、信憑性はないと思っても、万が一と、どこかで思ってしまう」

「アメリカとは正に自由の国だなと、変なところで感心してしまいます。――取り敢えず大統領も一息つかれたでしょう」

「総理、株は昨日の下げの半分まで回復しています」秘書官が言った。

「そう、珈琲が旨いよ。君には心労掛けたけど、テロ対策法案も通ったし」

「しかし、何と云っても、炭疽菌が怖いです。子どもの頃はマンガの中の話だと思っていましたが、現実には起きているわけですから」

「しかも、最初は日本初だったからね」

「そうですね。しかし、日本がオウムノサリンはもうないと高を括っていた傾向がありましたが、アメリカはサリン報道に、アメリカでも起きる可能性を察知していましたから。危機管理に対する文化が違いますね」

「君が言ったように、どうも日本は生物兵器にはピンと来ないところがある。しかしサイバーテロに関しては違うようだ」

「総理がテレビに向かって子ども達に呼びかけた反響には驚きました」

「いや、私自身、驚いている。何しろ子どもから防衛のことで、あれ程の反響があるとわね。何しろ戦争放棄の世代だからね。学校側も驚いたんじゃないかな」

「そうですね。日頃、子ども達と親以上に接触している教師が首を捻っているんですから」

「どうしてか分かるかな」

「いいえ、分かりません」

「ツールなんだよ。彼らにとっては携帯もパソコンも、道具が時代を変える、信長は長篠の戦いで日本の軍事史上に残る、画期的な戦法を採用した。当時、ヨーロッパ渡来の鉄砲は単発で一度撃ってしまうと、次の発射に時を要す、その間に剣で斬りつけられたらお終いだっただ。そこで信長は3,000人の鉄砲隊を3組に分け、一組目が発射したら2組目の者が前に出て発射。そのあと3組目が出て発射を繰り返す。これなら連射が利くから超強力を誇った武田の精鋭騎馬隊は斬りつける事ができず信玄の息子・武田勝頼は近代兵器の前に滅びた訳だ。これがなければ信長は天下を取れなかった。武田は鉄砲を知っていたが教師的発想法で旧来の感覚しかなかった。信長は子ども達の発想法で携帯とパソコンを組み合わせたらどんな事が出来るか考えていた。知恵が新しい戦法を編み出し日本最強だった騎馬隊方式というシステムの盲点を付いて勝ったんだね。子ども達は完全にツールにしているから、コレで何が出来るのかを知っているんだと思うよ。私はね。子どもが自分たちが興味を持って使っているツールで世界貢献出来るのであればやってみたいという気持ちをなんとか実現に持っていきたいと思っているんだ。軍艦でもミサイルでも戦闘機でもない。マシンをツールとして平和維持を目的にネットワークを組める頭脳集団が日本の子供達の世界だとしたら嬉しいね。君は若い。防衛という本質を変えるような発想法で考えてみてくれないか、サイバーの世界には何処が危険な場所でどこが安全な場所であるかとの問いは意味を成さない。これからの社会は、知力のあるものが勝利する。政治が出来ることは世界に貢献できるノーベル賞級の頭

脳集団を育成できるか、それともマネーゲームに興じて将来に禍根を残す集団を作ってしまうかの二つだ。これからの政府は、ITは子どもに任せた方がいい。遊びに出来る感覚の子どもでないとITは使いこなせない。日本の将来は日本に居るビル・ゲイツを埋没させないことだ。だからパソコン普及を融資制度を考えた。借金があれば、何とか良いアルバイトはないかってインターネットで調べるだろう。黙ってあてがえば、ピンクサイトに行くよ。問題はここなんだ。私らはITとピンクが結びつかないが、何でも餌食にするキャッチ商法は直ぐにそこに気がついてピンクやヘイトサイトで子ども達を浸食してくる。それを法律で縛ってもサイバー社会はその上に行く奴があるから意味がない。それより、インターネットで起業を思いつかせた方が、遙かに対抗できるんだよ」

「戦争さえ欲望と金儲けの手段にする集団VS戦争メカニズムを平和を基調としたポリシーにシステムを作り変える事が出来る集団という構図になっていくということですね」

「その通り、喜びも悲しみもね、放物線を描くように、時間の経過の中で下がっていくもんなんだが、恨み辛みと憎しみは横軸と平行線で上がる事があっても下がることはない。時間を掛けても癒されることはないんだよ。そう考えると、アラブ圏の天才達は恨みを晴らすためにITをアメリカも又、コレに対抗するシステムを作らざるをえない。恨みが永遠なら、恨みとは無縁の国が間に入ってまとめるしかない。それには、何処の国よりもITに長けた国になっていなければ、ITは遠くない未来にミサイルに変わる防衛の根幹になり得る可能性があるということだ」

「なるほど、そうでしたか。イヤ総理、勉強になりました。私も子ども達のことを考えていましたが、そうした理由には到達しませんでした。本当に目から鱗が落ちた思いです。実は私の知人が中学校の校長をやっている、最近、彼に子ども達の心理を聞いてみたんですが色んなことを云うのですが的を得ていないと思わざるを得なかったのですが」長官は感心したように頭を下げていたが、総理はいつから博学になったのかと思ったのか首を捻った。大泉は苦笑いをした。それは、夕べ長官が校長に質問したのと同じ事を風子に聞いたときのコメントを披露した迄の事だったからであった。それにしても風子は校長より子どもを理解していて、そして風子先生のご高説は防衛のエキスパートである防衛庁長官さえ感心させる防衛論理をお持ちになっていると思っていた。

「風ちゃん、調べただけど良く分からないのよ、どうして戦後、学校の教諭は日教組を作って結束したの」

「ええ」風子は気のない返事をした。風子は没頭していた。男の子は全員が床屋に来る、子どもの父親も来る。教師も来る。この三点の中心に床屋の店主が入って、歴史教科書を父親に見て貰おうキャンペーンを開催して意見を貰って、その意見を教師にも聞いて貰い、自国の歴史を考えようという提案をしたところ、賛同する床屋が出てきたが、統一基準のアンケートをつくらないと正当で均一な評価が出来ない、それで風子はそのソフト作りに没頭している日が続いていた。

「少し休んだら」そう云って佳枝は珈琲とカステラを風子に手渡した。

「大体のひな型は出来たぞ」風子は微笑すると珈琲を口に運んだ。

「ええと、なんだっけ」

「日教組の問題よ」

「大人に聞かせるのは楽なんだけど子どもは意味が分かるかなあと考えながらだから、疲れるんだよね」

「質問は子どもじゃあないわ」

「大人？」

「中学校の男性教師からの質問、生徒に凄い人気なんで風子さんのサイト見せて貰いました。勉強になりました。ところで僕からも質問です。どうして戦後、学校の教諭は日教組を作って結束したのでしょうか、実は良く分からなくて困ってます。宜しくお願いします」

「そんなこと自分で調べろよなあ、教師じゃあないか。呆れるよ」風子が怒るのは当然である。

「そうだよな。私だってそう思うよ。でも、風ちゃんはどんな質問にも誠意をもって答えなくてはいけない。ひとつでも感情的になると、その、ひとつに、子どもが萎縮するからって、いつも云っているじゃあない。それで聞いたんだけど。――でも、中学の先こう、いい加減にしろよ。自分で調べろ、ザッケンジャねえよ。舐めたらアカンでえって、風ちゃんの変わりに送っとくわ――」立ち去り掛けた佳枝に

「待って、ちょっと考えさせて、――悪いけどその間に珈琲持って来てよ」風子は腕を組んで考えこみはじめていた。

インフォメーション・テクノロジー直訳すれば情報技術と云うことになる。現在では情報という言葉は以前の百倍以上も使われる言葉になった。日本人は情報という観念が薄いのだが情報を情けに報いると書いた。日本人の感性はこれだから凄だと思うのである。しかし『情けは人の為成らず』を最近では人に情けを掛けるのは、その人の為にならないので掛けない方がいいと解釈している若者が増えていると聞いた。実は『情けは人の為成らず』の本当の意味を知りたいと――風子は小学生の時、図書館で調べた

事があった。その意味の深さを知って感動した。風子は情けを掛けて貰った人は、自分も掛けて貰ったのだから、社会に還元する気持ちが巡り巡って、いつの日か自分に或いは自分でなくても、その子に情けを掛けて貰うという時が訪れると理解した。作文に、特別に学校へ行かなかった人達が庶民のレベルでそう考えていたソノ社会性に日本人は偉い、私はその末裔であることを誇りにしたいと書いて金賞になった事があった。みんなから大将と言われて親しまれた父親がある日、初めて高級レストランに家族を連れて行ってくれた。そうして旨そうにビールを飲んだ。今にして思えば天才少女と言われる度に父親は眉間に皺を寄せていたのだったが、情けと云うことを作文に書くことで、その時は意味が分からなかったが、父親は風子が単に閃きだけの子でないと知って安堵したのではなかったかと思うのであった。

それにしても、短い言葉の中にも日本人の英知が結集しているのに、間違った解釈がいずれ、本来の意味を塗り替えて行くと思うとやり切れない気持になった。どうして独自の日本の文化を切り刻むのか、そういうことをキチンと教え込まない教師とは、いったい。――

――――

「お待たせ、―――どうぞ、お母さんが、立てていてくれたから早く持ってこられた」

「ありがとう」

「どうする？」

「送るわ。長文で。良い機会だと思って、教師からの質問だから、こちらも思ったまま伝える。反論があれば、どうぞって、徹底的にサイト上でバトルやっていけば子ども達がソレを見てマインドコントロールが解けてくるかもしれないから」

「流石、風ちゃん。軍師の鏡、諸葛亮孔明だね。おじちゃんの名参謀だけのことはある」

「それだけ褒めてくれるんだったら、貴女が送ってよ。パソコンやりすぎて少し目が痛いよ」風子はそう云って眉間を揉みはじめた。

「いいよ。だいぶ疲れているみたいだから。メモ取るから。メールは全部証拠になるからね。背後に大がかりな組織があって、風ちゃんの命を狙っていないとも限らないから」

「待って、メールが、来たわ」

「誰から」

「風子のサイトに良く来ているマジシャンに教科書のコピーを送って意見を聞いてみることにしたのよ。その返信メールね」風子は左手に珈琲カップ・右手でキーボードを操っている。

「どうしてマジシャンなの？」といぶかしげな佳枝に風子は言った。

「心理学者も、先生も私のサイトに来ているけれど、その

内の半分以上は左翼思想の人達だと思っているのよ。スキあらば問題にしたい人達ね。サイトのやりとりだけでは心理学者が左翼であるかどうか分からないわ」

「それでマジシャンなの」

「マジシャンなら、右と左とは無縁だと思うからテクニクという点でどう感じるかを聞きたいと

おもってね」

「海老原 雅之って？」佳枝が言った。

「エビックさん？」

「ええ、アノ、エビックさんなの」

「子ども達にマジックの楽しさを教えたいと教えていて、海老原さんは疑問にぶつかったの。子ども達が教えて症候群だと感じてきたのよ」

「トリックのネタばかり聞くんだ」

「そう、だれ一人、ようし、オリジナルを作って驚かせてやろうとする海老原君が居ないって、これはどうしたことかというわけ」

「それで、風ちゃんのサイトに」二人は双子のように顔をくっつけると、モニターを見た。

一口で言えば、素晴らしいほどのマインドコントロールが散りばめられていて感心しきりです。

国旗のところなんか特にそうですね。色彩鮮やかにブラジルとエチオピアを歌い上げる。

話し変わるけれど

モノクロの記録映画で日の丸の旗を振っているところを見せるでしょう。アレだとね。日の丸は貧弱で情けないものの象徴になる効果があるんです。丸と四角の中に絶妙なバランスで配置された日の丸はカラーでないとその美しさが際だたないんですね。数は多い方が綺麗です。日の丸だけでしょう、桜の花が満開になるように、多いと花見気分にしてくれる国旗は単調だが気品があって、数が増えると調和してくる。日本人は晴れ晴れとした気持で赤き直き清き心の日の丸の旗、思いっきり振ってますよね。しかし日本の記録フィルムはモノクロだから残念なことに汚くなってしまふ。その手法を取り入れて、ワザと手書きっぽい雰囲気を出してアメリカの星条旗の星をモノクロで描いて同じ効果だしてる。

中国を紹介するときは必ず、明治時代の日清戦争から満州事変・日中戦争。日本は中国を侵略というフレーズが枕言葉のように入るでしょう。これを繰り返して教え込むとね。中国に行ったときに、十二億の中国人の全員が日本に恨みをもっていると思ひこんでしまふ効果があるんですよ。私は経済は知りませんが、中国の一部ではホンダをホンタ。ヤマハをヤハマというようにした偽造したコピー商品が氾濫してブランド商品の価値が下げられるということが起きているそうですが、目に余る状況でも黙認することになるでしょうね。日本が昔したことへの仕返しだと考えますからね。さりとは、小学生になって勉強をやり直す事は出来ませんからね。国益を下げるという目的で作られているのか、それとも日教組のメンツなのかは知りませんが。

マジック界に新風巻き起こしてやろうというような子が出ないのはマインドコントロールが利いている一つの側面は何えますね。悪いことをしたなって思っている内に、すごいやつだなに変わって、それじゃあ、追いつかれて追い越すのかといえ、昔、自分のところの爺さんがひどい目にあわせたらしいからと、パワーは出ないメカニズムが働いています。このままでいって中国にカップ・フィールド出たら、永遠に超えられる事は確かですね。ソレくらいの力がこの教科書にはマジックのように張り巡らされています。 by 海老原

「ふう」風子は溜息を付いた。

「ふう、やっぱりね。そりゃーそうだろね」佳枝が言った。

「佳枝、歴史教科書のコピー持ってきてよ。もう一度、エビックさんの視点で読んでみたいの」

「確か、この部屋にあるはずなんだけど、ああ、あった」手渡されたコピーのクリップを外すと、風子は佳枝に半分渡した。二人の姉妹はもう一度読み始めた。

熱帯林が危ないマレーシア、というところに

ペナン島の小学生ウイティさんの話し

学校は朝の7時30分に始まり、朝礼で国旗をあげて歌を歌います。教室の座席は男女が左右に別れて座ります。11時に昼休みになって簡単な昼食をとります。村の人達があげものや、お菓子を売りにくるので買って食べる子やお弁当を持ってくる子もいます。授業はすべてマレー語で行なわれますが中国人の多い学校では中国語。インド人が多い学校はタミール語での授業もあります。英語はどの学校でも大切な外国語として教えます。昔イギリスの植民地だった影響があるからです。わたしの、おじいさんは日本語が話せます。日本がペナン島を占領した時、マレーシア人はみんな日本語を勉強させられたからだそうです。たくさんのマレーシア人が殺されたり強制的に働かされたりしたそうです。

熱帯林が危ないマレーシアとなうっておきながら、熱帯林が危ないことには、一切触れずに、唐突にマレーシアの人々の話を集め、日本のところだけに突然おじいさんが登場してくるのである。しかし風子は墓穴を掘っていると思わざるを得ない。

日本人はみんな英語が話せたらいいなと思っているし、全員が英語の授業を受けた筈だが話せない。

果たして日本語を教えたとしても、敵国という悪感情に支配されている人が覚えるだろうか。

覚えなければ銃剣で殺すと言えば覚えるというのなら、英語が出来ない奴は殺すという教育を施せば頭脳の柔らかい小学生など3月でぺらぺらになるというのと同じことである。

イヤイヤ覚えさせられたのなら終戦になったら頭にあるのも忌々しい日本語など地べたにたたきつけて踏みつぶしたに違いない。戦後50年以上の経過の中で覚えているという事は、覚えていたい感情がなければ無理である。脳は恐怖や戦慄した時の感情は死ぬまで記憶している。だから思い出すとき、それがイヤな出来事的时候は、思い出すのも忌々しいと頭をふるのである。しかしその時の感情は頭からでていかない。しかしそこで交わされた言葉は忘れ去っている。それがせめてもの防衛本能なのである。感情もその時の言葉も鮮明に刻まれたら人間は発狂してしまうだろう。世界の国旗・国家を調べるという所ではブラジルの旗の中央にある丸の青い色はブラジルに人々が革命を起こして国の主権を皇帝から国民のものとした日、1889年11月15日、8時30分のリオデジャネイロ市の空の色を表しています。

アフリカは長い間、ヨーロッパの国々の植民地になっていました。その中で、ただ一つ独立を保ち続けていた国がエチオピアでした。エチオピアの国旗のデザインを参考にして国旗を決めた国が多かったそうです。

そうしてブラジルとエチオピアの国旗が載せてある。

世界の国家を教えるのに、わざわざブラジルとエチオピアを教えている不自然さはなんなのか。ブラジルのところで暗に日本の天皇制を批判し、1991年までは社会主義国だったエチオピアを出すことで独立を保っていたのは社会主義だったからだといいたかったのか。

流石にアメリカを出さない訳にはいかないのだろう。世界の国旗・国家を調べるという所ではない左のページに殆ど無意味なコメントと共に絵が載せてあるのだが、それは右ページのブラジルとエチオピアの国旗をわざわざ際立たせる為に施したのかと思われるような、手で書いたような国旗に赤鉛筆で色を挿入したような絵が左ページの下に描かれているから、本を開くと右上のブラジルとエチオピアがまるで一等国のような印象を与える。

取り敢えず、アメリカはある。

国旗・国家には、その国を築いてきた人々の理想や文化、民族の誇りなどが込められています。そのため世界の国々では、自国はもちろんのこと他国の国旗・国家も、互いに尊敬しあい、敬意をはらって扱うようにしています。しかし他の国から侵略を受けたり、支配されたりした歴史を持つ国や地域では、それらの国の国旗・国家に対して、素直には尊重できない感情をもつ人々もい

ます。

自国はもちろんのこと他国の国旗・国家も、互いに尊敬しあい、敬意をはらわなければいけないが日本の国旗はこうした理由で載せられないということを伺わせている。

しかし、その右側にはオリンピックの競技場の写真入りで、こうある。

オリンピックの表彰式。表彰式では多くの場合、優勝した選手の国の国旗が掲げられ、国歌が演奏されます。日本選手が優勝した時には日の丸（国旗）と君が代（国歌）が使われます。

とある。これは他の国から侵略を受けたり、支配されたりした歴史を持つ国や地域では、それらの国の国旗・国家に対して、素直には尊重できない感情をもつ人々がいるのに如何なものかと、子どもに問いかけている事になる。

「これからアジアは発展すると思う。この教科書で学んだ日本の子は、いずれアジアへ行く。殆ど全員が何かあれば、昔のことを引き合いに出されるだろうとビクビクしながらね。そして案の定、聞かれたときには一切の理論武装がないから意味もなく謝罪するでしょう。そうした態度で日本人が尊敬されるとは到底思えないわ」

「異口同音に、みんな黙って頭下げられたって、された方は嬉しくも何ともないよ。私だったら、何をどう感じて謝っているのか追求するわよ――でも、そうされたら、この子達お手上げだよね。反論する根拠となるものは何も教えられていないんだから」普段は陽気な佳枝も小学校の歴史教科書にマインドコントロールが施されているということを改めて認識すると、戦慄を覚えた。イスラム原理主義のタリバンの子ども達にアメリカ憎しの教育が施されていることは、日本の同じ子どもを持つ親なら容易に理解できるであろう。逆説的に表現すれば、日本は大丈夫と知っているのである。しかし、風子を姉にもつ佳枝でさえ、最初は風子の取り越し苦労だと思っていたくらいであったが、事の重要性に接し、もしかすると風子は大変なことに巻き込まれているのではないかと思いだしていた。

現在風子のサイトには賛同する、賛同しない、賛同はしないが賛同しているように見せかけて侵入する輩と玉石混淆の状態だと風子はみていた。井上憲司からもハッカーが風子さんのサイトを狙っているという情報を入手しました。気を付けて下さいというメールが入っている。ここのところ佳枝でさえ神経質になっていた

。左翼思想のハッカーとネットユーザーが手を組んで抗議を殺到させ、サイトを破壊しにくる可能性がある。風子は子ども達が付いているから大丈夫。サイバーテロの実体を子ども達に知らせて奮起させるとは云っているのだが。風子は人の相談事には滅法強いのだが、自分の事となると弱い。子ども達に泣き言を云うような人ではない。佳枝は姉の風子が気がかりだった。

「風ちゃん、リラックスして話して、私なりに後で、まとめるから」

「うん、これが中学生の質問なら、最初に非常に良い質問だけど、答えづらいと書くな。戦前・戦中までは、国と教師が一体となっていたことは確かなの。当時の小学校1年生の教科書には

ヘイタイサン ススメ ススメ チテ チテ タ。 トタ テテ タテ タ。

と兵隊さんを讃える歌が書かれているくらいだから。ここまでは明らかに国と教師の心はひとつだったわけね。戦後になってから分かれ出すわけ。学徒動員で若い人が死んでいった。何が悲しく切ないといって、自分より若い人が行くことほど辛いものはない。

。

風子が重い口を開いた。

両親が苦しむ、次に苦しんだのは教師だと思うの、昨日まで、国の為に死ぬ。無駄死にはならない八紘一宇の日本に勝利の日は訪れると豪語していたら、尊い命だけ犠牲になって、敗戦。まるで犬死。そうした自分にも責任があると思った教師は多く居たでしょうね。先生、日本はどうして負けたんですか、先生の云っていることは間違っていたんですかと質問されたらどう答えたらいいのか教師は会合を開いたけど、子ども達にどう説明していいのかわからない。結局、国の指導通達を待つ事にした。ところが国からは何も云ってこない。このあたりから教師は国に不信を持つようになったわけ。でも、日本はどうして負けたんですか、先生のいっていることは間違っていたんですかという質問は子ども達から出なかったのよ。子どもの目にもはっきりわかったんでしょうね。大人達の焦燥ぶりが、子ども達は、只、黙々と親の手伝いをしたの。少ない食べ物を分かち合いながら、生きていけば、おじちゃん世代ね。私ね。その当時の子どもの写真見ると涙が出る。男の子は全員丸刈り、女の子の殆どがおかっぱ頭戦争を招いた人達がいつも学校周りをして、子ども達を見ていたら、子どもの幸せの為に、この子達の命を長らえるにはどうしたら良いのかを考えたら、戦争の道を選んだらうかって、いつも思うのよ」

「教師は、国を恨んだらうね。騙された上にバカにされたって」

「喜びとか悲しみというのは、時間と共に下降するんだけど、恨み辛みは時間がたっても下がらないのよ。あの一言が忘れられないってやつね。――多分、教師は二度と同じ目に遭わされまい

、国の下請けさせられてたまるかって。それで子どもを戦争に取られない団体を設立する必要があった。教師一人では憲兵に連行させられて拷問されるという恐怖があるからね」

「教師は天皇制も壊そうとしたの？」

「お国の為に死ぬ事と天皇陛下の為に死ぬことはイコールだからね。君が代を歌わない、日の丸を掲揚しないという最近でもある傾向は、つまり天皇制への批判から来るものなのよ」

「以前は、祝祭日には、各家庭で日の丸を掲揚していたんだものね」

「ええ、そうよ。欲しがりません勝つまではと云う言葉で分かるように戦争の目的は勝つ事だから一億総国民は貧乏に耐えたんだけど、戦争が終わったら、復興期だから儲ける人と儲けられない人が現れた訳。それで、戦争の時は金持ちも貧乏人も勝つという目的の為に結束できたけど勝つという目的がなくなってしまった。社会全般の貧困から、貧富の差を無くす事を主張する共産主義に対する思想を教育界が取り入れたという側面もあるわね。当時政治に関心のある人は共産主義の信奉者が多かった。

子どもの事で教師は政治に興味があったからね。それと軍国主義とか共産主義というのは教える側からすると論理的に教えられるから楽でもあるのね。GHQの目的は戦後日本の根本的改革で、二度と戦争出来ない体質にすることだったの。それは精神構造を入れ替えることだったわけ。アメリカには共和党と民主党という二大政党があるでしょう。当時、民主党の中に最も先鋭的なグループのニューディーラーというグループがあって共産主義に近い考え方をしていたんだけどー」

「ええ！アメリカの中に共産主義があったの？」

「ドイツを後に分断することになるベルリンの壁はね。壁が出来る以前は、ただ線が引かれていただけだったのよ。それで、東の軍隊が西の軍隊にアカンベーをしたり、お尻をたたいて馬鹿にしたようなことをやっている記録フィルムを見たことあるから、その当時はアメリカも共産主義をまだ脅威には感じていなかったのではと思われるわね」

「アカンベーに、お尻ペンペン。幼稚園児ね」

「そう、西も東の軍隊もお互いに楽しんで相手をカラカッテていたのね。この時期はまだアメリカは完全に共産主義を排斥してなかった証拠フィルムね。兎も角、原爆がそうであったように、アメリカはあらゆる面で日本をその実験台にして研究しようとした感があるのよ。だから共産主義思想もGHQから注入された可能性を否定できないの」

「つまり、日本を弱体化するソフトと実験台にするということは、日本はモルモットだったのね」

「イヤな表現だけど、そういうことになるわね。当初、マッカーサーは日本を弱体化するためには天皇制を壊そうと考えていた節があるんだけど、アメリカに帰って大統領選に出馬したい野心があって、早く片づけたい。その為には天皇制を壊すより天皇制を利用して、民主化を早めた方が早いと考えて、天皇制は存続させることにしたの。マッカーサーは秘密警察を廃止させるために政治犯である共産党員を一斉に釈放したし、治安警察法が改正され言論の自由が保障され労働組合の結成を奨励して連合軍の指令塔、共産党幹部の釈放により、各地で次々に労働組合が結成。激的な労働運動が始まったの」

「風ちゃんの話しを聞いていると、今抱えている日本の問題は、この当時に種がまかれ施行されたことが殆ど原因しているのね」

「私のことをインターネットで知って異議を唱える人達が太平洋戦争の女とか云っているらしいんだけど、今の日本の問題を遡っていくとどうしても、大きなひづみと歪みがある。そこが太平洋戦争なのよ。それで太平洋戦争の女になってしまうんだけど。それじゃあ反論する彼らは、どれだけのリアリズムとポリシーで云っているのかと思うと、子どもの時にテレビ見ている、黙っている父親が、テレビに天皇が写った時だけ、コレがいたから戦争になって、戦争に敗れたんだって。

天皇がブラウン管に出る度に繰り返しているのを聞いて共産主義がいいんだと決めていたとか、卒業式の日、先生が国旗掲揚と君が代は歌わないと、普段はシャキッとしない先生が、何故か、その時だけはシャキッと云うもんだから子どもにはインパクトが強く、そういう時って卒業式だったりするわけで、その事から君が代・日の丸を見ると気分が悪くなったって人が現れてきて」

「風ちゃんが、マインドコントロールを少しづつ解くといっても集団でかかっているんだもんね」

「兎も角、自分で悪銭苦闘して調べて共産主義者になった人は殆どいない。大半が誰かの影響を受けていて、その誰かが、殆ど教師なのよ」

「そう言えば、この前のメールに、学校で君が代を歌ってはいけないと日教組の強い所では歌えなかったみたいなの。理由は、さざれ石が巖になって苔をむすかと云うわけ。中学の卒業式に蛍の光が歌えないで、卒業式が終わると誰が言ったのか、もう一度教室に集まって蛍の光を全員で歌って泣いた記憶があるって。子供心に何か違うという思いと、もう二度と訪れることのない中学生生活への望郷の念にも似た思いが子ども達を最期の教室へ向かわせたのだと云っていたね。――誰も云わないことだけど風ちゃんは、未曾有の不景気の根本原因は経済の問題ではなく、日本人自らが日本人を否定していることにあると思っているんでしょう」

「今のままでは、景気が良くなっても、又崩壊がやって来ると

思う。世界の企業になったトヨタ・・ホンダ・ソニーは日本が輸出する最強のソフトになりつつあるのに、土台のハードを寄り強くする努力を政治家も教育者もしていないもの。日本は資源国ではないのだから人こそが貴重な資源でしょう、教育というものは人材を人財にするから価値があるのに、今の教育は人材を人罪にする教育しかい。労働時間短縮という聞こえはいいけど、今のよう教育では勤勉でなくなることを奨励しているようなものだわ。一度怠惰になりだしたら、勤勉に戻るのは難しいわよ」

「一度覚えた煙草の味を忘れられないのと一緒にね」

「そういうことね。経済なんて良いときも悪いときもある。でも教育が間違っていたら、経済は悪いときだけになってしまう」

「吉田松陰って云う人は、読み書き算盤を教えてはいないんだってね」

「そうね。今に当てはめたら、松下村塾は日本の未来を考える。日本未来総研というような位置づけかな。松陰が塾生に云って聞かせた言葉は飛耳長目。情報を出来る限り集め、その中から、信憑性のあるものだけ抽出して、英気を養い、日本国が危機に瀕したときは一命を投げ打って国に尽くせという。たったこれだけの教え」

「それだけなの？」

天皇がブラウン管に出る度に繰り返しているのを聞いて共産主義がいいんだと決めていたとか、卒業式の日、先生が国旗掲揚と君が代は歌わないと、普段はシャキッとしない先生が、何故か、その時だけはシャキッと云うもんだから子どもにはインパクトが強く、そういう時って卒業式だったりするわけで、その事から君が代・日の丸を見ると気分が悪くなったって人が現れてきて」

「風ちゃんが、マインドコントロールを少しづつ解くといっても集団でかかっているんだもんね」

「兎も角、自分で悪銭苦闘して調べて共産主義者になった人は殆どいない。大半が誰かの影響を受けていて、その誰かが、殆ど教師なのよ」

「そう言えば、この前のメールに、学校で君が代を歌ってはいけないと日教組の強い所では歌えなかったみたいなの。理由は、さざれ石が巖になって苔をむすかと云うわけ。中学の卒業式に蛍の光が歌えないで、卒業式が終わると誰が言ったのか、もう一度教室に集まって蛍の光を全員で歌って泣いた記憶があるって。子供心に何か違うという思いと、もう二度と訪れることのない中学生生活への望郷の念にも似た思いが子ども達を最期の教室へ向かわせたのだと云っていたね。――誰も云わないことだけど風ちゃんは、未曾有の不景気の根本原因は経済の問題ではなく、日本人自らが日本人を否定していることにあると思っているんでしょう」

「今のままでは、景気が良くなっても、又崩壊がやって来ると

思う。世界の企業になったトヨタ・・ホンダ・ソニーは日本が輸出する最強のソフトになりつつあるのに、土台のハードを寄り強くする努力を政治家も教育者もしていないもの。日本は資源国ではないのだから人こそが貴重な資源でしょう、教育というものは人材を人財にするから価値があるのに、今の教育は人材を人罪にする教育しかい。労働時間短縮という聞こえはいいけど、今のような教育では勤勉でなくなることを奨励しているようなものだわ。一度怠惰になりだしたら、勤勉に戻るのは難しいわよ」

「一度覚えた煙草の味を忘れられないのと一緒にね」

「そういうことね。経済なんて良いときも悪いときもある。でも教育が間違っていたら、経済は悪いときだけになってしまう」

「吉田松陰って云う人は、読み書き算盤を教えてはいないんだってね」

「そうね。今に当てはめたら、松下村塾は日本の未来を考える。日本未来総研というような位置づけかな。松陰が塾生に云って聞かせた言葉は飛耳長目。情報を出来る限り集め、その中から、信憑性のあるものだけ抽出して、英気を養い、日本国が危機に瀕したときは一命を投げ打って国に尽くせという。たったこれだけの教え」

「それだけなの？」

「飛耳長目は集めた情報を分析するのよ、これは現代のコンピュータでも出来ないでしょう。それには勉強もしなくてはいけないし人の話も聞かなくてはいけない。そして何よりも、時代とか人々の心理も理解しなくてはいけない。しかも出した答えが正しいという保障もない。とても本の一冊で表現しつくせるもんじゃあないでしょう。ところが軍国主義と共産主義はね、どちらも教えやすいのよ。特別に学校行かなくても、理論は単純だから本の一冊で充分なの。だから戦前の軍国主義、戦後の共産主義の卒業生が全員、今の世の中を構成しているんだけど、その割りにこれといった人物が輩出されていないのは、考える必要性が生じないからだと思うの」

「正しいときには一命を賭けろという飛耳長目は、正しいかどうか、分からないんだから、考え抜いたでしょうね」

「それは、考えただろうね。新聞もラジオも何にもない。勿論、英語も分からないんだからね。現代は考える為に情報取ろうとしたらインターネットから、殆どタダ同然だけど、あの時代は情報取るのも命がけだものね」

「目的は経済を強くするためではなかったし、幕藩体制を維持するものでもなかった。日本の国であるハードにあった新しいOS（オペレーション・システム）の構築に取りかかった最初の人かな。吉田松陰が余りにも偉大なのは松下村塾は8畳と10畳半の木造瓦葺き平屋建ての小舎で安政4年（1857）11月5日、野山獄に再投獄されるまでの2年に満たない月日なのに高杉晋作、久坂玄瑞、入江九一、吉田稔磨、前原一誠、品川弥次郎、野村靖、山

田頭義、松浦松洞、伊藤博文、山県有朋、松本鼎などの逸材を輩出しているの」

「凄い」

「この時代に幕閣の広瀬深総タソウ率いる癩儀園カギンが存在するの。今で云えば官庁コースのエリートを要請する学校、全国各地の幕臣の子の超秀才塾で能力別学級制度を取り入れ卒業生は1000名を越えているのに、ここから維新に活躍した人物は一人として出ていないのよ」

「松陰は具体的に何を教えたの？」

「教える機材とてない来る人も裕福な家庭の子ではない、しかも二年に満たない歳月となれば、吉田松陰の生き方・考え方、そのものが教材であり、松陰先生の生き様が明治維新の前夜の門弟たちの魂をゆり動かしたわけ。士分の者も足軽の子も平民の子も差別なく松陰は塾長というよりは彼らの兄さんくらいの気持で接して世界の形勢、日本の実情を把握して内憂外患の危機状況にいかに対処して行動すべきかという問題意識を提議したのよ」

松陰が象山に残した言葉。

『生を捨ててみれば、視界は雲なく霧なく澄わたり、自分が何を成すべきかの道も、白道一筋、坦々として眼前にあります』

『人生必ず死あり、願わくは青史の名を全うせん』

「私は、ただ生きるのではなく、何のために生きるのかを探してその道が真に正しいと思う時、死は恐れず邁進します。という様に置き換えているのだけれど」

「ところで、大泉のおじちゃんが好きな米百俵の精神だけどこれを唱えたのは小林虎三郎で、彼は江戸に出て佐久間象山の塾に学んだのよね」

「長州の吉田松陰（寅次郎）と共に門下の『二虎』と呼ばれた人物でね。小林虎三郎の郷里には一歳年上の河井継之助がいるのよ。河井は官軍にも佐幕派諸藩とも手を結ばず。自藩のみの『中立』を藩是とするんだけど虎三郎は河井の藩是の無謀と幼稚さを解き閑居の身となってしまうの。河井は享年42歳で没して。官軍に刃向かった国賊となった長岡藩は石高を一気に2万4千石に削られ戊辰戦争後、藩士の家族は三度のお粥にすら満足にありつけず、その惨状を知った支藩から米百俵が送られてきたの藩士達に虎三郎は『この米百俵で学校を建てる』と宣言したわけ。学校を建て、人物を輩出していたのなら、河井継之助のように暴走して藩を絶滅させるような危険人物は出て来ないとの思いがあったのでしょね」

「もっと評価されてもいいのにみんながソレほど知らないのはどうしてなの」

「後進は旧制長岡中学校と名を変えてこの学校からは、かなりの人物が各界に輩出されているんだけどね。一番有名な人がね」

「誰なの？」

「太平洋戦争開戦時の連合艦隊司令長官・山本五十六なの。山本

は『一年や一年半は存分に戦えるが、その後は責任は持てない』
と言ったのね。後年、井上成美大將は『あの時、山本五十六さん
が、この戦争に日本が勝利することはありません。とハッキリ
云っていれば日本は開戦しなかったであろう』と云っている
のよ。今や学校という建物は立派になってカリキュラムは充実し
ているけれども、その中から、先見の明のない人物が一人でもリ
ーダーになったら、その国は危ういことになるということね」

「河井継之助と同じで先見の明がなかった訳ね。米百俵も少し暗
いな」

「おじちゃんには悪いけど米百俵の精神は大いに学ぶべきだけど
、昔は消費を押さえることが経済を明るくしてたけど、今は消費
を延ばすことが明るい経済の根幹である上に現在は実体の経済の
十数倍の経済がバーチャルな市場を作って張り巡らされた世界ネ
ットワークをコンピュータで結ばれている時代でしょう。だから
、当時の手法など通じない時代だという認識が欲しいのよ」

「米百俵というと何となく大八車を想像しちゃうんだよね。ロケ
ットの時代だものなあ」

「官でもない民でもない、特殊法人のようなところろは景気の良い悪いに関わらずビシバシやれば良いのよ。ただ民は違う、政治家や官僚は大きな勘違いしていて民を束ねているのは自分たちだと錯覚しているけど、生きていく衣食住の根幹はみんな民ですからね、政治家・官僚は居なくなっても次の日には成りたい人募れば直ぐに出来上がる組織でしょう」

「おじちゃん聴いていたら怒るよ」

「どうして、オギャーって生まれた子が小学校4年生に成ろうとしている10年もの間、景気ひとつ良くできないってことは誰でも出来るっていう証明よ。兎も角ね。民は自助努力で成り立っているのに官の無策の影響を受けるから困るのよ。正しい政策なんてね。今日の一手が明日には通じない時代に世界に言質になる数字だけ30兆と決めるなんてナンセンスよ。現に小売業一位に躍り出たヨーカードーの社長は既に時代を先取りして曰く『家は朝令暮改が基本』と云っているもの。夜も休みなく電子で金が行き交うマッハ経済には、その時だけ有効な一手が正しい政策なのよ」

「つまり、おじちゃんには二虎を超えたライオン丸の発想が必要だという事を云いたいのね」

「そういうこと、信念は誰よりも感じるんだけど、機を見るのに敏ではないのよ。今の時代の国の長にはヘッジファンドの裏を搔くくらいの機転と勘が必要なんだけどヘッジさんファンドさんからみたら、幼稚園児のように分かりやすい人なんじゃあないのかな」

「おじちゃん聴いていたら怒るだろうな」

「名選手、必ずしも、名監督に非ずと云うでしょう。でも今の政治家や官僚はプレーヤーでもなかった人達で埋め尽くされている。だから、1965年証券不況の際、山一証券は日銀の特別融資で救われた時に甘えのDNAが組み込まれていて倒産。ホンダが星でトヨタが月くらいだった時、太陽のような大きさだった、元は官の日新自動車は今や日本の会社ではない。倒産した日本長期信用銀行も北海道拓殖銀行も元は官と如何に政や官の血が経済に向かないのかは実証済でしょう。旧大蔵省の管轄下にあった銀行が叩かれている。既に江戸時代に世界初のデリバティブを考え出した末裔の銀行がその裁量を遺憾無く発揮さえ出来ていれば今頃世界を席卷していたかも知れないのに、それが出来なかったのは、自分達より学校の勉強は出来たけど仕事は出来ない立証済の旧大蔵、今金融庁に何回も監査されて不良債権の実体一つ数値化出来ない馬鹿役人。でも楯突けば業務停止命令や首になってしまうー」

「自分より能力のない人に通信簿付けられて、逆らったら切られるから、天下のエリート銀行員達は昼はパソコンとボールペンで融資客に渋い顔を見せ、夜は銚子とグラスに持ち替えて最期は風俗でノーパンしゃぶしゃぶご接待でご満悦だったんだ」

の金融業界の唯一真実で全く疑う余地のないレポートを提出する
としたら、この部分は永久に後世に残さなければならないわね。
そうしないとねバブルもバブル崩壊も時代だったとか世界の流
れだったとかという煙幕で真実が見えなくなり、無能だったとい
う正体が経済は難しい。政治はなお難しいという事になりかね
ない。30人31脚と同じことなのよ」

「ああ、二人三脚の大型版ね。哀れね。技術より心が一つになら
ないと勝てないのよ。一人でも心がない子がいると前には進まな
い精神的な競技な訳。本来、経済というものは生きている証を数
値化したものだから、健全に質素に生きている人の集合体である
限り落ち込むことは滅多にないものなのよ。それが10年も前に進
まないのは、心を合わせようとしなくて人が一切退場していないと
いう現実の問題なの。この前、頭刈った子が、順調に前に進むと
きは鳥のような気持になるのに、進まなくなると鉄の鉛を足に吊
しているようだといったけど、同じ理屈なのよ。誰が足を引っ張
っているのか見る人が見れば簡単に分かるんだけど、この国は見
ている人が一番足を引っ張っているから何十年も不況な訳、私が
子どもたちに云いたいことは国がどんなに豊かになっても個人は
質素で自分の役割を忠実に全うして行く限り政治も経済も悪くな
ることはないと云うことなのよ」

「バブルの時にそうした精神があれば。ここまで崩れなかった
よね」

「政治家・官僚は監督の器でないことを早く自覚して、プレーヤ
ーこそ民であるという自覚が欲しいのよ。グランドボーイになっ

てグラウンド整備に徹してくれることの方が何よりも景気浮揚と財政再建の近道だということを知って欲しいわ」

「今、世界で5才未満の子が病気や栄養失調で毎日3万500人死んでいて、学校へ通えない子が1億1000万、家のない路上生活者が1億人。世界各地での紛争で死ぬ子が10年間で500万居るんだよね。一方、完備した教育体制からは一向に人物が現れない。現代の松陰先生が居ないんだから永久に無理だろうな」

「戦前の教育までは吉田松陰の志は教育勅語と修身という形で残ったんだけど、GHQは日本人の団結力を強固なものにすることで解体していくのよ。道徳の時間が認められたのは終戦から13年過ぎる1958年。結論から云うと戦前は道徳教育が中心だったけど終戦から後は道徳教育は全くされなかったに近い状態の子供が既に56才だから日本人は終戦を境にして人格は変わってしまっているといっても、少しも過言ではないのね。だって道徳という教科書は認められていないし私の門下生の情報では週に一度、道徳という科目はあるけど、学芸会や図工の調整時間で教師は身入れてやっていないって、最近の青少年犯罪の多発を考えると道徳教育がないことに注目がいくのは当然かもしれないね。

「そう、日本の根幹、私流に言えば、道徳教育が抹殺されて共産主義教育が施されていたという考え方、共産主義という科目の教科書は存在しないからマインドコントロールされていた訳。一例で云うと、私は労働者だ。黒板に書くチョークには有害な物質が含まれている。私は授業をしなければならない故にチョークの微粒子を吸い込むが、それで病気になっても労災の適用はない。だから教職員の労働組合の日教組に入って国を相手取って労災の対象にせよとシュプレヒコールしている。君たちの父親も労働者だ。だから労働組合に入って居るはずだ。君が代・日の丸は無視していい、むしろ軽蔑すべき対象だ。子ども達は学校へ行って教科書を勉強しているようだけど、実際には教師の思想を受け入れてしまっているわけ、親と話す時間が1としたら教師との関わりは最低でも100以上にはなるでしょう。だから、社会人になると労働組合に入るし、昭和初期には祝日に、各家の軒下に日の丸の国旗が掲揚されたけど、だんだん減って今はそうしたことをやると、右翼ってイメージに成っているわけ、それでも社会人になって民間に勤めると実社会で色々学ぶにつれ、共産主義から離れていくことはあるけど」

「どういう風に」

「だって、給料上げろって言ったって、企業に利益が上がらなければ人件費は出ないでしょう。ソレには生産をあげなきゃあならないのに、給料上げろっていったる分だけ生産コストは上がっていくわけでしょう。だって仕事中の時間にやるんだから、ライバル会社は、その間セッセと仕事しているでしょう。当然商品の単

価は下がるから、品質が変わらなければライバル社の方が売れ出すから、そこで勤めている人の給料は上がっていく。自分たちが取った行動はライバル社に甘い蜜を売っていたんだと気が付いて慌てて、ストライキなんてやっている時じゃあないと思って改心しても遅いのよ。その時は会社側の人間と仲違いしていた仲だから、人間関係から修復しなくてはならない。安くて良い商品なんか出来っこないから会社は倒産、退職金も出ないという結末が待っていることを体験していく体験学習で労働組合は以前ほど活発にはなっていないけど。どうして、そんな遠回りをしなくてはならなかったのか」

「全てが、学校教育に集約されている訳ね」

「元は官の日新自動車なんて労働組合が強くなって、落ち込んできて、今じゃアルリー自動車の傘下になってしまったでしょう。どんなに巨大なものも内側から腐り始めたら、倒れるのは早い」

「組織の癌みたいなものだよね」

「でも学者・マスコミ・教育界では共産主義幻想が延々と残っていった訳ね。学者は政府の悪口言った方がテレビに出られて実入りが良くなるし、マスコミも政府の悪口云っていた方が視聴率稼げるし、教師はどうなんだろう」

「教師が一番いけないのは、学生からある日突然、教師になるでしょう。ということは教えられていたように教えると云うことなのよ、親からは時代が変わっているんだから、そんな教え方じゃあ、駄目だなんて云えないでしょう。だけど、子ども達はその時代しか知らないから、そこだけで判断する傾向にあるの。例えばしっかり勉強しろと云うわね。でも、家に帰ってテレビ見ると、長者番付に出てくるような人は、しっかり勉強していなかったような人がタレントになっているわけでしょう。この矛盾を教師は誰も応えられないでしょう」

「教師は、そこの所はアンタッチャブルよね」

「時代に敏感な子どもに時代と無縁のタイプの人が先生には多いから、学級崩壊が起きる。これが塾だと崩壊する前に子どもが集まらなくて塾の方が先に崩壊になってはと、努力した塾の講師だけが生き残れるシステムに成っているわけ。だから学校から塾に移行した方がいいということを云う人が出てきている」

「それよりも何よりも、真実の追求の前に、マインドコントロール教育が施されているんだから、うがった云い方をすれば、学校へ行かない方が最高の教育かもしれないね」

「マインド教育とエビックさんの指摘で思ったんだけど、ええとこのページ、歴史教科書の上の段の左側に『青空教室で学ぶ子ども達』というタイトルと当時の写真が左側に、右側には当時、使われていたと思われる教科書のあるページを写してあるでしょう。そこには戦争放棄という挿絵があって

新しい憲法の話しより（一部）

日本の国は二度と戦争しないように
兵隊も軍艦も飛行機も
およそ戦争するためのものは
一切持たないことにしました。

しかし

みなさんは、決して心細く思うことはありません。

日本は正しいことを他の国より先に行ったのです。

世の中に正しいことくらい強い者はありません。

って、あったでしょう。殆どの小学校6年生は本文より、そっちに目がいくわよね。だって、昔の教科書ってどういう風だったんだろう。自分たちと同じ子ども達は、どんなふうにかかれたものを読んでいたんだらうって」

「そこで平和憲法であるという、最初に先入観念が入るようにマインドコントロールしてある訳ね。何かの時に、子どもが憲法九条は、アレは平和憲法なんだよと親に云う、親は先生が言ったのかと聞くと違うよ、教科書に書いてあったんだよという。親は教科書に既に、平和憲法と書いてしまっているのか、そうなのかなあって、それでお終いよ。どこの親だってリストラの対象になるかも知れないという恐怖と戦いながらの日々だもの、その当時の、たったそこだけの部分を見せる。教科書の中にミスディレクションという高度なマジックが挿入されているなんて誰も思っていないでしょう」

「風子先生が、デートもしないで眉間に皺寄せて、みなさんは、決して心細く思うことはありません。日本は正しいことを他の国より先に行ったのです。世の中に正しいことくらい強いものはありません。という三行のマインドコントロール解くためにその100倍の文字を打ち込んでもいったん柔らかい頭にインプットされたものは、なかなか変えられないって訳だね」

「こう考えてくると、もう殆ど絶望的になるけど間違っているものは間違っていると云っていかないと。でも時々、気が遠くなる」

「風子先生頑張れ、門下生は、少しずつだけどマインドコントロールから解放されてきて、自分から図書館に行って調べている子もいるじゃあない。その子達の為にも頑張らなくちゃあ」

「それは分かるけど、でもね。容易じゃあない。例えばよ祖父母と一緒に散歩している孫がいたとして、祖父母は人生の経験があ

るから、孫に挨拶から教えるわけ、物心つくころにはもう、身に付いている。可愛い子どもに挨拶されて気分の悪い人はいない、大きくなったねとか、可愛いねとか言われるコツをもう会得している訳ね」

「祖父母が身近に居ると違うもんね。お蕎麦屋さんの利香子ちゃん。三つくらいだと思うけど、この前、傘さして回覧板回しにいったら、利香子ちゃんが『おねえちゃん雨のところ大変でしたね。帰りには、足下に気を付けてお帰り下さい』って、たどたどしいけれど、おばあちゃんとそっくりな角度で頭下げて、ヨシお婆ちゃんが苦笑していたわ。きっとヨシお婆ちゃんも三つ頃の頃は、こんな風だったのかなあって思ったよ」

「でも、各家族、両親離婚というような子どもは、そうした機会がないから、それでも身体が小さい時ほど注目されたい欲求が強いから、人目を引きたいばかりに、ワザとぶつかってくる、その途端、大人の怖い顔に出くわすけど、どうしていいか分からないからそれを繰り返して行くうちに個性になってしまって、あるとき、挨拶の重要性を教えてあげても、既に反抗期で、何故、どうしてと、ふてくされて云ってくる。三つ子の魂、百まで、躰は三歳迄で決まるって本当なのよ」

「身を美しくで躰けか、昔の人の英知だよね」

「今の子どもは法律を破っても何ともないくせして、挨拶しなくてはいけないという法律があるのかよと嘯く。そこまで言われて教えて、包丁でグサリじゃあ堪まらないから相手にする人が居なくなる。突っ張っているけど一人じゃあ何も出来なくて集団を作る、そうしておきまりの暴走族・覚醒剤へと転落していくわけね」

「風ちゃんでもなくても、その後の人生が見えてくるよね」

「挨拶が出来るかどうかだけで人生が大きく変わってくるんだけど。教科書には書いてないからね」

「そういうことにマインドコントロール使えばいいのにな」

「同じように正義の為なら人を殺してもいいを繰り返すと、必ず人を殺すのよ。だって人を殺さなければ正義があることを証明できなくなるから。その反対に人は神様しか造れないから、人を殺めてはいけないと繰り返して教え込むと、それだけで相手をより知りたくなって好きになろうとするものなの。同じ人に神を出して説いても、云い方でこれだけ変わるということを教育者は知っておくべきなのよ。少なくとも教育者は人が嫌いで、子どもが嫌いだったら成るべきではない。子どもが道を間違えるから、これ以上の罪はないと心得よって云いたいわ」

「ところで風ちゃんは赤軍派なんかも被害者だと思っているわけ？」

「そう、必ず彼らの過去を遡っていけば、強烈に左翼思想を注入した教師が居るはずよ。よど号を乗っ取り『北朝鮮のピョンヤン

へ行け』と要求した彼らは北朝鮮を夢の楽園と目指し、軍事訓練を積んで日本へ帰って武装闘争をしようとしていたんだけど、当時、彼らは声明文で『我々は...あしたのジョーになる』と叫び、当時の人気漫画『あしたのジョー』に自分たちをなぞって、“燃え尽きるまで戦うのだ”と叫んだの。北朝鮮が楽園の地だからどうか、国交がないんだから、誰も分らない筈でしょう。勿論、教科書に北朝鮮は楽園の地だなんて書いてないんだから、教師以外には考えられないのよ」

「あしたのジョーはボクサーの物語でしょう、どうして繋がりがあるの」

「直接、繋がりはないわ。燃え尽きるまで戦いたかっただけよ。北朝鮮こそ共産主義を取り入れ理想の社会主義の国を目指している。日本もああならなければいけないと、教師が言ったからよ」

「じゃあ、真面目な人の方が赤軍派になりやすかった訳？」

「そう、明日の日本を考えているようなタイプがね」

「気の毒に」

「そう半分はね」

「半分？」

「だって、マンガが楽しいのは非現実的だから楽しいんでしょう。四角いリングのコーナーに詰め寄られ、サンドバックのように叩かれて、ダウンした人が、やっとの思いで立ち上がり、それから反撃して相手をノックアウトして勝つなんてことはないでしょう。マンガだからありえる。消える魔球もそうだし、みんな非現実的だから楽しいんじゃない。超現実だったら面白くない。あしたのジョーがみんな機関銃もって暴れたら、周りがはた迷惑よ。教師が北朝鮮は素晴らしいといったら、イツ行って来たのか聞いてみたら良かった。行かないで北朝鮮は素晴らしいという意図はなんなのか、チョット考えれば分かるわ」

「それは異議あり、確かに風ちゃんに取っては簡単なことだよ。でも一般的には、先生が教室で素晴らしいといったら素晴らしいのよ」

「貴女、刑事は大変だと思う？」

「それは大変でしょう」

「刑事に知り合い居るの？」

「—————」

「ほらご覧なさい、産まれたときから刑事ドラマ見て、犯人追っかけて、その犯人に撃たれて殉職するのを涙流して見ているうちに刑事は大変だと思いこんでいる。前に、私のサイトのみんなに刑事が犯人追っかけているところを本当に見た人と聴いたら、ゼロ。勿論殉職したところなんて、全くゼロよ、ところがみんな刑事は大変だと思っている。これがトリック、これがマインドコントロールなの。左翼思想のマインドコントロールも手法は似た

ようなものなのよ」

「そうか、テレビの影響ってすごいな」

「選挙になると、命がけでやって見せますって云うじゃない。私、幼いときから命をかけてやろうって人は、黙ってやるんじゃないののかって思っていた。公言するような人が命を懸けた試しはないもの。この国を良くして見せますという人ばかりの集団に任せただのに、どうして戦争の道に進んだり、バブルが発生したり崩壊したりするのかってさ」

「言ったことを信用するからでしょう」

「人を見るにはね云っている言葉を信じないで、その人のやっていることを信じれば良いのよ。肩書きに惑わされたら駄目よ。名刺を出すでしょう、私、大半の人は名前ではなくて、肩書きに目をやっていると思うの。特に男の人はね。そして役職で態度が変わる。反対に言えば役職で相手に信用させるという面があるわけでしょう。バブルでひどい目に遭った人が異口同音に銀行員の云うことなら間違いないと思ったって云ってるじゃない。それは相手が政治家でも学校の先生でも同じこと、むしろ政治家とか学校の先生のように容易に信用される人は、信用を維持するための努力をしない人が多いから案外、要注意なのよ。人間ね、本当に死にもものぐるいになったら、命さえ懸けていることも忘れるくらい真剣になるのよ、頭が痛くなるほど考える。普段の10倍は賢くなるわ。それも人生の中でソウソウあるものじゃない。選挙カーから手を振って、愛嬌振りまいているのは当選したいから出来ることで、命を懸けている人がやることじゃない。身命を賭して戦えるのは、どんなに長くても4年よ。だから松陰は情報を集

めろ、確かな目で真実の情報を探せと教えたのよ。そして、これしかないという結論に対しては一切怯む事なく目的完遂せよと言ったと思うのよ。身命を賭して没頭出来る時間は、そう長くはないわ」

「ウルトラマンが、怪獣相手に出来る時間も確か3分しかなかったよね」

「そう、ウルトラマンが長期にわたって子どもから人気があるのは、カラータイマーが胸で鳴っている限られた三分の内に片づけなくちゃならないからなのよ」

「子どもって知って居るんだね無意識のうちに、そういうことを」

「だからね、そういうときの間って、凄いパワーを出すの。高杉晋作は、殆ど実践経験のない農民で部隊を結成した奇兵隊で、本物の軍隊である政府軍に勝っている」

「人間命がけになったら、そう簡単に騙されるもんじゃあない。全ての英知を傾ければ五感が総合して第六感を形成しちゃうんだから、マンガの主人公と自分を重ねるような幼稚な結論なんて出せやしないわよ」

「マインドコントロールって怖いね。自分が本当に納得して体得していないから、マンガとドッキングしちゃうんだね」

「そういうことね」

「トリックが明かされても、永遠にマジックがすたれないのは、如何に人間は騙されやすいかの証明みたいなものね」

「大仕掛けなトリックほど、呆れるほどネタは単純なものね」佳枝はメモ用紙を置くと風子の後ろに回り左手で風子の後頭部を押しさえ、右手で眉間を揉み出した。

「気持ちいい」風子はそう言った。佳枝の親指と人差し指に風子の滲んだ涙が触れた。うれし涙か

嘆きの涙か、それとも疲れの涙なのか、佳枝には分からなかった。誰か支えてくれる人が現れたら風ちゃんも心強いだらうに。その時、佳枝はそう思っていた。

大泉が夜メールを開くと風子からメールで
下記読んで下さい。

【教育ニュース速報】

「子ども国会」来年5月開会 国会内の一室に

子どももレッツゴー永田町！――。参院は9日の議院運営委員会理事会で、小学5年から中学3年生までを対象にした「子ども国会」を作ると決めた。国会内の一室を本会議場や委員会室を模した部屋に改修。子どもたちが議長や大臣、与野党議員に分かれて論戦を体験できる。来年5月の「開会」を予定している。

参院別館の講堂を約1億8000万円かけて改修。議長席や大臣用の「ひな壇」のほか、225人分の議員席も設ける。参院本会議場の押しボタン式投票装置や採決結果を表示する大型ディスプレイも備え付け、「できるだけ本物に近づけたい」（参院広報室）という。

「子ども国会」の問い合わせ先は、参院テレホンサービス（03・xxx・〇〇〇〇）

インターネットで上記の記事を読んで、おじちゃん、やったねって、早速テレホンサービスに電話したけど、がっかり、修学旅行に来た子ども達に、代議士気分、味あわせる為の設備ですってそこから何の広がりもないじゃあない。

電子政府目指している国の子どもに 格調高く格式ばかりの疑似体験なんてさせてるときじゃあないでしょう。

電子政府の何たるかを垣間見るくらいのカルチャーショックを修学旅行にきた子どもに与えるくらいの勉強をして欲しいものです。

以上 風子

「随分、機嫌悪いね。ー」大泉は独り言を云うと珈琲を飲んだ。飲み終わってから、再びモニターを見ると、もう一通、Eメールが届いている。

大泉の、おじちゃんゴメンなさい佳枝です。

風ちゃん、小学校の6年生の歴史教科書見てから、ピリピリしちゃっているんです。あれはGHQの日本弱体プログラムより悪質だって政治家はぶったるんでるって、それじゃあ、風ちゃんが政治家になったらっていったら馬鹿、今のようなマインドコントロールをしている馬鹿政治家変えるには頭叩いてやるトンカチが必要で、直すのに千年掛かるって最早、政治家のような偽善者を相手にしている時ではない、政治家如きになって政治家を教育するより子ども達に訴えて、子ども達に考えてもらうのみだって

、たった一人の理解ある、カワイイ妹の私のこと馬鹿っていったんですよ。風ちゃん、昔から、二年に一回くらい爆発するときがあるんです。

でも、ソロソロ治まる頃です。

昨日ね。歴史教科書を貸してくれた子がお店に来て、風ちゃんに頭やってもらっていたら、その子が風ちゃんに『僕は風ちゃんが教えてくれたインターネットや図書館について色々調べたんだけど、日本は凍え死ぬかとおもうような日と、裸になっても熱くて眠れない日と半年づつにくるでしょう。四方八方を海に囲まれていて、海から色々な空気が入ってきて結構めまぐるしい訳よ、衣替えも半年づつでしょう。だから、そんなことで他の国の人より季節が目まぐるしく変わるから忘れていく度合いが早いんじゃないかな。でも忘れてはいけないことはキチンと整理して子孫に伝えないとさ。つまりさ、多角的視野ってやつよ。一方的な意見はいけないと思う訳よ。その努力を惜しむと忘れた人より忘れなかった人の意見が主流になっていっちゃうからさー』

そうしたら 風ちゃんが

『偉い、良くぞ気が付いた。流石、風ちゃんが頭やっている子だ。門下生だけの事はある。男は、いつでも、そういうことや世界を考えていなければ駄目だ。秀吉が天下を取れたのは、草履取りの仕事をしながらも、片時も天下のことを忘れないで考え続けたからだ。気概を持って、男だったら日本人であることに誇りをもて、そして立ち上がれってー』それは大変な喜びようでしたから、

その日、風ちゃんの今日の一言を、かいま見たら

白金も 黒金も 玉も 何せむに

まされる宝 子にしかめやもーって

書いてありました。コレ、どういう意味でしょうか？

そういうことで、大きな心で風ちゃん見てやって下さい。

あっ、それから、このメールは ひ み つ

機嫌悪いと、手打ちにされますから、

それでは 風子サイトの 美人秘書 佳枝でした。

「風ちゃん。白金も 黒金も 玉も 何せむにまされる宝子にしかめやもーって現代訳だとどうなるの」佳枝はいつものように、深夜になると珈琲を持って、風子の部屋に入ってきた。

「銀も金も財宝があれば金持ちだけど、そんなもん無くたって子どもの方が宝だっていう事よ」

風子が不機嫌そうにいった。ノッテいるときの風子はモニター画面を見たきりで話しをするから今日は少しご機嫌が悪いなと佳枝は思った。

「誰が作ったんだっけ」

「山上憶良よ」

「そうか」風子は佳枝から珈琲を取ると、味わうように目を閉じて一口飲んで

「お母さんは？」

「お風呂入ってる」

「今日は佳枝がお風呂洗う日だったよね」

「気が付いていた」

「いたわよ」

「今日、機嫌悪いね」

「少しね。私が洗っておいたから、貴女は3回連続でやりなさい」

「3回も連続」

「そう、約束を破ったんだから仕方ない」

「分かったよ。友達と話し、していて少し長引いたのよ」

「その時の為に携帯があるんですから、云い訳にはなりません。

約束破り出すとーーー」

「癖になって、頭が悪くなります。人は約束を守ってさえいれば、頭は悪くなりません」

「その通り、ところで、佳枝さん」

「何よ、いつも実験動物なんだから」

「貴女の方が私より若いんだから、ということは小学生に近い。もともと小学生に近いんだけど」

「侮辱だわ」

「貴女に質問です。日本人は信心深いと思う、それとも信仰心はないと思う」

「信仰心はないでしょう。だって無宗教だと大半の人は思っているもの」

「それじゃあ、生を受けると両親の腕の中に抱かれながら神社に詣でる。そこで両親が清らかな心で成長する事を祈願する姿に穢れなき神道の日本人を自覚する。所が亡くなると忌中といって忌み穢れたものとし線香を焚いて仏教徒となり三途の川を渡るといふ。日本人はクリスマスでキリスト教、大晦日除夜の鐘を聞いて仏教、終わると急いで初詣に行って神道、七草粥を食べる頃には家長が家族を召集一年の我が家の目標を語る儒教まで。最も多忙な年の瀬から年の初めの半月程の間に誰に強要される訳でもなく、むしろ家族が楽しんで宗教儀式を敢行する――だから信仰心はあるっていう見解を云う人がいたら――貴女何て反論する」

「えっ、そんなこと考えたこともない。でも、じゃあ信仰心はあるの」

「私が貴女に聞いているのよ」

「分かんないよ」

「数年後には二十歳になる人が、これだもんね。学校教育に問題があるよね」

「悪かったわね。それにしても何を悩んでいるの？」

「だから宗教よ。おじちゃんがユダヤと日本を対比して言ったことから、ユダヤの話しをしたら、反響は大きくて良かったんだけど、ユダヤのことをもっと知りたいっていうメールが多いの」

「いいじゃない」

「程度問題よ。こやつらは、日本に宗教はないと思っている。この国は、文部省と教育界でねじれていて、外国は日本を神道の国だとおもっているけど当の日本人は仏教国だと思っている。毎年大騒ぎするクリスマスは無神論者の日本人の完全文化になって、さっきも言った年末から年始に掛けて色々な宗教やっているから解っているのかなーと思うと猪八戒の生まれ変わりみたいなのに日本の頭脳となるべく人が餌食にされる」

「オウムか」

「日本人がいっこうに目覚めなくてユダヤを学ぶのは良くないって思い出したのよ。日本人なんだから日本人の心とでもいうべき精神を理解してからだったらユダヤ教でもイスラムでもラマでも何でもいいから、基本・基準・基礎がないのに他をやると、最初に勉強したものが、どうしてもベースになってしまうから危険なのよ」

「その意見には賛成だわ」

「例えばね、愛してるを最近、連発しても云い時代になったけど、愛してるなんて言葉は日本には本来なかったのよ。愛という概念がなかったからね。だから、キリストのGod's LOVE は日本語に訳せなかったのよ。それで作った言葉が愛なの。日本人の長い歴史の中で愛という概念、愛という言葉がなくても生きていたわけ、それが日本の宗教観だと思うの」

「それでも、無理矢理探せばあるでしょう。人間生活は万国共通なもの」

「愛とはほど遠いけど、私は愛より好きな言葉がある」

「なに？」

「それは、思し召し」

「おぼしめし？」

「そう、神の思し召しよ。愛って云うのはね。チョット問題が起きてくるのよ。さっき風呂当番さぼったから、私は貴女にキツイこと云いましたね。貴女、どう思って」

「それは、まあ、何て、愛のない姉さんかしらって、たまあに出会った友達と話していたら話しに興じてきてさ、少し気にして帰ってきたら、優しいお姉さんが出てきて、風ちゃんじゃあないよ。私の理想のお姉さんがだよ。佳枝さん、お友達と会って、話しが進んで、そう、それは良かったわね。お風呂たてておいたから、お入りなさいよって優しく云ってくれたら。愛のある人だなーって、目からピンク色のハートマークを沢山出しちゃうよ」

「でもよ。当番さぼられて、あれほど云っているのに電話も掛かってきやしない。お母さんが気が付いて、お風呂洗うような様子

見せたからさ、私が、そうだ今日は私の日だったって云ってお風呂洗いながら、電話も掛けて来ないということは、どこかで事故にでも、もしかすると、ナンパされていて、イヤそんな物好きが居るわけないしなーと、じゃあ、いったい何だと、色々と考えあぐねていると、お客さん来たのでお風呂洗いもそこそこに店出ていると、バカ妹が、未だ未成年の癖して少し酒の臭いなんかさせてさ、お姉ちゃん。焼き芋買って来たよなんて大きな声で、お客さんが、そうか風ちゃん焼き芋好きなんだ、そういうところは普通の女の子だね。食べ過ぎるとねえ、出るんだよね屁が、でも、風ちゃんの屁ならいい臭いかもしれないなーなんて言われて。あの時、佳枝の首閉めてやろうと思ったんだからね。ああ、つくづく愛のない妹だって、佳枝じゃーないよ。私の理想とするところの妹だったら。言われなくても電話くらいしてきて、そうすれば私だって、たまあに会った友達なんだから、ゆっくりワインでも飲んで、楽しんできなさいよってー」

「そうかな。言わないと思うけどな」

「黙って聞け、それで、焼き芋は買って来るんだけど、お客の居るお店じゃなくて勝手口から入ってきてさ、お姉さん。ごめんなさい。焼き芋買って来ましたからって言ったら、ああ愛がある子だなあって」

「お店のことは悪かったよ、怒られると思ったから焼き芋買ってさ、少し酔ったふりしなきゃあこっちも都合があったんだよ。そうしたらよりによって、あのエッチな小父さんが運悪くいてさ。もうお客さん居ないと思っていたから――」

「フッフッフー、まあ、いいわよ。本当はそんなに怒っちゃーいないのよ。まあ、そういうふうにしなさい。愛はどうしても、自分が基本になるから、その人にとっての愛と、こちらの愛は必ずしも共通しないというより、むしろ、相反するわけよ。でも、これが神の思し召しということになると違ってくるのよ。私が、さっき言ったでしょう。約束破り出すと癖になって、頭が悪くなります。人は約束を守ってさえいれば、頭は悪くなりませんって、約束というのは人と人との間のことだけど、もう少し云うと、つまり、神の思し召しなのよ。私はこうして欲しい、でも、報われない。愛が欲しい。ああ、どうして神様は愛を下さらないの。涙、涙――っていうところが、私はこうして欲しい、でも、報われない。これは私の努力がたりないのか、それとも神様は、私が求めているモノは違うと思し召しているのかということで、涙が反省・思考へと変わるのよ」

「そうだよ。英語でアイは、日本語では私・俺・それがし・拙者・みども・わし・わい・わらわというようにもっとあるでしょう。こんなにボキャブラリーの有る民族が、どうして愛と云う言葉に変わる言葉をもっていなかったのかって考えると、ないことを研究してみたくなるよね」

「どう、佳枝さんをかき立てる日本の文化って捨てたもんじゃあ

ないでしょう」

「日本人は、もっと謙虚に日本を見つめ直すべきだよ」

「でも、ユダヤに関心があるわけだから、そこんところを、どう、子ども達に伝えればいいかって、それで悩んでいるのよ」

「でも、悩み過ぎじゃあないの」

「昨日ね、私の門下生が来たのよ」

「教科書貸してくれた子ね。インターネットや図書館に行って色々調べて独自の構想を練り上げた男の子ね」

「その子に例の歴史教科書の問題の歴史のところでの授業風景が、どんな感じだったのかりサーチせよって云っておいたのよ。どうだったと聞くと、歴史教科書に載っている写真なんかを、少し怒ったときの先生の顔に似ているとか云ってクラスを笑わせる子までが、背中を丸め、自分だけの世界に入るようにして写真を見入っているらしいの。通常なら、みんなどんな顔しているのかなって、子どもだから視線を動かすでしょう。でも、その時は誰も人の様子を気にした様子がなくて、重苦しい雰囲気の中で眉間に皺寄せて聞いているんですって、先生は日本人が日本人以外の人を見たら見境なく、殴るか、殺すかのような、アノおどろおどしい教科書を歩きながら読んでいる。子ども達は、その時の証拠写真を見せつけられ、グウの音も出ない思いで、食い入るように教科書の中の写真を見ているわけ、エビックさんに言わせればもっとも巧妙なトリックを披露している状況、教師は普段の教室の雰囲気が違う事は分かるはずだから、日教組系の先生なら聞かせどころよね。そして教科書を作った人達から言えば、マインドコントロールのなされた瞬間ということになるわね」

「門下生は？」

「彼には、まだ授業していない時に、家で何回も読んで、変な所があると少しでも思うところがあったら教えてよって言ったら、おかしい所は日本の教科書なのに、日の丸がなくて、オリンピックでは日の丸を揚げて君が代を歌っていると出しているところ。世界の国旗とうたっているのにアメリカの国旗は汚く載せてあるけど、イギリス・ドイツ・フランスの先進国の国旗がなくてエチオピアとブラジルの国旗がある点を指摘したわ」

「さすが、門下生ね」

「その門下生が、僕は風姉ちゃんから、先に聞いていたし、風姉ちゃんから、教室現場でのみんなの様子をレポートにまとめよっていう仕事があったから、胸を張ってみんなの態度を見ていたけど、風姉ちゃんの話聞いていなかったら僕も背中丸めて、眉間に皺寄せてああいうふうに教科書を見ていたんだなと思った。僕は下を向いていなかったから先生と目が合ったんだけど、どうしてお前は、みんなが沈んでいる時に下を向かないんだというような怪訝そうな顔をしていたって云っていたわ」

「怒られないだけでしたっただね。あの子は風ちゃんが見ている子だから勉強も出来し、それで怒られなかったのよ。その時、先生にお前のそうした態度は、ここに出てくる兵隊と同じ態度だなんてやられたら、一生引きづるところだった。そうならなくて良かった」

「そういう形で、日本の子ども達が全員、ある時期に下を向いて日本人をひどい奴だと思う。そして僕の中にも、私の中にも、そ

うした残忍の血が流れているのかと思う。そこでチャイムが鳴り響く。みんな、沈鬱な表情でいると、ムードメーカーの誰かが、オイ遊ぼうぜと、いつもより大きな声を掛ける。取り越し苦労しているのは自分だけだったと、直ぐに以前みんなに戻るのよ。施した教師はこれを見て成果が上がったとみるかどうか。子ども達はいつもより、大きな声を出して、いつもよりおどけて、いつもより早く走る。可哀想に、みんな、自分の血の中にある悪い物を蒸発させるか忘れるようにしているの。おい、お前どう思う、そんなに日本人って悪い事をしたと思うかと話せる段階をとうに超えている。話してはいけないこと。黙っていることなのだと思ひ込む」

「日本人って、何処の国の誰よりも、そういうときに察してしまうんだよね。自分の胸に秘めるっていうのかな」

「一人になった道すがらにフト、その日の授業を思い出す。その後で、クラスメートは普段と変わらなかったことに気付く、こんなことで悩んでいる自分の方が考え過ぎなのだと思って帰ると、いつも通り、宿題やってから遊びなさいよという声が聞こえてくる。何も昨日とは変わらない、ある日の40分はこうして脳裏に強く刻まれていくわけ」

「みんなが黙認して個人で悩んでいるけど、口にしないから公にならない、ボディブローのように後で利いてくるんだね。風ちゃんが一番云いたい事って何なの」

「戦争を放棄を世界に類のない平和憲法と云う人に云いたいのだけれど、国内の不審者・凶悪犯に対して警察がある。凶悪犯に対して警察は武器や装甲車を持っている。これがあるからマル暴に対しても、それ以上の装備がある警察に信頼を寄せられるわけで、国外の不審者・凶悪犯は今回のテロ事件が雄弁に物語っている。アメリカが丸腰だったら、今頃、アメリカはタリバンが支配しているでしょう。だからね。平和憲法を標榜するには警察が武器を持っていることさえ矛盾になるのよ。警察予備隊とは正に日本の国外の不審者・凶悪犯に対して対抗するための機関で昭和25年7月にマッカーサーが吉田首相に要請して作らせ、これが今の自衛隊。だからアノ平和憲法はアメリカの管理体制の元で作られたものであるということをハッキリ銘記すべきなのよ」

「丸腰でない戦争放棄は、戦争放棄をしていることにならないと言いたい訳ね」

「そういうこと以上に、今でも、憲法一と九で意見が分かれるのは、まさしく、日本人の合意で作られたものでないという証になるわけ。他人が、その家の為にこさえた家訓を後生大事にしている家に繁栄がありますかって叫びたいのよ。――でも、私、ひとりが頑張ったって、どうなるものかって落ち込んじゃうね。子ども達の問い合わせの中に、日本人は絶対にいい人ですとか。僕は日本人であることに誇りを持

っています。なんていうメール虫眼鏡で探しても居ないんだから、だからユダヤ人に共鳴していく心理の中に日本人であることを逃避したい心理があるんじゃないかって――考え出してしまったのよ。教えるにしても、どう教えるべきなのか――」風子と佳枝は顔を見合わせると溜息を付いた。

風子が店の準備をしていると朝のラジオニュースで「イギリスのプレイヤー首相は15日夜、米テキサス州での米口首脳会談を終えて立ち寄ったニューヨークでテレビ番組に出演し、アメリカのプッシュ大統領との会談は大変有意義なものだったと強調しました。一方、ホワイトハウスに戻ったプッシュ大統領も記者会見でラーチン大統領との会談を聞かれると親指を上げて歓談の成果を語り始めました。その中で、日本政府に対して国債30兆円枠にこだわる事が世界経済に貢献するものなのか、今一度考えて欲しい。世界第二位の経済大国が10年以上足踏み状態なのは構造改革よりも景気浮揚対策に力をいれるべきではないかという点で、イギリスのプレイヤー首相と意見の合意を見たと報じました。この事から、本日の株式市場は活発な売り買いが交錯すると思われる」

「やったー」風子は心の中で叫んでいた。これで株価はダウ平均で2万円を超える、企業のマインドが変わる。少しずつ、雇用に感心がいくと風子は思った。風子に云わせれば景気より構造改革より、一番に優先すべきは雇用促進なのである。

これを受けて、昼のニュースでは、インタビューに答えるエコノミストと政府首脳のコメントが届いてきた。風子はハサミを握りながら、耳を傾けた。

国会の記者会見で大泉首相は

「プッシュ大統領から、直々に電話頂きましてね。このままだと、世界の経済の回転がね、左回りになってしまおうんでね。株価も順調に推移しているのが、乱気流になってもね。それでね、国債発行30兆円以下の枠にこだわらない展開をね。大胆かつ柔軟だからね。大いなる決断をしてね。スパッとね、バッティングホームを切り替えるような気持でね。やりますよ。景気浮揚なくして財政再建はあり得ないということだね」

竹本経済財政担当大臣も月例経済報告を関係閣僚会議終了後のコメントで景気の基調判断は

「先行きについても同時多発テロなどの影響もあり、正に、世界経済が同時進行で減速している最中のことであり、プッシュ大統領の意向に添えるようにしたい。しかし、これは構造改革優先路線の変更ではない」と強調しました。

甘川財務省大臣は

「そりゃーアレですね。総理が一時的に方針変更されたんですから、それでよかったんじゃないんかなあーと私は思いますよ

」

ミスターエンは

「ガッハッハ、ガッハッハ。アメリカが、そう出たのならしょうがないでしょう。大泉内閣は財政再建カードを優先すべきであってね。火急的措置で進むしかないね。しょうがないですね。アメリカの意向なんだから」

「これを受けて東京株式市場は現在、昨日より920円13銭高い19,111円89銭となっています。以上経済部からでした」

「風ちゃん、アメリカに言われると、コロっと変わっちゃうから、マイツチャウよね。コロだよコロ。構造改革優先はどうなったのよ」散髪していると客が掛けてある髪の毛をためるエプロンから手をだして、パチンコのノブを回す仕草をしながら言った。

「ほんとうですね。山ちゃん」山ちゃんとは、父親の時から来ている左官屋の山口という男だった。

気のいい男で風子が子どもの頃は、パチンコの景品を良く持ってきてくれた。

「有り難う。山ちゃん」と云うと

「いってコトよ。風子は将来、俺の嫁さんになるんだから。気にすんな。今度は家でも買ってやっからよ」と云うのだったが、その言葉を聞く度に気に病む風子であった。年は30才。5年前に結婚して子どもが二人居た。

「でもさ、物は考えようだよ。日本が景気よかったらさ、テロ事件でアメリカの金ないからさ。都合付けろなんて言われてさ。大泉さんテロ法案のときのようになってカッカしちゃったりしてさ。そういうのも困るしさ。大泉さんも難しい所よね」

「そうですね」

「アレっ、風ちゃんどうしたのよ、機嫌いいじゃん。どうして怒らないの。いつもならさ、頭から蒸気機関車のように湯気出して怒るじゃん。何で怒らないのよ。――ははん、出来たのか、これ」客はエプロンの隙間から手を出して小指を立てて見せた。

「そんな、汚い小指、見せないの」

「じゃあ、何で怒らないのよ」

「私はね。良かったと思っています。アメリカに利用されるだけじゃあ駄目ですよ。時には強気に利用しなくては、これで株価は2万円を超えますよ。パチンコばかりやってないで、株の方がいいかも」

「風ちゃんのそういうのあたるからな。何買ったらいい」

「私は株取り引きしたことないから分かんないですよ」

「風ちゃん、株やったら凄いだろうね。北浜の女帝と言われて大阪・ミナミの料亭のなんとかいう小母さんいたじゃあないか。神様に祈るとお告げがあって、その株を買うと上がるとかっというんで当時、証券会社も日参していたとかいう人。あんな風になっちゃー困るけど」

「確か3年前、12年の実刑判決を受けて服役中らしいですね。年は70才ですからキツイでしょうね。私は国が豊かで、個人は質

素で、だけど暮らしは特別に困らないというのが一番良いんじゃないかって思ってます」

「国が豊かで、個人は質素か、いいね。ソレにはどうしたらいいの？」

「万葉集の歌人、山上憶良（ヤマノウエノ・オクラ）の歌には子どもを詠んだ歌が多いんです。『瓜食めば子ども思ほゆ、栗食めばまして俣はゆ、いづくより来りしものぞ、眼交(まなかひ)にもとなかかりて、安寐(やすい)し寝(な)さぬ』意味は『瓜を食べれば子どもの事を思い出す。栗を食べれば子どもが愛おしい。子どもはどこからやってきたのだろう。子どものことが目の前に浮かんで、なかなか寝付けないなあー』という歌です」

「現代にも通じるね」

「でも、何ととっても、山上憶良といえど『白金も 黒金も 玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも』ー」

「ああ、それは知ってる。いい歌だよ」

「現代人は、子どもが一番の宝だっていうこと忘れてるんじゃないかしら。裕福でなくとも、子どもと一緒に暮らせる国であれば、私は幸せだと思うけどなあ」

「他にもあるの？」

「憶良らは今は罷（まか）らん子泣くらん そを負ふ母も吾（わ）を待つらんそ」

「どういう意味なの」

「現代語で訳すと味もそっけもないんですけど。『憶良は、もう退出しよう。子どもが泣いて待っていよう。その子の母も私を待っているだろう』っていう歌です」

「その子の母って。奥さんのコト？」

「そうですね。妻というべきところを、その子の母と詠んでいます。きっと奥さんは、寂しがっている子どもに、お父さんはもう帰ってくるからね。おとなしく、待っていきましょうねって何度も云い聞かせているんですよ。憶良はそんな情景を思い浮かべて、その子の母と詠んだ。夫婦の愛が子どもが出来たことで、父の愛、母の愛に変わる。子を慈しむ、何を於いても子ども中心の家族になっていっている様子が感じられます」

「なーるほど、そういう風にするんだ。『帰るべー、母ちゃん、ヒス起こして子どもが引きつってっといけなえからよ』じゃあ駄目なんだよなあー。最近だと『幼児虐待で、子ども死んでいるかも知れねえからよ、早く帰らないと俺まで同罪になっちゃうわさ』って帰るのとでは訳が違うよなあー」

「山ちゃん。奥さんに云いつけますよ」

「―――そういえば、この前、パチンコでスッテよ。二万五千円もよ。家に帰ったら、おっかあーは機嫌悪いし、子どもが纏わり付いてきたんで、五月蠅いっていったら、吹っ飛んじやって、頭、柱にぶつけて、3針縫ったな」

「何ですって！幼児虐待、もう一度、そんな話し聞いたら、丸坊主にして、眉毛もそり落としてやる」風子がカミソリを持って凄

い剣幕で山ちゃんの顔を覗んだ。

「まっ、待ってくれよ。もう、そんなことは、しやしないよ。―――し、し 白金も 黒金も 玉も 何とやら まさった宝
子にしねえーだ」

「違う、白金も 黒金も 玉も 何せむに まされる宝 子にし
かめやもだ。暗唱」

「―――白金も 黒金も 玉も 何せむに まさった宝 子にし
かめやも」

「違う、白金も 黒金も 玉も 何せむに まされる宝 子にし
かめやも。暗唱」

「し、し白金も 黒金も 玉も 何せむに まされる宝 子にし
かめやも」

「ようし、その言葉忘れるでない。肝に銘じておけ、あんな可愛
い子いじめたら、風がカミソリもって、そちの首はねてやる。
分かったか。渴、カァツ」

「はっ、ハイ。よく分かりました」風子は山ちゃんが手を合わせ
ても、カミソリを振りかざしたまま、肩で息をしている。山ちゃ
んは本当にやられるかも知れないと思った。―――この日、日経
平均は790円32銭上がって19,120円13銭となり1年9ヶ月ぶり
に19,000円を抜いた。

毎週金曜日に都庁で行われる石塚東京都知事定例記者会見に石塚が登壇して記者との質疑応答がなされていた。

――国会等移転計画ですが、これは首都圏の移転に繋がりますのでお尋ねします。

「色々な試算がありますけどね。20兆以上になる。バブルの時に東京都の土地がバカみたいになぎ登りでね。上がってしまった時の国会等移転計画だったわけだからね。過ちを改むるに憚る事なかれでね。あんなもんやめればいいと思ってますよ。経団連が景気刺激策として期待しているらしいけど景気を回復するには都心の空室に入ってもらって上げなくてはならないでしょう。国会等移転計画が進んだら、東京のオフィス需要が下がって、賃貸料が下がって景気は冷える一方になる。止めた方がいい。次だれかな？」

――景気低迷で再び石塚総理待望論がでていますが如何でしょうか？

「大統領制じゃないんだから、日本は成りたいって言って、手を挙げたってなれるもんじゃなしね。齢70を目指す年になってきているんだから、そうだ、この前、夢をみてね。裕次郎が一人でヨット乗っているんだよ。賑やかなことが好きな男だったけどね一人なんだな。どうしたって、肩、たたいたら一人じゃ寂しいよって云うんだよ。目が覚めてさ、アレは兄貴、早く来いよって意味だったのかと思ったりしたな――」場内から、記者の笑いが起きた。

「まっいずれにせよ。そりゃー、やっぱりね。まだ、都政がね、

暗礁に乗り上げている状態から脱しきっていないしね。まだ危ない訳よ。それに日本のG N Pの10%は東京ですからね。その時はタイタニックみたいに日本丸が転げるかも知れない訳で、二兎負うもの一兎も得ずでね。任期までは兎も角ね脇目も触れずに頑張りますよ。ああそうだ。構想としてね。こっちを先に言わなきゃあいけなかったんだ。都債を発行したいと思います。国債に対する東京都の都債ね。分かりやすく言えば石塚ボンドだね」

（ーコレには場内がざわめいた。寝耳に水であったからだ）

「石塚ファンドがね順調に推移してね。ロイヤルティも入ってくるようになった。一時はね、石塚軍団の応援でね。大泉ファンドを抜くくらいの勢いでしたけどね。それでね。腹に暖めていた構想を実現したい訳よ。ここんところ株価あがっているでしょう。でもね、東京都がだな、石塚ボンド発行してさ、ニッチもサッチも行かなくなったら、石塚ファンドが人気なくなってくるわけだ。せっかく良い制度作ったってさ、又、橋を掛けるときに一人でも反対がいたら掛けないなんていう知事が居ましたわな。そりゃ、やっぱりね都知事ボンドをね都知事ファンドが見つめている。都知事はね、その両方を見ながら今、都民がね、何を見て、何を考えているのかという視点をね。見定めていく能力が問われるでしょう。もう、都知事はねアホじゃあ出来まへんでー」

――その構想は、石塚ファンド構想の時に既にあったんでしょうか？

「そりゃーあったさ、一部マスコミや三流週刊誌が、ヤレ裕次郎シンドロームだとか、石塚軍団は中年キラーから老人キラーへと変更。まるで豊田商事みたいに書いたところもありましたよ。でもねこの時を待っていたのよ。純ちゃんもね、対抗して大泉でも、純ちゃんボンドでもいいからやればいいのかよ、兎も角ね、間接金融の預貯金からね、株式・投信・ボンドに切り替えていかないとね。総理みたいに、一喜一憂しないなんて云っていたら、アメリカさんだけに儲けさすことになってしまうんだから、いずれにしてもね。東京から日本を変えるというのがね。私の公約でしてね。まあ、楽しみにしていて下さい。ああ、それから大泉ファンドにね、チョット水開けられているんでね。余録があったらね。石塚ファンドお願いします。僕を総理にしたかったらね。協力してよと云うわけで、質問ある？」石塚がそういうと、大勢の記者から手が上がった。

――一國がやらないうちにボンド構想とは、これ如何に？という質問なんですけど

「だから、いつも、云っているじゃあないの、聞いてないの。国は何しているのよ国は、国がモタモタしているからさ、こっちがやらなきゃあならないのさ。次は？」

「ハイ」「ハイ」「ハイ」

「人気あるね。総理大臣なれるかな。はい、紅一点の貴女」石塚都知事は念願のボンド構想に氣勢があがっていた。

いつものように仕事を終えた風子は肩を叩きながら、リビングに現れた。二階から佳枝が慌ただしく駆け下りてくるとテーブルに並んだ魚を見て言った。

「珍しい、なんて魚？」風子が

「貴女、ナニジン？ 知らないの。鯛じゃあない」

「へえ、これが鯛なんだ」二人の娘の会話を笑いながら聴いていた母親は味噌汁をテーブルに置くと風子に

「どうして鯛なの」と聴いた。

「えっ、それは、何か、ええと」風子は椅子に座ると人差し指を額にもって行って考えたが分からない。

「今日は内親王様が、ご誕生された日じゃあない」二人の娘に母親が静かに言った。

「そんなことも、分からないの、風ちゃん、アンタ、いったい、ナニジン？」

「佳枝に云われたくないわ。アンタだって分からなかった癖に」風子がそう云うと佳枝は舌を出して首を窄めて見せた。

「オイ未成年、ビール出せ。今日はお祝いだ」風子が父親のように云うと

「風子、今日は特別の日よ」母親が風子をたしなめた。佳枝が嬉しそうにビールを出して

「今日は公明正大に飲める。内親王様、ご誕生おめでとう御座います」

「馬鹿ね、こういう時は、天皇皇后両陛下様に乾杯が先よ」風子はそう云いながら母親のグラスに半分ほどビールを注いだ。佳枝が

「天皇皇后両陛下様おめでとう御座います、皇太子様・雅子様おめでとう御座います。内親王様、お健やかにご成長下さい。乾杯！」

「乾杯！」

「乾杯！」三人はビールを飲むと、思わず微笑した。

「あっ、いけない」佳枝は立ち上がるとビールをグラスに注ぎ、それを大将の仏壇に備えた。

「ご免、お父さん」佳枝が神妙な声で言った。そんな佳枝を見て風子は自戒を込めて苦笑した。風子が母親を見ると、かすかに涙ぐんでいる。

「どうしたの、お母さん」

「浩宮様が産まれたときに、お前達のお爺さんが鯛を買ってきたことを改めて思い出したのよ。あの頃は生活が苦しかったから、鯛を見ただけで幸せな気持になれたわ。40年以上前になるわね」

「それで、今日は鯛だったんだ」佳枝が言った。

「お前達のお爺ちゃん。上機嫌で、夕食の後に私はお爺ちゃんの肩たたきをしたよ。お爺ちゃん、鯛には殆ど手を付けなかったからね。せめてもの親孝行だった」

「鯛、嫌いだったんだ」佳枝が言った。

「馬鹿ね、子ども達が多かったから遠慮したのよ」風子が言った。

「ゆとりがなかったからね。せめて子ども達だけでもと思ったんだらうね。鯛を食べるのを魚に焼酎やってたね」

「お爺ちゃん、無理したんだ」佳枝が言った。風子は父親はその時、どんなだったろうと思い、遺影の方に目をやると父の遺影が微笑んでいるように思えた。

その夜、風子は

風子は宮内庁のホームページに

お祝いのEメールを送信した。

内親王様お誕生の吉報に多くの参賀の人が集まり皇居にお祝いの記帳の列が続いているとの報道を聴いてウキウキした気分にならせて頂いて居ります。

王室制度の国は世界に28カ国あるそうですが、日本の天皇家は世界最古であり、万世一系のお家柄であることに国民の一人として大いなる誇りを感じさせて頂いて居ります。

天皇、皇后両陛下様、皇太子様、皇太子妃雅子様、内親王様の御誕生、誠におめでとう御座います。

この度の御慶事を衷心より厚くお喜びする次第です。

雅子様、内親王様とも産後のご経過は順調という知らせに頼がほころぶ思いは私だけではありません。

各地でバンザイを高らかに唱える人を見ていると、私の父も祖父もそうした思いで過ごしたことがあるのだらうという感情に浸ることが出来ました。

益々の御皇室の発展と弥栄を祈願してお祝いの言葉とさせて頂きます。

風子は続けて大泉にもEメールを送信した。

おじちゃん。内親王様、ご誕生おめでとう御座います。皇室行事に参加のおじちゃんの顔を見ていると本当に嬉しそうで、心が和みます。

皇室の外交は10万人の大使に勝ると云われますが、各国が協調していく共生の時代の中にあって揺るぎない親交を通して、日本人の家族、そのものを謙虚にお表しになっている天皇ご一家のお姿は、日本人だけでなく世界の人々の心にもさわやかな一陣の風であったと思います。

それにしても、内親王様、ご誕生を我が子が産まれたように、感激し喜びバンザイを唱える姿が放映される度に私は胸が熱くなります。それが何故なのか自分でも分かりません。皇室と共に歩んできた日本人であるDNAが血をたぎらせ感動させ、それは心地よい、そよ風に浸るような気持で、きっと先人もそうした思いで新しい息吹の命に喚起したのだろうという感慨で居ます。

世界が共生・協調の時代へと移行していく中で、御子様は成長され皇室外交は大きな成果を結んでくれると確信しています。こうした制度を作ってくれた偉大な祖先と共に祝杯を挙げたい気持です。

どうか、この千載一遇の好機を大いに生かして再生日本の舵取りを誤らないように頑張ってください。

最近はにこやかなドンキホーテ様へ

ご多忙の降り、身体にご自愛を

風で

した。

この日の後場が終わりそうな頃、秘書官が執務室に入ってくると「総理、おめでとう御座います。2万円超えています。今日は波乱がないので、このまま引けるでしょう」と言った。大泉が思わず両手を挙げてバンザイのポーズをしていると、別の秘書官が池谷サヨリが倒れると云うニュースを大泉の耳に入れた。その秘書官にどこの病院か調べさせると、神奈川の相模原の病院であることが分かった。運良く夕刻に箱根で静養している元首相の曾根崎が大磯に帰ってくるというので、内密に会うスケジュールがあった。それなら、東名に載って一旦、町田で降りて相模原に行つてからでも充分間に合うと秘書官がスケジュールを調整した。日経平均2万円越えで今日の株価が終われば上昇トレンドに弾みが付いて日本は完全に底入れといえる状況になる。池谷サヨリがキャスターを降りて、大泉ファンドを応援してくれたお陰で大泉ファンドは人気上昇してきて1400兆もの個人資産が株式市場・債券市場へと、少しずつシフトしていった。

池谷サヨリの行動に大泉は報いたい気持があった。秘書官に大泉は花束を用意するように言った。状態が分からないが眠っている時のことも考えて大泉はその時の為のメッセージを書いて秘書官に渡した。取り敢えず、その日の執務が終わると、秘書官が車の用意は出来たと云って来たので、大泉は車中の人となった。車窓から流れる景色が何だか心地良い。株価が上がると気分が軽くなると思っていた。東名高速道路を降りたところで、秘書官は池谷サヨリの携帯に電話をすると云って電話を掛けだした。知らぬ間に池谷の携帯番号を調べておいたらしい。本人が出たといって携帯を後部座席の大泉に渡した。

「大泉です。今、大丈夫ですか。――そう、それは良かった。随分ご無沙汰をしまして、池谷さんとは代議士依頼お会いしていないから――今、貴女のいる病院に向って居るんですよ。――勿論、貴女のお見舞いの為にですよ。――どうして分かったかって、それは秘密です。――そうですね。あと40分くらいで着くと思います。。――貴女の顔を見てね。握手をしたいんだ。――お化粧？――分かりました。ソレじゃあ切ります」大泉は携帯を切ると

「急いで化粧するから、長話は出来ないって、入院しているのに化粧していいのかな」大泉がそういうとSPが

「すっぴんと云うわけにいかないんじゃないんですか。それにしても秘書官、どうして池谷サヨリの携帯番号知っているんですか？」

「それは言えません。企業秘密で池谷サヨリの行動に大泉は報い

たい気持があった。秘書官に大泉は花束を用意するように言った。状態が分からないが眠っている時のことも考えて大泉はその時の為のメッセージを書いて秘書官に渡した。取り敢えず、その日の執務が終わると、秘書官が車の用意は出来たと云って来たので、大泉は車中の人となった。車窓から流れる景色が何だか心地良い。株価が上がると気分が軽くなると思っていた。東名高速道路を降りたところで、秘書官は池谷サヨリの携帯に電話をしようと云って電話を掛けだした。知らぬ間に池谷の携帯番号を調べておいたらしい。本人が出たといって携帯を後部座席の大泉に渡した。

「大泉です。今、大丈夫ですか。――そう、それは良かった。随分ご無沙汰をしまして、池谷さんとは代議士依頼お会いしていないから――今、貴女のいる病院に向って居るんですよ。――勿論、貴女のお見舞いの為にですよ。――どうして分かったかって、それは秘密です。――そうですね。あと40分くらいで着くと思います。。――貴女の顔を見てね。握手をしたいんだ。――お化粧？――分かりました。ソレじゃあ切ります」大泉は携帯を切ると

「急いで化粧するから、長話は出来ないって、入院しているのに化粧していいのかな」大泉がそういうとSPが

「すっぴんと云うわけにいかないんじゃないんですか。それにしても秘書官、どうして池谷サヨリの携帯番号知っているんですか？」

「それは言えません。企業秘密です」車内に笑いが漏れた。大泉は車窓から見えだしたネオンに暖かいものを感じていた。それに

しても、相模原も高いビルが増えたものだ。不況の中にあっても、景観は変わっていると思っていた。

――

病院に着くと、大泉は秘書官とSPと三人で、静かに病院の階段を上がっていった。

エレベーターでは人目に付きやすいと思ったからだ。池谷サヨリは個室だったので病室では、気を遣わずに済むと思いながら大泉は階段を登った。先頭のSPがこの部屋ですという部屋をノックすると、扉が開いて中から女の子が出てきた。

「こちらは、池谷サヨリさんの病室ですよね」

「そうです」女の子は大泉の顔をドア越しに見ると、少し驚いた様子であったが、大泉が来ることを知っていたようで

「お入りください」といって三人を中に案内した。しかし、SPだけは病室の中には入らず、ドアの外に立っていた。

「総理」池谷サヨリが透き通った声で言った。ほんのりと薄化粧をしている。先ほどの女の子は珈琲を立てているようだった。池谷の横に椅子が用意されている。池谷は二人に椅子を促した。

「取り敢えず、お見舞いの花を、池谷サヨリさんに愛を込めて」
大泉は真面目な顔でそう言うと、池谷は首を竦めてから

「嬉しい。大感激。メッセージ付きですか。お帰りになってから、涙ながらに読ませて頂きます」

「それほどの名文じゃあないが、その方が照れずに済みます」

「けいちゃん。お願い」池谷がそう言うと、さっきの女の子が、小走りにきてその花を受け取ると

「有難う御座います」と深々と頭を下げた。

「お嬢さん？」大泉がそう云うと、女の子はサヨリを見た。サヨリが女の子の頭を愛おしそうに撫でた。

「はい」サヨリが女の子に変わって言った。

「やっぱり、そうか。サヨリさん譲りの大きな目だから、直ぐにそう思ったんだが、けいちゃんだから、名前はけいこちゃんかな」

「恵む子の恵子です」女の子が言った。間もなく女の子は珈琲が気になったのか踵を返すと走って行った。大泉はサヨリに

「いい、マネジャーさんですね。何年生？」と聴くと

「5年生なんですよ。大人びているから中学生に見られるですけどね。ー たった今まで本当のマネジャーが居たんですよ。後は娘が居るからって帰って貰いました。総理のファンですからね。お見舞いに来て頂けると伺って携帯で知らせようと思ったら、その携帯を忘れていってしまって、ホラ」サヨリの視線を向けた方を見ると、飾られている花の側に携帯が置いてあった。池谷サヨリは美人キャスターで人気があったが、夜の番組のキャスターを

始めてから夫と行き違いの生活となり一年前に離婚している。間もなく、珈琲が運ばれてきた。秘書官は珈琲だけ受け取ると女の子に席を譲り自分は邪魔にならないように窓際に立った。それぞれが一口飲むと、顔を見回せて微笑した。

「美味しいな、恵ちゃん。まるで高級喫茶店にでも行って飲んでいるようだよ」恵子も嬉しそうな微笑を見せると母親を見た。

「恵ちゃん、びっくりしたね。それで駆けつけて来たんだ」大泉がそう言うと。恵子の目が涙で滲んできた。小学5年の女の子が母親倒れると聞いたらそれだけでショックなのに、池谷サヨリの場合はテレビでも報道されるから、余計にショックだろうと思った。

「そうだよね。小父さんはね。恵ちゃんのお母さんに助けられて、それで今日はお見舞いにきたんだ。お母さんがキャスター降りて、大泉ファンドの応援をしたいと言った時に恵ちゃんが、応援すると云ってくれたお陰で日本の株価が上がりだした。小父さんは恵ちゃんにも感謝しなくちゃあいけないな」大泉は恵子の頭を撫でながら云うと、サヨリが

「遅くなりましたが総理、雅子様が内親王様ご出産されて、株価2万円突破おめでとう御座います。2年半ぶりですってね」

「本当にね。お世継ぎの心配が国民にありましたからね。国民の喜びようを見ているとジーンと来るな。2万円突破の裏には貴女とか恵ちゃんのような人がいる。人の情けが嬉しいですよ」

「お母さんは頑張ったけど、私は特別に何もしていないから」

「そんなことはないよ。お母さんが、こんなに頑張れたのは、恵ちゃんの応援があったからだよ。そうでしょう」大泉はサヨリに相づちを求めた。

「そうよ。恵ちゃんには、このところ寂しい思いばかりさせているもんですからね。今日は病院のベットだけど二人で一緒に寝ようねって」

「そう、それはいい、兎も角、2万円は念願でしたからね。本当に陰ながら私は感謝していました。でも、こんな時でないかね。本当の気持ちは言えないものです。池谷さんのご活躍はテレビでいつも見ていたんですよ。経済は理論じゃないって、つくづく感じましたよ」

「浩太郎さんとは、コンタクトを取っていたんですよ。あちらは10代、こちらは30代から70代迄の主婦ですからね。たまあには、ジョイントしましょうよって」

「随分と男の人も写っていましたよ。池谷さんは改めて男性に人気があるって感心しましたよ。テレビは怖いですよ。隠せませんからね」

「恐れ入りました」

「それより、私は現場を見られないので、気が付いたことがあったら、浩太郎にビシビシ云ってやって下さい。何かあってからで

は遅いですから」

「—大丈夫、もしかすると総理より、ずーと、落ち着いているかもしれませんよ」池谷がそう言ったのは以前に大泉が池谷サヨリの番組に出たときに、セットに転んだことが2度あった。池谷サヨリは大泉にそそっかしいんですねと言ったら。いいえ貴女の番組だけですと言ったら、それはどういう意味ですかと目くじらを立てられたことがある。それで

「憧れの女性に会えたら、男はあがるもんです」と答えると池谷サヨリの目くじらが消え頬が赤らんだのだが、慌て者だという印象は払拭できなかつたらしくて、池谷はそれ以来、大泉を慌て者と思っているフシがあった。

「ところで、総理、この前テレビを見ていたら、総理が女性代議士に謝罪されていたでしょう」

「切り込み隊長にね」

「フッフッフー、私ね、素敵だと思いましたよ。レディに対して失礼な言葉を云ってしまったと謝罪されたのには、ねえ恵ちゃん」

「素敵でした。私のクラスの男の子も見習って欲しいです」

「イヤあ、参ったな」大泉は頭を搔いた。

「女って、ああいう言葉に弱いんですよね。肝心の切り込み隊長も心なしか、いつもより静かになられていたわ。御子息様に、お父様ってフェミニストなのねと言ったら腑に落ちない表情で小首を傾げていたわ。息子さんの知らない総理の一面なのかしら。それとも、どなたかのお知恵じゃあないかしらって詮索していましたのよ。だって、総理に近い人で、そんなデリカシーのある人って思い当たる人が居ないんですもの。あっゴメンなさい。でも、もしかして女性？あっ、これは失礼。フッフッフー」サヨリは秘書官の方を見ながら言った。

「人間は複雑な動物ですよ。私にだってフェミニストの部分があります」大泉は何とか話題を変えようと必死で言った。有り難いことに、それ以上キャスターの池谷はツッコミを入れなかった。

「でも、アレは効果的でしたよ。私の後援会でも、大半の女性がアノ場面を見て、大泉さん。素敵って、家の馬鹿亭主に爪の垢を煎じて飲ませたいって、大泉ファンドの10%はあのヤリトリで稼いだと思いますよ」

「それ以上に、池谷サヨリさんの人気によるところ大です。何と云っても深夜の中年のアイドルが協力してくれたんですから」

「アラっ、私にもフェミニスト。でも嬉しいわ、日本で一番の男の方にそう云って頂けるのは、女冥利。フッフッフー」

「ハッハッハー」

「恐れ入りました。ところで、入院中もお勉強ですか」大泉は池谷サヨリのそばにあるノートパソコンを見ていった。

「このサイトは？」

「これは、私の先生のようなサイトなんですよ。ミーちゃん、ハーちゃんではなくて、インテリジェンスの若者に密かなブームのサイトなんです。この前、後援会でジョイントしたときに御子息様が見ていたんです」

「浩太郎が？」

「ええ、いいサイトなんですよ。若者に今、一番人気のあるWEBサイトでブルースカイって云うんです。その中に私の好きなエッセイがあって。――クリックしてみますから。総理にも読んで貰いたい個所がここなんですけど、画面では眼がつかれますからアウトプットしておきました」池谷はそう云うと、大泉にドキュメントを手渡した。

「この前の日曜日に、青少年向けのフォーラムがあって、そこで、このエッセイの話しをしたら、想いの他好評でした。ある高校生が、太平洋戦争というと、従軍慰安婦・南京大虐殺という言葉がちらついて、日本を尊敬できないけど、今の話しを聞いて、少し考え方が変わったって。実はね経済を普通の言葉に置き換えるにはどうしたらいいのか。茶碗を洗いながらの人に洗濯物を片づけている主婦にどう語るかは重要だったんです。私の訴える手法のお手本なんですよ。恵ちゃんもその人のこと以前から知っていて」

「学校では教わらないことを教えてくれる人です。クラスの子は、その人の顔を知らないので美人かブスかで論争しています」

「そう、有難う後で読ませてもらいます」

「是非、お読み下さい」

――――

車に戻ると、大泉はサイフを開きながら秘書官に言った。

「悪いけど、君、もう一度、サヨリ嬢のところへ行ってくれないか、そして恵ちゃんに私から恵ちゃんへお小遣いだといって渡してくれ。本当は品物がいいんだが、何を買ったらいいかも分からない、これで頼むよ」大泉の手渡した現金を秘書官は受け取ると鞆を開け祝儀袋に何やら書き出すと、間もなく車を降りて行った。

「そうだ君、帰って来るまで悪いけど、あの街路灯のところで止まってくれないか」大泉に云われると運転手は車を蛍光灯のある街路樹で止めた。大泉は池谷サヨリから手渡されたドキュメントが気になって早く読んでみたい衝動に駆られていたのだった。

中学校の社会科の時間に教師が、ここに、お結びがたった一個あり、その周りに是非売ってくれという輪が出来れば、お結びは一個千円になるが、誰も見向きもしなければ一個10円でも売れない。これが経済の法則であると言った。はたして--と私は思った。そうであるのなら最大のインフレーションが起きて然るべき状態は、日本の近年では、アノ太平洋戦争時ということになる。私は図書館に行って調べることにした。先生の言ったことが事実であるとすれば、アノ時には物価は上がっていなければならな

いと思ったからだ。しかし、物価が上がったという語句は見つけだせなかった。それで、教師にその話をしたら、教師は戦争には経済理論は通じないと、とりつく島がない。そんな馬鹿なことではない。本当の理論は如何なる場合も適応しなければ成らない筈ではないのか。ソレに、むしろ飢餓状態の戦争中であれば絶好の理論の実験場となってしかるべきではないのかと考えたのである。物価は上がるどころか、いくら調べても、奇跡的に敗戦まで一定して不動であったのだ。どうしてなのか。あの時代こそ一個の銀斜里物語があちこちに存在して経済の法則を実証出来る絶好の飢餓の時代であった筈であるのに――しかし、この奇跡的経済をやったのけた日本人の歴史が日の目をみないのは不思議ではないか。そこで私は、私なりに結論を導き出した。日本人は戦争時、兎も角助け合っていたのである。お互いにギリギリの生活の中にあって、自分だけ、良い思いをしようとする人は皆無であったのではなかったか。強靱な精神力を一致団結・一丸となって有していたという証明ではないのかと思ったのである。

「ホウ」

それでは、どうしてこのことが研究の対象にならないのか、それは戦後、日本が自虐的な国民となり、民主主義と社会主義という容易に分かる主義主張の台頭で、自国の誇りとか日本人に産まれて良かったという素朴とした素直な感情が生き方の中に流れていないからだろうと思うのである。でも、私は日本人の末裔として、このことは若者であったなら、知って置かなければならないことだと強く思っている。大泉総理は国民に大泉ファンドに1%の資金誘導を負託した。今、凄い勢いで大泉ファンドは残高を増やしている。私は一個の銀斜里物語の末裔として、このことを誇りに思っている。多くの若者に歴史の隠れた真実として、日本の各地で一個の銀斜里物語を私達の先人は形成していたことを一人でも多くの日本人の若者に知って貰いたい思っている。

アウトプットしたドキュメントの上に、サイト名とコーナーの名前が書いてあるが、そこにも『風に吹かれた子ども』とある。やはり、これは風子のエッセイだったのだ。風子のエッセイが池谷サヨリにも影響を与えていたのかと思って大泉は大きく一息付いた。

「総理官邸の秘書官の方から電話が入っていますが」運転手がそう云って自動車電話の受話器を大泉に渡した。

「ありがとう、ハイ、大泉」

「総理、曾根崎先生が体調を崩されて、箱根から大磯に向かわれていたようですが大事を取って箱根に戻られる途中だそうです。それで今日の約束は取りやめることにしたいと、只今、秘書の方

から電話が入りましたが」

「こうメッセージしてくれないか――先生がお元気になりましたら、日を改めてお会いしたいと、申ししていたと、先生には、お身体をご自愛頂きまして、充分静養されることをお祈りいたしますと。伝えてくれないか」元・総理の曾根崎は大泉の派内抵抗勢力を重鎮の貫禄で取り仕切ってくれていた。行政改革断行の裏で真に日本の行く末を案じていた曾根崎も株価2万円越えを聞いてホットして疲れが出たのであろう。曾根崎といい、池谷サヨリといい。憂国の士は株式の繁栄を見て、つかの間の休息を取ったのだと大泉は思った。

「――どうなさいますか総理、この後は？」 そうだ、もう一人の憂国の士は近いところに居る。風子の店に行こうと思い立った。

「君、悪いが横浜線の渚野辺の駅方向に向かってくれないか」病院から秘書官がこちらに向かっているのが見えた。

「そうだ。君たち、夕食まだだったな」

「総理は？」

「私は、車に乗る前に、軽く取ったんだ。悪かった気が付かなくて」秘書官は車に乗ると

「恵子ちゃんから、総理にです」大泉の手のひらに折り鶴が載せられた。赤い鉛筆で、

『総理様、これからも日本の国の為に頑張ってください。お小遣いありがとうございます御座いました』

大泉は思わず微笑した。車が動き始めた。

「佳枝、お母さんと途中まで一緒に出かけるから、お店の後かたづけお願い。時間がないの。手が空いたら、井上さんに送信しておいて。それじゃあ、お母さん用意できた？」慌ただしく出ていく母と姉を送り出すと、佳枝は直ぐに店の清掃に取りかかり終わると二階の風子の部屋に入っていった。

井上憲司 様

満州事変の首謀者、関東軍の参謀・石原莞爾は西洋文明を代表するアメリカと東洋を代表する日本との間で世界最終戦争が起きるといふ強い思いこみから満州事変を起こす訳ですが、石原は、見誤った解釈をしていたと思います、第二次大戦の根底にあったのは自由主義と共産主義のしのぎ合いだったからです。世界が経済の時代に突入していく過程でアメリカが好景気に沸いたのも東の間、1929年10月24日、後に暗黒の木曜日と呼ばれることになるニューヨーク株価大暴落で自由主義経済のもろさを世界が知ったことから、共産主義を標榜する人達が出てきたのです。第二次大戦のきっかけはニューヨーク株価大暴落だったことに石原はもっと目を向けるべきだったと思います。日本は主義主張の国ではないのですから、所詮、主義と主義との西洋のイデオロギーの覇権争いに東洋なる国の日本は不戦必勝の構えで吉田松陰の飛耳長目の精神に徹して情報を集めるだけ集め、日本の取るべきカードが見つかるまで不動であるべきでした。ベルリンの壁の崩壊、ソ連の崩壊で世界は自由主義になると論評した評論家でしたが、異議があります。夜の闇があるから、昼が際だつように、ソ連の闇が崩壊したら、全てが自由主義になるというのは、余りにも

安易です。タイムラグは生じますが、ソ連の崩壊で自由主義も又、陰りが出てきています。石原が解いた西洋文明と東洋文明が、これからのパラダイムなのです。

アメリカは世界の金融ビジネスをITで牛耳ることで経済を復活させました。日本は独自経済システムの商社を持っており、これとITとで物作り日本を強固なものにして行かなくてなりません。物作りは軍事用・民生用・産業用に大別されますが、利益率が高くても軍事用はアレルギーがあるから駄目、民生用は中国が1/30の人件費で大量生産出来ますから省かれます。残るは産業用それも高度付加価値の製品を作らなければなりません。無から有を作り上げるには強い精神力が要求されます。日本は起業家の育成に力を入れるようですが、又しても、アメリカン・スピリッツが特別に利いたスパイスを振り掛けるような姑息な手段に出るのではないかと不安です。日本の起業家のパイオニアは坂本龍馬で、アノ時代に大海原に繰り出して世界を股に掛けた貿易を志した龍馬の精神こそが起業家精神の根底になければいけません。安政の大獄がなければ吉田松陰と坂本龍馬（松陰が5歳上）は旧交を温めあう時が訪れ、実現していれば日本の歴史は大きく様変わりしていたでしょう。

太平洋戦争は飛耳長目の吉田松陰を手本とすべきところを逸脱してしまいました。これからの時代は飛耳長目の吉田松陰と坂本龍馬の海援隊の精神を学ぶ必要性があります。松陰の周到な知恵と龍馬の燃えるたぎる情熱を知った若者を輩出していくことが急務なのです。自分の為に頑張るのは限界があります。国を思い人を思う気持ちから行動を考えると目先の利益に奢ることがなくなり、起業はいずれ企業となって行くこととなります。政府の頭には起業家という精神の後に企業家育成がなければ成らないのに、いつもこの国の指導者は肝心なところが無策で抜けていて嫌になります。借りてきた子猫状態の日本の男は米国に対してだけ何を言われても頷くだけの空威張り男で。太平洋戦争のアノ時代、不戦必勝どころか猫がまるでライオンと勘違いしたような日本の男の個性を入替られたらと――半世紀前の吠えまくるライオンを連れて来て。そうして手は出さず、アジアからという視点を鑑みた立場で、せめて口だけ出して貰えればバブルもバブル崩壊もなかったのではないのかと思うのです。

さて、坂本龍馬を如何に輩出すべきかですが、それは龍馬が身分差別に泣いた人生の反動で優秀な人材であれば身分など関係ないアメリカに憧れたことを、現代に置き換えると、学歴偏重、仕事の出来ない政治家・官僚の打破、規制撤廃、世界的な遠視眼的発想ということに尽きます。後、私の意見を注入させて貰うと、起業して成功をした人に、3つの共通点があります。一つは、徹底した

健康管理、2つは祖先を崇拜し尊ぶ精神、3つ目は、通常の人より

遙かに国を意識した生き方をしていることです。どうして、この3つが共通しているのかはリサーチしていないので論評できませんが、一応お含み置き頂ければと思います。兎も角、仕事の出来る未来を読む人材育成が急務で、これこそが本当の構造改革です。大泉総理の有償でパソコン配布は、子ども達が個人・個人銀行へ行って融資を申し込む姿がテレビで報道され、起業家育成のプログラムが少しずつ進んでいる事の現れで明るいニュースです。しかし、それでもスピードが遅すぎます。最大に問題なのは、小・中・高校でパソコンを教えられる教師が全く居ないという現実です。マスコミも殆どこのことを問題にしていませんが、これは重大な問題です。中高一貫教育が不況の最中で論議されなくなりましたが、アンナもの、私は大反対です。政府は不況からの脱出ばかりに目を向け、景気が良くなった時の対策を一切講じていません。直ぐに人手不足の時代になります。それもITという分野で顕著に現れるでしょう。ITは所詮ツールです。学んでいたのでは到底追いつけません。専門に特化してITを考えるシステムが必要で義務教育は既にその弊害になっています。少しでも世の中に早く出すことが専門に特化してIT技能を磨く事となり人材不足・人手不足を解消。

人生の実質稼働時間が増えれば、いい仕事をする為にはパートナーが必要となり、結婚観にまで良い影響が出てきます。現代人の100%は人生の1/3を教育機関で過ごしましたが、これといった人材が出ていません。ビル・ゲイツは大学に行かなかったから、偉大で、高校中退して自分の思う道を突き進んだから大成功したのです。大学にうつつを抜かしていたら、今日の栄光はありません。専門に特化させる為には人生の実質稼働時間を増やさなければならない。その為には義務教育さえ撤廃して、塾と学校の垣根をなくし、教育界こそ規制撤廃、自由競争にすべき根元機関だと思っています。前述したように政府は誰も景気が良くなると思っていない。本当に良くなると思っているのであれば、人手不足対策に一考あって然るべきです。仕事ができる人に勉強が好きな人は少なく。アインシュタインもエジソンも坂本龍馬も司馬遼太郎も、だから偉大でした。ツールが時代を変える先兵です。将来、学校は情報交換の場が変わっていくでしょう。それもフリーパスで必要な時に必要なことをその道に専門家から聞けるようなシステムになっていくと考えます。井上さんがお考えになっている。パソコンで講義を受けるシステムは、正に先見の明ありです。

詳細を記したいのですが、ごめん、時間がない、続編は近日中に私も協力しますから

ご健闘を

風子

大泉は風子の店の近くで降りて一人になると、玄関のインターフォンを押した。

「大泉です」

「総理の！――佳枝です。チョット待ってください。あっ、今、参ります、しばらくお待ち下さいませ」大泉は苦笑した。――間もなく、風子の妹の佳枝が顔を見せた。

「ああ総理、風ちゃん忘れたのかなあ、お出でになるのを」慌てたあと、困ったように佳枝は大泉の顔を見て言った。秘書官以下は、大泉から連絡がくるまで近くのファミレスに待機させたのだったが

「いや、アポも取らず、今日は急に来たもんだから」

「まあ、どうぞ」佳枝は大泉を、家の中へと導いた。

「生憎、風ちゃんは都内に行ってしまった」

「お母さんは？」

「今日は、句会の集まりで、出かけました。近くだから、時期に戻ってきます」

「句会とは、風流だな」

「佳枝ちゃんは、カット出来る？」

「私は見習いで、まだ免許皆伝じゃないんです。その内、母が帰って来ますけど」

「佳枝ちゃんて構わないさ。少しカットしてくれないか。句会の後で髪をカットするのは風流じゃあないから」

「私でいいんですか、総理を、問題になりませんか？無資格者なんですけど、後でショッピカないで下さいよ」

「気が引けるなら、実験台、モルモットということでもいいよ」

「そうですか、それでは免許皆伝ではありませぬが、ご無礼つかまつりまする」

「ナニブン、よしなにお願い申す。ーハッハッハー。髪は、こと決めて居るんだから、私はね大将からの客でね。このヘアースタイルだってー」

「分かっておりまする。亡き父上に存分に伺いましたでござる、ーどうぞお店に」佳枝は大奥の腰元のようにして店に大泉を向かい入れた。大泉は微笑しながら、上着を脱ぐと、椅子に掛けた。

「佳枝ちゃんは時代劇、好きなのかい」

「ええ、まあ 先週、風ちゃんと歌舞伎座に見にいきました。風ちゃんが商売のことで相談にのってあげた人が居て、お陰で付いてきたからって歌舞伎の券くれたんです」佳枝は嬉しそうに準備をしはじめながら言った。

「風ちゃんお金貰わないからね」

「そうなんです。ところで総理いいことあったんですか」

「どうして」

「だって、身体が軽そうだから」佳枝は大泉の髪の長さを測りながら言った。

「流石、風ちゃんの妹だけのことはあるね」

「いいえ、私は単なる凡人です。風ちゃんの才能の少しでも私に

あればって、オウ、神は吾を見放したもうたかって」佳枝はハサミを入れだした。ハサミも音が心地よく大泉に聞こえてくる。

「そんな事はない。神は風子という女性の元に佳枝という娘を授けた。私は神は偉大だと思っている」

「ええーそうですか、何だか、そういうこと云われちゃうと、お金貰いにくいな」

「えっ、免許皆伝じゃあないのに金取るつもり」

「えっ、もしかして、払わないつもり、明日、大見出しで新聞に出ますよ。無銭飲食だって」

「食べちゃあ、いないよ」

「そうか、こういうのって何て云うんだろう」

「それじゃあ、免許皆伝ではないから理髪代はマズイ、お小遣ということで手を打とうよ」

「なんか、いいですね。そういうの、総理大臣と談合したみたいで、偉くなった気分だ」

「チョット、談合とは違うんでナイノ」

「ああ、そうだ。総理、おめでとう御座います。内親王様ご誕生、皇太子様と雅子様の内親王様だから、きっとお綺麗で知的で世界の人からも喜ばれるような、お方に成られますよ」

「ほんとうだ。これからが楽しみだよ」

「そして日経平均2万円突破」

「ありがとう。風ちゃんや佳枝ちゃんのお陰だ。ところでお姉さんどうしたの？」

「今日は、あしなが協栄会に行ってます」

「あしなが協栄会？」

「不況で父親が借金を苦に自殺した子どもさんとか、親が交通事故死した子どもさんとか、阪神大震災で親をなくした子どもさん、それから、親が大病を患って子どもが看病しても、逝ってしまった遺児達のボランティア団体です。全国でそうした子ども達は12万もいるそうです。特に父親を借金苦でなくした子どもは、急増していて、『あしなが協栄会』に奨学金を借りて高校に進学する生徒の数が増えているとかで、あしなが協栄会が2000年度に採用した高校奨学生のうち、父親らが自殺したケースは144人で、1998年度の約7倍。2001年度は約半年で既に112人に達していて、過去最悪となるのは確実だそうです」

「そう」大泉は言葉がなかった。

「親が倒産やリストラなど経済的な理由で自殺した子どもを自死遺児と云うんだそうです。風ちゃんは協栄会の事務局の人の依頼で行ったんです」

「風ちゃんなら、彼らも慰められるだろう」

「それが、総理、違うんです」佳枝がハサミを止めて言った。

「違うって？」

「風ちゃんは傷を癒しに行くんじゃないって。傷は自分でしか癒せないって云っていました」

「それじゃあ、何をしにいったの？」

「私、風ちゃんは違う事を考えているんじゃないかって思うんです。だって風ちゃんは色んなところから誘いがあっても滅多に出かけない人なんです。しかも、こんな夜の遅い時間には特にそ

うなんです。煙草とネオンと都会と一緒に成るところは好きではありませんから」

「そうすると何の為に」

「もしかするとですけど、でも、違っているかも知れないし、それに総理には良いずらいな」

「今は総理じゃない。単なるおじちゃんだよ」

「――風ちゃんは、政治家を育てようとしているんじゃないかって思うんですよ。時代を恨んだパワーを活かせるんじゃないかって思っている節があるんです。人間って順調に推移している幸せの最中には考えないんですって。逆境とか苦境とかの時にパワーが出せるかどうかは浮き沈みの分岐点だと云っています。自死遺児は普通の人100倍、父親を死に至らしめた世の中を考えた筈で、その思ったことを世の中に還元しようと気が付いたときに、自分で解決する糸口になるって云っています。自分と同じ思いをさせないためにはどうしたらいいのかって」

「政治家か」

「風ちゃんは代議士二世とタレントだけでは弱すぎると、いつも云っていますから。それでと思ったんです」

「風ちゃんは哲学者だな」

「フッフッフ。――風は複雑な個性の持ち主なんです」

「どうした？」

「総理は父親代わりでしたよね」

「そうさ。ところで、その総理はなんとかしてくれ、国会で総理、総理と叫ぶ民社党の女を思いだして胃が痛くなるから」

「私は総理って呼びたいんだけどな、だって、こうやって総理の髪、やってると、総理より偉い気持ちになれるもの」

「勘弁してよ。総理と云ったて、実体は片づけやさんの掃除大臣なんだから。それより風ちゃんの話しだ」

「ああ、そうでした。じゃあ、話しておいた方がいいのかな」

「それはそうさ」

「風ちゃん。愛の告白をされたんです。でも私から見ても、みっともないくらいオタオタしちゃって、恋愛に関しては、まるで小学生なんです。他人のことは場外乱闘に持ち込まれても、リアットで一撃なんだけど、自分のこととなると、からっきし駄目なんだから、恋愛は大の苦手みたい」

「場外乱闘は、割ってでも入るくらい強いのにね」

「私、凄い姉さん持って幸せだなと思う時と、こんなアホ姉さんイヤだなと思う時と、まるで別人の姉を二人持っている心境なんですよね」

「それは、いいことだよ」

「どうしてですか？」

「そこで風ちゃんはバランスが取れて居るんだ。私は風ちゃんのそういうところが好きなんだよ。佳枝ちゃんは普段は妹でいいが、そういうときは風ちゃんの姉さんに成った気で――いや、駄

目だな、それでは喧嘩になるな。風ちゃんのお婆さんになった気持で暖かく見守ってやるんだね」

「やだ、私、もうじき18才ですよ。ええと、死んだおばあちゃんが生きていたら、ええと85才ですよ。イヤだ」

「そう云うな。天才の姉さんを癒すのは佳枝ちゃんしかいないだろう」

「じゃあ、私は誰が癒してくれるんですか」

「私でよろしければ」

「ほんとに」

「私は二人の娘の父親ですよ。佳枝ちゃんに彼が出来るまでは、老いぼれですがー」

「老いぼれてなんかいませんよ。髪はふさふさだし」

「白い毛の入ったふさふさだけどね。でも、ありがとう」

「こちらこそ、宜しく願います」大泉と佳枝は鏡の中で微笑しあった。

それにしても、風子とは不思議な人物である。風子ほどの器量なら、幾多のビジネスモデルのWEBサイトを立ち上げて商売することも出来るだろうが、その気はなく生業は理容業と決めているようであるし、これほどに経済や政治を論じるから、代議士の道を考えているのかといえそうではない。仮に大泉の方から、憲民党から立ってくれないかと言ったら、風子はどう云うだろうか。微笑した後、二度と大泉にはアドバイスをしないかもしれないような怖さを感じる。

本来、風子はジャンヌ・ダルクのように旗をもって、先頭を走るタイプではない。むしろ、表面には立たないで良人の檜舞台を裏で支えるような、現代女性にはなくなった希少な昔の女を思わせるところがある。もしかすると、風子は大泉が代議士に立ってくれないなどとは云わないだろうと見抜いていて、自分に協力してくれているのではないのだろうかと思った。――風子の後々を大将から大泉は頼まれている。大将が大泉に託したかったのは、風子が女性として平凡な幸せな結婚をして、人並みの幸せを得ることだったに違いない。それは親としては当然の願いであろう。しかし、余りにも非凡な才能をもって産まれた風子に大将は、平凡な幸せが来ないかも知れないと悩んだ。だが、もっと重要なことは、これは大将も気が付かなかった事かも知れないが風子のような女性は、ひっそりと静かなところで生きていった方が良いのではないのか、表に出て消耗させては風子の個性は活かされない。――しかし、今の世の中であって、風子にスポットライトが当たらないようにすることは難しい。――どうすれば

、いいのか。――兎も角、永く生きて欲しいものだ。そう思って、不吉なことを思ったものだと大泉は慌てて――かぶりをふった。

その時

「あっ、雪だ」佳枝の声に驚いて眼を開けると、佳枝が鏡に向かって眼を輝かせている。

「今、雪のように見えたんだけど。見間違えたかな」佳枝は大泉の掛けた青いエプロンを取り散髪した髪を手帚で払いのけながら言った。大泉も鏡に映った窓の景色に白い、ひとひらを確認すると

「雪だよ！少し寒いと思っていたら、雪じゃあないか、今、カーテンの隙間から白い物が見えたぞ」佳枝は、ハサミをおくと、窓際に行って片膝を待合い室のソファに載せてカーテンを少し開け、そうして見上げながら言った。

「ああ、雪だわ――凄いの、急に降り始めたんだ。綺麗、――風ちゃん帰れるかな」佳枝は、サッシの中央にある半円形のノブを回して窓を開けると手を差し出した。

「おじちゃん。綺麗な雪ですよ。父さんが亡くなった日も、清めてくれるような雪だったけど。その時より雪が濃いみたい」佳枝の無邪気な様子に大泉もつられるように椅子から立ち上がると窓際に行った。そして佳枝の頭に手をやると。撫でながら

「本当だ。綺麗な雪だ。父さんの時も雪が降ったのか」と言った。二人は侵入してきた。冷たく白い空気を吸い込んで心が身震いするのを感じていた。

「綺麗だけど、雪って少し怖いような気がするな。風ちゃん。帰

れるかな」佳枝が大泉の顔を見て言った。大泉も片膝をソファに載せて空を見上げると、街路灯が風子の店を白く包み込みながら染めていく白い雪を上から照らし初めていた。

完